

3.2.23

171

宣治四十二年(一千九百九年)十月五日至十日

# 開教五十年紀念講演集 附祝典記錄

宣教開始五十年紀念會委員



324-166

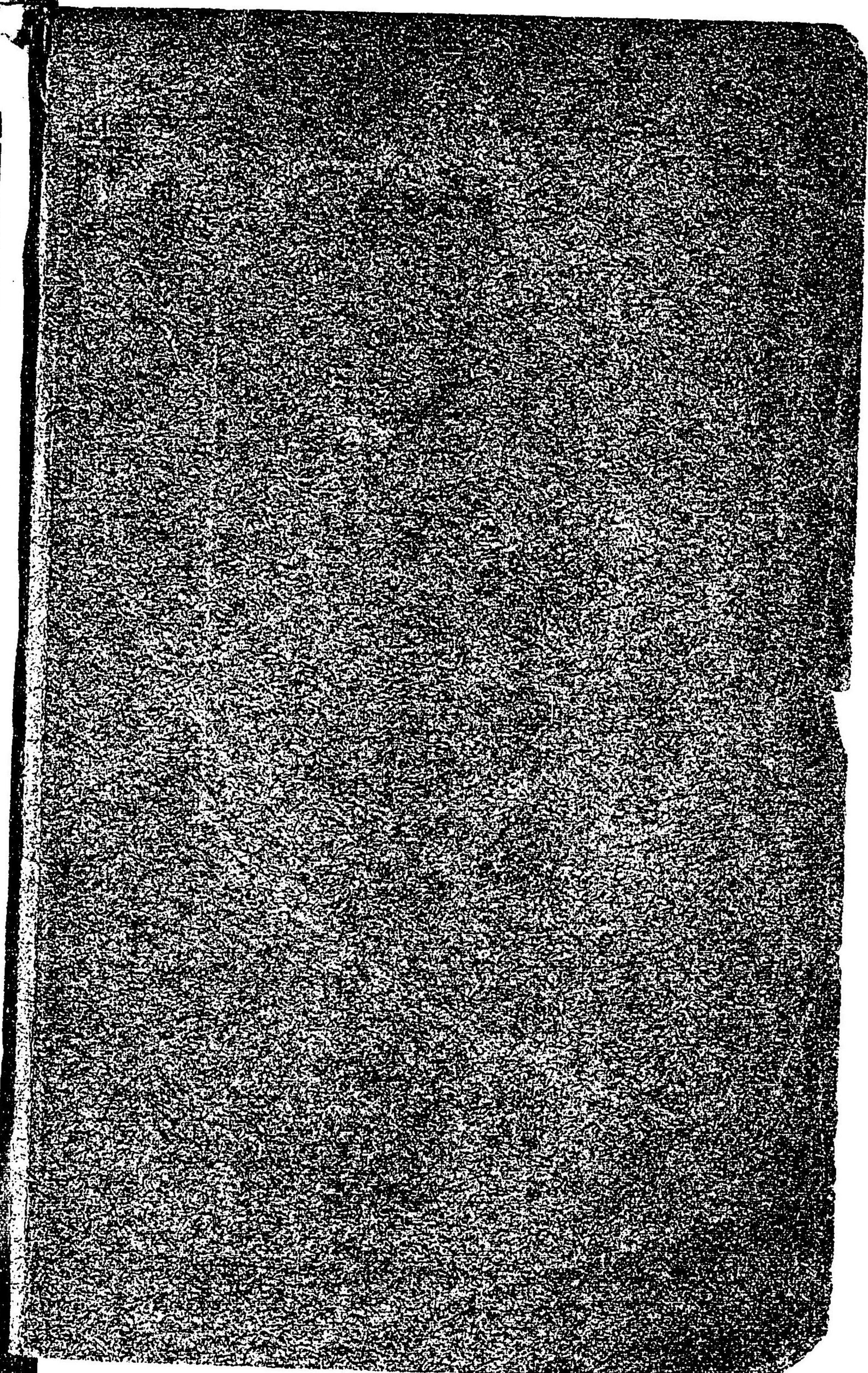
明治四十二年（一千九百九年）十月五日至十日

# 開教五十年紀念講演集

## 附祝典記錄

宣教開始五十年紀念會委員

48. 2. 24





## 緒言

明治四十二年は最初の宣教師が我國に渡來してより五十年に相當するが故に同年に於て宣教開始五十年記念會を開く可しとの義は明治卅九年の始め頃よりして宣教師諸氏の間に唱へられたる所である。而して何人が之が發起人となりて斯る會合を催ふべきやは最初に起つて疑問である。一方に於て隣國なる支那に於て催ふされた宣教開始百年記念會の如く宣教師が主人公となり宣教師團體が専ら之に當るべしと爲すものあれば、他の一方に於ては日本の教會をして之を發起せしめ日本人をして専ら之が經營の事に任せしむべしと主張する人々も少くなかつた。明治卅九年の末に至り協同ミッション團體の方にては此の問題に付き遂に委員を擧げて福音同盟會の役員に交渉し何人が發起人となり如何にして此記念會を開くべき乎を相談せしむる事になつた。依て福音同盟會は明治卅九年十二月十七日に評議員會を開き星野光多、平岩愼保、小崎弘道の三氏を擧げて、協同ミッション團體の委員イムブリ、クレメント、フイツシャアの三氏と共に此記念會を開く方法に付き協議せしむる事に決した。此の内外六名の委員は再三會合し先づ此記念會を内外協同にて開くの方針と定め、次ぎて此記念會に於て何を爲すべき乎、及び之を開く時日場所等を定め、明治四十一年一月十四日に福音同盟會評議員會を開き委員會の經過を報告しその賛同を求め更に同年七月二十七日に同評議員會を開き之が準備委員として右三氏の外に本多庸一、井深梶之助、元田作之進、吉川龜、河合禎三、高野丈三、稻沼鑄代



太の七氏を挙げたが、此より先き協同ミッソレ團體の方にては右三氏の外デビス、オルチン、ニュウトン、ハリス、シユネーダア、タツカアー、リッ、ハワルドの八氏を舉げて之が準備委員となした。同年十一月に至り山本邦之助氏を加へ内外各十一名宛の委員となし、此廿二名の委員を以て之が準備に當らしむる事となした。同年十一月十三日に内外の全委員會を開き全委員長、プログラム委員、記念品展覽會委員、會計委員等夫々役割を定め着々此が準備に取り掛る事となつた。最初の計畫にては明治四十二年五月始に開く積にてあつたが、到底準備の餘日足らざるべしと云ふを以て十月初旬に延期する事となつた。

此の記念會は最初は頗る大なる希望と信仰を以て迎へられたるが、中頃に至り何故乎、此がイントレスト薄らぎ失望するもの多く委員の中にも此が成功を危むもの少くなかつたが、實際之を開くに當り來會者も多く、殊に協同一致の精神盛に起り、何れの會合も盛況を呈し、凡ての點に於て豫想外の好結果を收めた事は委員一同の感謝置く能はぬ所である。

此緒言を終るに當り吾人は此記念會に對し深厚なる同情を寄せられたる諸教會、諸ミッソジョン、諸有志に向て感謝の意を表すると共に凡てのものを司り凡ての事を聖旨のまゝに行はせ給ふ父と子、聖靈なる三一の神に向て讚美と感謝の辭を捧げざるを得ない。

明治四十二年十一月中旬

宣教開始五十年記念會全委員長

小崎 弘道 識

### 編者のはしがき

一 大なる希望と深き興味とを以て待ち設けられし宣教開始五十年記念會は、明治四十二年十月五日より同十日まで六日間、東京基督教青年會館に於て舉行せられたり。當時内外教師及び男女信徒の遠近各地より來會せるもの豫想外に多く、殊に秋晴打續き、六日を通じて集會を重ねること無慮十五回、辯士の數は約九十の多きに上り、每會の聴衆に至りては五六百乃至千二三百を以て算し、且つ演説、講演等頗る有益にして、興味津々として盡きず、熱誠燃ゆるが如きものありしは、職として多くの日子を吝まず、銳意之れが準備に盡されたる全委員諸氏の功勞に由らずんばあらず。而して該記念會に於て最も著しく發揮せられたるもの一は、蓋し「共同の精神」なりしならん。今左に録する所は、講演の筆記(大方は讀者の校閱を経たるもの)及び翻譯と、諸集會進行の次第等なり。而して之れが編纂に際しては、特に細心の注意を拂はんことを力めたれども、編者もと筆硯に嫻はず、隨て遺漏、誤謬又は不備の點少からざるべきを恐る、講演者及び讀者乞ふ幸に諒恕せられんことを。

一 「過去五十年間に於ける日本婦人の進歩と其事業」と題する同志社女學校長エム、エフ、デントン嬢の趣味ある論文は、數回の交渉を重ねて、懇請遂に容れられず、之れを本書に收むることを得ざりしは、編者の極めて遺憾とする所なり。



一 本書は傳道史上の好記念物たるべきを信じ、其編纂上特に計畫せし點なきにしもあらざりしが、其紙數豫定に超過する事二百頁の多きに上り、且つ、經費の許さざるものありしが爲めに、乍遺憾之れを放棄するの已むなきに至れり。

明治四十二年十二月下旬

編纂主任 鵜飼猛誌







委員長  
小崎弘道

記録委員  
嶋銅猛

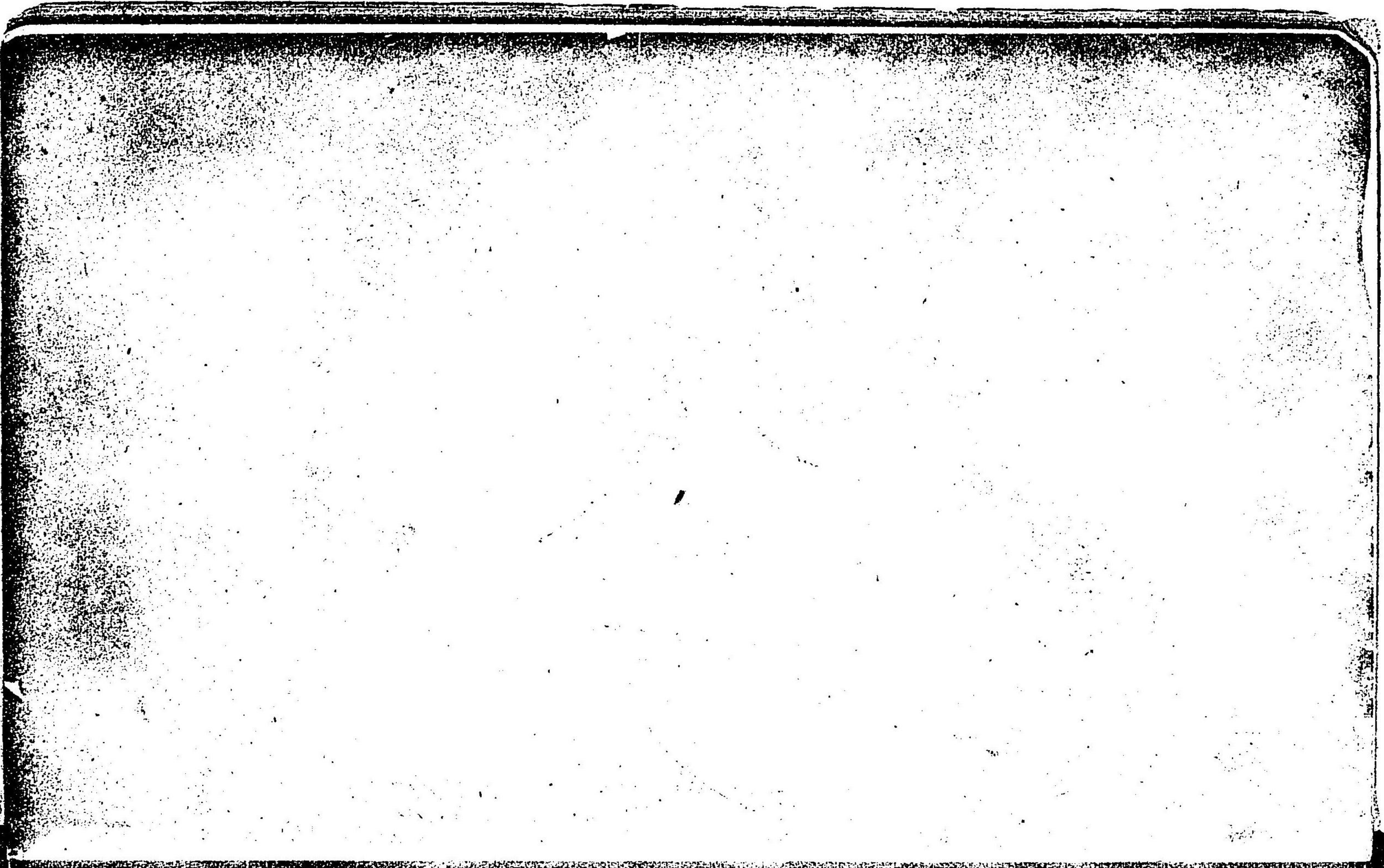
記録委員  
嶋崎庚午郎

本誌は編纂史上の好記念物たるべきを信じて、其編纂上特に注意せしめんとし、其内容も亦その趣に  
其紙数原定に超過する事二百頁の多量に上り、且つ、経費の計りざるものありしが爲めに、乍ら  
れを放棄するの已むなきに至れり。

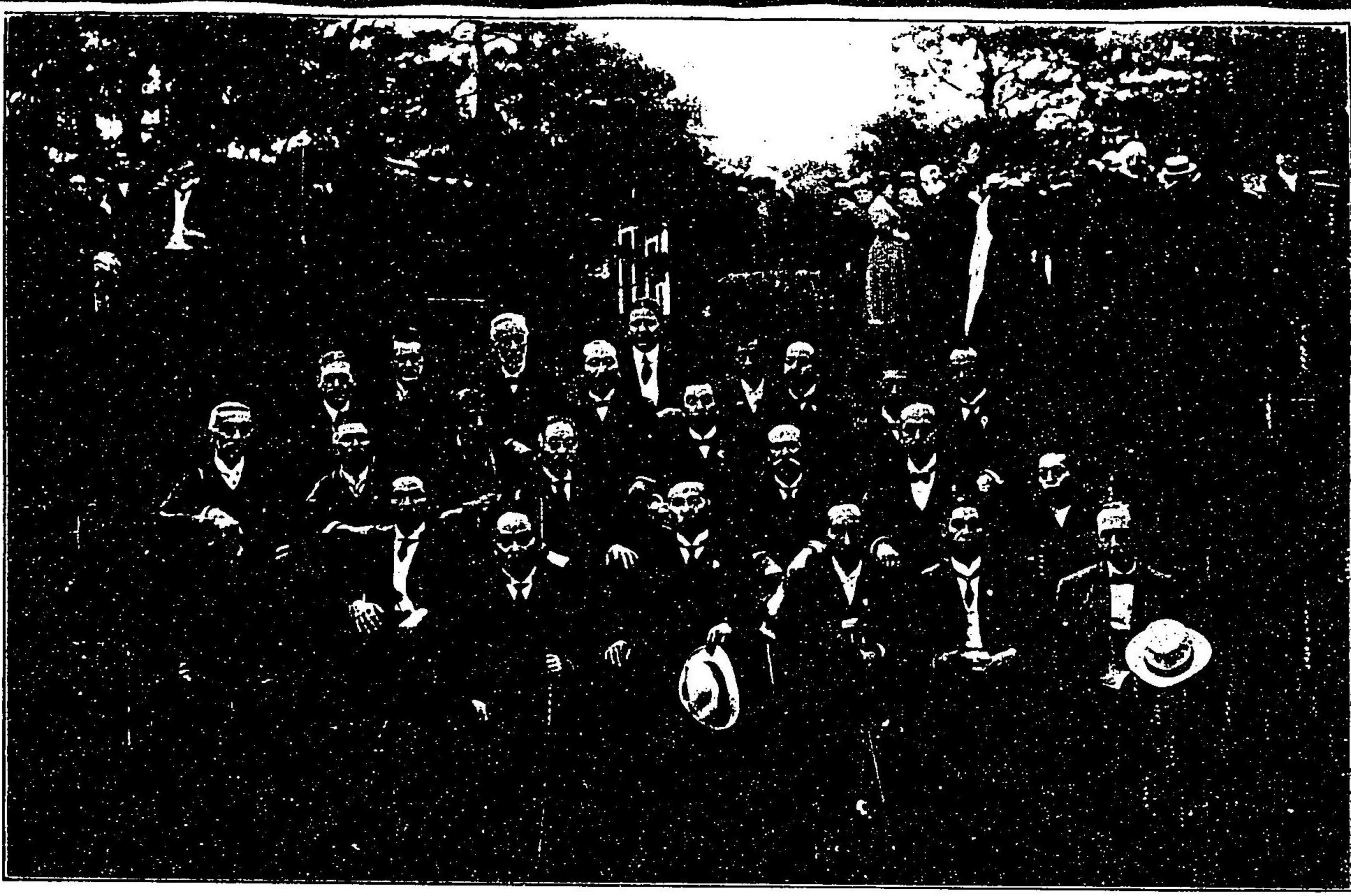
明治四十二年十二月下旬

編纂主任 嶋銅猛誌





(中列右より)  
 別所梅之助。稻垣信。本多庸一。越前孫。非深樵之助。高野丈三。川川大吉郎。  
 イー、アール、ミラー。



(後列右より)  
 山本邦之助。小林富次郎。河合頼三。中島力三郎。エー、テイ、ハワード。  
 シェー、デー、デビス。シー、エチ、デー、フィシャー。エー、デー、ペリー。

宣教開始十五年記念會全委員

。多光野星。進之作田元。道弘崎小。保愴岩平。七雄野熊。太代崎沼。ーリブムイ、ムアリイウ (りよ右列前)





會遊園會念記年十五始開教宣  
(て於に邸氏那六原山殿御川品)



Vertical text at the top of the page, possibly bleed-through or a header.

第四列右より

マツコロー夫人  
J、B、ヘール  
伊藤藤吉  
星野光多  
小崎弘道  
J、H、バラ  
櫻井照憲  
服部章造  
マケチア夫人  
エム、シー、ハリス  
J、D、アビス  
大儀見元一  
アビス夫人

第二列右より

ア、イ、タムソン  
タムソン夫人  
W、イムブリー  
E、R、ミラー  
ミラー夫人  
井深規之助  
C、ビシヨツフ  
ビシヨツフ夫人  
M、N、ライコツフ  
ライコツフ夫人  
ミス、ヤングマン

前列右より

W、T、オーステン  
瀬川 浅  
田村直臣  
本多磨一  
小川義経  
ブランド夫人  
J、C、アピソン  
アピソン夫人  
J、H、アフォレスト  
アフォレスト夫人

第五列右より

F、クトル、ホイトニー  
O、H、D、フィシャー  
フィシャー夫人  
T、M、マケネア  
ミス、ミラケン  
ミス、ウエスト  
ウヨンス夫人  
E、H、ウヨンス  
高野丈三  
石厚保太郎  
橋本陸之  
三浦 敏

第三列右より

D、C、グライン  
村上俊吉  
J、O、マフ  
平岩愷保  
相原英賢  
A、D、ヘール  
ミス、スベンサー  
チャヘル夫人  
稻垣 信



第二部 職員  
 部長 三浦 正  
 副部長 田中 健  
 主任 山本 隆  
 副主任 佐藤 昭  
 委員 鈴木 一  
 委員 高橋 三  
 委員 渡辺 四  
 委員 伊藤 五  
 委員 山崎 六  
 委員 田村 七  
 委員 佐々木 八  
 委員 渡辺 九  
 委員 山崎 十  
 委員 田村 十一  
 委員 佐々木 十二  
 委員 渡辺 十三  
 委員 山崎 十四  
 委員 田村 十五  
 委員 佐々木 十六  
 委員 渡辺 十七  
 委員 山崎 十八  
 委員 田村 十九  
 委員 佐々木 二十

第三部 職員  
 部長 三浦 正  
 副部長 田中 健  
 主任 山本 隆  
 副主任 佐藤 昭  
 委員 鈴木 一  
 委員 高橋 三  
 委員 渡辺 四  
 委員 伊藤 五  
 委員 山崎 六  
 委員 田村 七  
 委員 佐々木 八  
 委員 渡辺 九  
 委員 山崎 十  
 委員 田村 十一  
 委員 佐々木 十二  
 委員 渡辺 十三  
 委員 山崎 十四  
 委員 田村 十五  
 委員 佐々木 十六  
 委員 渡辺 十七  
 委員 山崎 十八  
 委員 田村 十九  
 委員 佐々木 二十

第四部 職員  
 部長 三浦 正  
 副部長 田中 健  
 主任 山本 隆  
 副主任 佐藤 昭  
 委員 鈴木 一  
 委員 高橋 三  
 委員 渡辺 四  
 委員 伊藤 五  
 委員 山崎 六  
 委員 田村 七  
 委員 佐々木 八  
 委員 渡辺 九  
 委員 山崎 十  
 委員 田村 十一  
 委員 佐々木 十二  
 委員 渡辺 十三  
 委員 山崎 十四  
 委員 田村 十五  
 委員 佐々木 十六  
 委員 渡辺 十七  
 委員 山崎 十八  
 委員 田村 十九  
 委員 佐々木 二十



師教外内の職在上以年五十二滿





スミアリイウ督監

士博ンキヘ

士博ンウラア

士博キツメルフ



開教五十年記念講演集附祝典記録目次

緒言

感謝會

開會演説

感謝

懷舊實談

障害の除却

感話

祝會

五十年の回顧

五十年の回顧

第一講演會

基督教々育の結果

神學博士 ジェー、エチ、バラ……………一頁

監督 本多 庸一……………一五

村上 俊吉……………二六

神學博士 デー、タムソン……………二九

稻垣 信……………三二

小崎 弘道……………三四

神學博士 W、イムブリー……………四五

エー、ピートルス……………五五



次	目
基督教々育の前途	神學博士 井深梶之助……六九
教役者の養成	原 田 助……七五
圓滿なる教役者の養成	深田直太郎……八三
教役者の養成に就て	神學士 松本 益吉……八四
日本に於ける基督教々育の情態及結果	クレメント……八六
神學校教育の理想	今井 壽道……八九
小規模の高等専門學校	エフ、エヌ、スコット……九一
基督教主義の大學	哲學博士 笹尾 衆太郎……九四
政府認可の基督教學校と宗教	O、H、B、ウード……九六
<b>第二講演會</b>	
基督教文學	柏 井 園……九八
基督教文學に關する吾人の問題及び計畫	神學博士 S、L、ギユリック……一〇九
基督教文學	神學博士 鶴崎 庚午郎……一二四
聖書改譯意見	G、プレスウエート……一二六
基督教文學	加藤 直士……一二九

次	目
所感	別所梅之助……一三一
基督教文學の必要及其供給の方法	フランク、ムラー……一三二
基督教文學に就て	竹崎 八十雄……一三六
基督教文學に付て	田村 直 臣……一三八
<b>第三講演會</b>	
日本の倫理宗教思想及國民生活に及ぼせる基督教の感化	海老名 彈正……一四二
日本の倫理宗教思想及國民生活に及ぼせる基督教の感化	農學博士 新渡 戸 稻 造……一五五 法學博士
日本の教育並に文明に及ぼしたる宣教師の功績	理學博士 藤澤 利喜太郎……一七五
<b>第四講演會</b>	
婦人傳道學校	イー、タルカット嬢……一九六
婦人傳道者に就て	パンベテン夫人……二〇一
教會に於ける婦人會	本 多 貞 子……二〇三
婦人傳道者の地位と其事業	ハトグレイブ嬢……二〇五
女學校生徒の日曜學校事業	デフォレスト嬢……二〇七
未信者に對する傳道事業	稻 垣 末 子……二一九



次	目
未信者に對する傳道事業	ピアソン夫人 二二三
ミッシヨン女學校	エヌ、ゲインズ嬢 二二六
ミッシヨン女學校	エス、エー、ソール嬢 二三五
ミッシヨン女學校に就て	エー、ジー、ルイス嬢 二三七
開教五十年以來宗教事業としての幼稚園及び小學校の略史	和久山 キソ子 二四二
普通女學校の學生間に於ける傳道事業	フィリップス嬢 二五二
基督教文學	ジー、ポーカー嬢 二六二
<b>第五講演會</b>	
社會改良 (イ) 矯風會、救濟、工場事業	小崎 千代子 二七二
社會改良 (ロ) 病院、孤兒院、小兒預所	林 歌 子 二七七
矯風事業に就て	ストラウト嬢 二八五
<b>第六講演會</b>	
基督教と社會的觀念	哲學博士 元田 作之進 二八九
基督教と社會改良	監督 エム、シー、ハリス 二九六
基督教と社會改良	山 室 軍 平 三〇〇

基督教と禁酒 ..... 安藤 太郎 三三五

**第七講演會**

次	目
教會事業	神學博士 平 岩 愷 保 三三七
教會事業	多 田 素 三四八
教會事業	植 村 正 久 三五九
禮拜に就て	河 合 堯 三 三六二
禮拜	アル、イ、マカルビン 三六五
説教に就て	稻 沼 鑄 代 太 三六七
説教に就て	G、F、ドレーバー 三六八
個人傳道	石 黒 猛 次 郎 三七三
個人傳道	デー、ノルマン 三七五
日曜學校事業	鵜 飼 猛 三七九
日曜學校に付て	神學博士 デ、エ、モ リ 三八一
財政の獨立	エス、イー、ヘーガー 三八三

**第八講演會**



傳道事業	星野光多	三三八
市内傳道	河合禎	三三九
地方傳道	神學博士 小方仙之助	三九四
田舎傳道	神學博士 エー、デー、ヘル	三九七
集中傳道	波多野傳四郎	四〇〇
大舉傳道	貴山幸次郎	四〇三
青年傳道	山本邦之助	四〇五
内海島嶼に於ける傳道事業	F、C、ブリッグス	四〇八
九州に於ける傳道開始と讚美歌に就て	瀬川	四一一
<b>第九講演會</b>		
基督教と慈善事業	留岡 幸助	四一五
民權及信教自由に於ける基督教の影響	神學博士 デフォレスト	四三九
民權及信教自由に於ける基督教の影響	島田 三郎	四四九
<b>第十講演會</b>		
過去及將來に於ける宣教師の事業	山本 秀焯	四八二

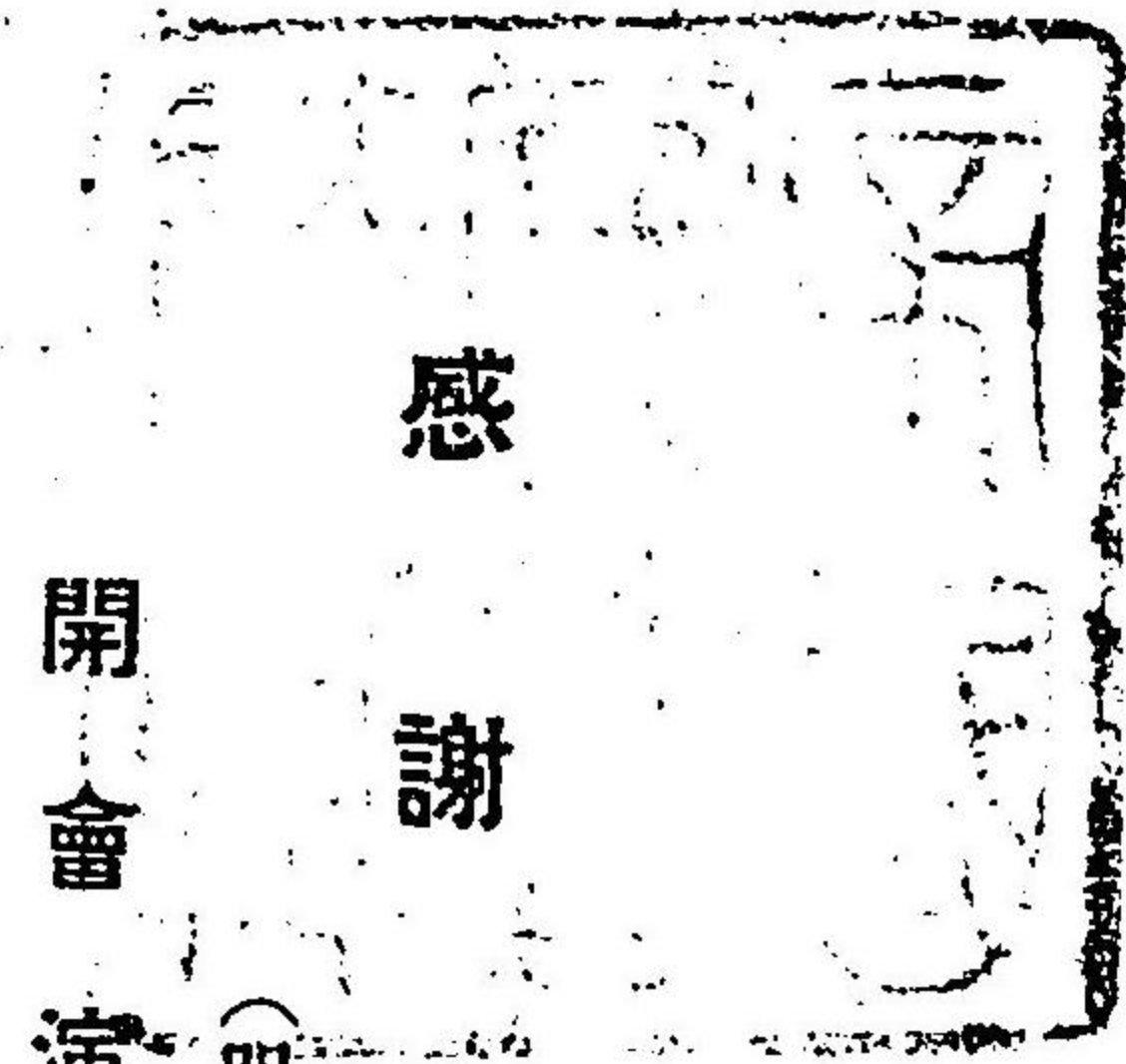
將來に於ける宣教師の事業	ダン ロッ プ	四八六
過去及將來に於ける宣教師の事業	網島 佳吉	五〇〇
過去及將來に於ける宣教師の事業	監 者 本 多 庸 一	五〇六
過去及將來に於ける宣教師の事業	T、H、ヘーデン	五一三
日本に於ける宣教師事業の將來	神學博士 ジェー、デー、デビス	五二三
過去及將來に於ける宣教師の事業	植村 正久	五三一
<b>禮拜説教</b>		
人を漁る者及び其漁り方	宮川 經輝	五三三
<b>祝典記録</b>		
宣教開始五十年記念會執行順序		五四八
大隈伯祝賀演説		五六一
桂内閣總理大臣祝詞		五六五
小松原文部大臣祝詞		五六五
阿部東京府知事祝詞		五六六
尾崎東京市長祝詞		五六六



米國長老及美以兩教會外國傳道局祝電	五六七
費府フレンド外國傳道協會代員祝辭	五六七
米國リフオームド教會外國傳道局代員祝辭	五六七
決議文各種	五七七
圖書及參考品保存委員姓名	五八一
其他一切の記録	
以上	

# 開教五十年記念講演集

附祝典記録



## 感謝會

### 開會演說

(明治四十二年十月五日午前九時開會)

神學博士 ジエームス、エチ、バラ

私が現在日本に在住する最も高齢なる宣教師といふ譯で、又一二の人を除けば、私が日本に在住してゐる最も高齢な外國人であるといふ譯で、此喜ばしい場合に開會の辭を述べるやうに選拔されたのであると推察します。私の後には五人の兄弟が待つてゐてになる。私はその人々の語るべき權利を奪ふことを欲しませんが、簡單に話しゃうと思ひます。



此真に記念すべき時に當つて、我々の感謝の心を現はすに適當だと私の感じた聖書の二つの句があります。一つは舊約の中にあるバラムがモアブ王バラクに與へた豫言である。バラクはイスラエル人民がまだ約束の地に入らないうちに彼等を阻はうといふ考で、バラムを呼び迎へたのですが、バラムは神の啓示によりて、却てかう言つてイスラエル人民を祝したのです。「ヤコブには魔術なし。イスラエルには占卜オウラカあらず。神はその爲す所をその時にヤコブに告げイスラエルに示したまふべし。」(民數紀 零二三〇二三)

第二の句は新約の使徒行傳の中にある、異邦人のために遣はされた大使徒パウロが囚人となつてプテヲリの港より羅馬に向つて赴かんとする旅行の記事の中に記載されてある語です。「ロマの兄弟等我等の事を聞き我等を迎へんためにアッビーボロム及び三館トリノといへる處まで來りしかば、パウロ之を見て神に謝し且其心勇みたり。」

以上の二句を擴大して之を説明し、且之を我等の現在の事情に適合せしめんには、猶ほ深き注意を要します。しかし今はたゞ第一の句は神が神御自身のために驚くべき事業を爲したまふことを我等に注意せしめ、第二の句は神が其僕たちの精神の上に同様の驚くべき事業の効果を與へたまふことを我等に注意させるものだと言ふことを知ればそれで充分です。

初の句に特に注意してあるのは時である。「其時に告げらるべし。」又その註には「好時期に」とある。改

訂された原文には「今告げらるべし」とある。簡単に言へば、神の目的に反抗する何んな努力何んな惡の諸勢力が呼び求められても、神につける人々の究極の勝利は確實不可疑である。かくの如くにして、凡ての觀察者をして讚嘆の聲を發せしめ、神が行ひたまふ事に驚嘆の情を禁ぜざらしむるのである。多くの年月を経て、追放の身であつたイスラエルの人々がバビロンの囚虜トウバより歸つた時に經驗した喜びは實に之であつた。「その時エホバかれらのために大なることをなしたまへりといへる者もろくの國の中にありき。」之に喜んで答へた彼等の言葉は「エホバ我儕のために大いなることをなしたまひたれば我儕は樂めり」といふのでした。(詩一二六)

此の國の統治者の二三がエホバに逆ひ、愛荷者に逆らひてなした長い間の頑固なる抵抗を考へて今爰に善良なる政治及び宗教の確實なる自由の行はれてある現代を思ひますれば、その政治的、知識的、宗教的の準備時代は頗る長かつたが決して無益ではなかつたのであります。確かに我々は此の豫言を現代に當て符めて最も敬虔なる心を以て「神のなし玉ふ所何ぞ偉大なるや」と云ふ事が出來ます。日本の最初の米國の公使タウセンド、ハリス卿は晩年牧師エス、アール、ブラウン博士に書を送り日本の封建制度より立憲制度に至る過渡時代を評論して「神の爲し玉ふ所何ぞ偉大なる」と叫ばれました。キリスト教の政治家たるハリス卿が自ら目撃した日本の政治的革命に感動されたとすれば、まして幾十萬の日本人の中に、又國民の心裡に遍く起つてゐる知識的、道德的革命を目撃した私共は之れ實に



真正の復活である『死より甦つた生命である』と思はざるを得ないのであります。諸の國民や社會や各個人を準備する爲めに神の不思議なる力が働か玉ふ事日本の社會ほど顯著なるは他にないのである。國民の過渡時代に於て神が用ゐて善事をなさしめ玉ふ一團體又は一個人を起し玉ふ事日本の如きは他に見ないのであります。日本の多くの變遷を自撃し、且つよく之れを知つてゐまする私も亦熱心な感謝の情を以て『只獨り大なる奇蹟をなし玉ふ者』(詩三四〇四)に向つて同じく『神のなし玉ふ所何ぞ偉大なるや』と言はしめてもらいたいです。

(一)日本以外に起つた近代の最大なる事件は米國內亂の結果と思ひます。此の内亂の起つた時私は丁度日本に向つて出帆したのであつた。私はよく記憶してゐますが所謂基督教國と云ふものに奴隸が存在してゐると云ふことは知力の進んだ非基督教國民に福音を宣傳するに際しては、非常な障害物であると思ひました。併しながら幸にも大統領リンコソンの解放令と戦争の結果とは、亞弗利加人の血統をひいた八百萬の人民に自由を與へたので、私はこの苦痛より救はれたのである。是と同時に、『全地の審判者』にして且つ凡て壓迫された者の擁護者である神の曲げられぬ正義と公平とは、南軍北軍共に免かれることの出来なかつた激烈な戦闘と生命財産の損失との中に現はれたのです。

(二)米國の奴隸解放について、凡ての西歐國民の中に驚くべき變化が起りました。數ヶ月の帆船の航海、數ヶ月過ぎねば届かぬやうな郵便の代りに、郵便、電信、海底電信、無線電信による通信、海陸旅行

の方法や其迅速なことその心地よい事凡て皆全く變つて來ました。その變化は他の東洋諸國にも行はれたやうに、幸にも又現在日本にも行はれてゐる。凡て是等の事は明かにダニエルの預言が全うされたのであると言ふべきである。(十二〇四)百年前、アイザック、ニュウトンの發見は、『多くのもの行きわたらん。而して智識増すべし』といふこととなつたのである。『宣傳へんとして限りなき福音を持つる空飛ぶ天使』(黙十四〇六)を畫いてゐる黙示録の幻の中に、我等は、地上の凡ての國民に向つて、『神の國の福音』は迅速に傳へられ、確かにこの世界は非常な速力で基督教化される預言を見出すのであります。

(三)日本以外に存した、かういふ障害物が取去られたと同時に、日本其ものに存した障害物も取去られたと言ふことは、更に驚くべきこととあります。私は四十八年前の十一月十一日に日本に到着しましたが、到着した際已にかういふことが私の心に現はれて來たといふことだけは言へると思ふ。第一の障害物は多數の佛教の宗派と佛教僧侶の能く整へる階級であつた。神道や儒教は固より看過されてゐなかつたが、日本國民の大多數に占めてゐる其勢力は、佛教に比すれば頗る僅少のやうに思はれた。私の最初の教師は寺の先生であつた。で、勿論、私はいろんな佛教の宗派や、教義や、禮式や、服裝などに非常に興味をもつやうになつた。上手な裁縫師は巧みに彩色をした一組の僧衣を私に造つてくれた。特に初て私の聽いた僧侶の説教が如何にも熱心であつたのと、その聽衆からうけた印象として、私



は非常に感動した。聴衆といふのは大部分は年の行つた婦人で、多くは頭を剃つてゐた。その他のものは頭の上に小さな三角形の青い切れを載せてゐたので、頭の頂邊を剃つたといふ古い風俗を眞似てゐるやうであつた。つまり婦人は罪が深いものであるから、極樂へ行くには、男となるか、或は尼となるかしなければならぬのである。説教者が話の高調に達すると、聴衆は皆熱心に合掌するのに、私は非常に心を動かされた。たゞに佛壇の前にある賽銭箱に金を投げるばかりでなく、みな一齊に南無阿彌陀佛を稱へる。私は『神には榮あれ』と叫んだ昔の幕屋の集會を思ひ出さずにはゐられなかつた。で、私はひとり心の中に思つた。佛教に向つてかばかり熱心な信仰をもつてゐる人民が、何うして基督教を受け入れることが出来やうかと。此無數の勢力ある佛教徒の一階級が何うして取除かるべきであらうか。彼等は一向宗、門徒宗及び現在の眞宗を除けば、公然たる獨身主義者、肉食主義者である。門徒宗のものは結婚もすれば肉も食ふ。そして一人の神を拜む。斯様よりも説教を信ずる。行よりも信仰で救はれると信じてゐる。かういふ風であるから。私は一向宗が非常になつかしかつた。そして此宗派は最近に起つたもので、最も廣く廣がつてゐるのであるから、之は基督教の肉食妻帯を禁ずる一派にも反對する他山の石であると感じずにはゐられなかつた。神の靈をうけた使徒が云ふ如く、肉食妻帯は所謂『神の造りし物はみな美なり、感謝して受くる時は棄つべき物なし』の類であります。しかしながら奇麗に頭を剃つた僧侶の道徳を遠くから見ても美しいと思つてゐた幻しは、私の到着後間

もなく破壊された。神奈川の成佛寺と云ふへボン博士の借りてゐた寺院に私の荷物が着いたのでそれを開けてゐると、すぐ老年の坊さんがいろ／＼な品物を調べて見てゐたが、特に米國から持つて來た料理用のストーブを面白がつた。私は非常に此坊さんに心を引きつけられて、若し出来るなら、將來この人を改宗させやうと思つた。しかし驚いたことには、翌朝になつて、この坊さんが自殺をしたといふ事であつた。それは井戸に入つて溺死したのである。何ういふ譯かといふに、此坊さんが自分の妻に金を盗まれたので非常に妻を叱りちらして、大喧嘩となつたといふのである。坊さんは出刃か厨刀で妻に迫つて酷い傷を負はせた。妻はそれを巡査に訴へ出たので、坊さんは自分の罰を遁れるために井戸へ落ちたのである。今のタムソン博士と一緒に私が初て田舎へ旅行をした時、大山の麓で人里の遠い宮ヶ瀬の一寺院に宿つたことがあります。私の遭つた坊さんは妻帯してゐたので、私は門徒宗に屬してゐるものは結婚すべき権利を持つてゐるといふことを知つてゐたので、私はその坊さんを賞めたのであるが、坊さんは何も答へずに、只難有うと言つたばかりであつた。翌日タムソン君はその村の年老つた婦人から、坊さんは大抵妾をもつてゐるといふ恥づべき話をきかされた。しかし普通の檀家である男子は之よりもつと放逸であるといふことがわかつた。『良い坊さんが來た時手離さないやうにするのは、之れが一番である』というてゐるのもわかりません。其後いろんな宗派の僧侶と接近するに隨つて、私の知つた限りでは、この常習は偽ではないといふことを發見した。タムソン君は



全くこの發見を眞個と思ふて大層面白く感じました。そして私あまり早まつて喜んだと私に言ふたことを私は言ひ忘れませんでした。

(四) 僧侶に次いで、永久に繼續しまするなら、何うもすることの出来ぬものと思はれた障害物は、サムライ即士族の帶刀であつた。帶刀するといふことは、常に士族が平民に對して優秀なることを現はすばかりでなく、社會のすべもの下級の人民は之れを見ると常に心配と脅喝を感じたのである。世襲の特權ともいふべき此帶刀が撤去されることが出来るか何うかは實に疑問であつたのです。

この事は何の咎もない外國人に一日も忘れることの出来ぬ恐怖心を惹起す原因となつた。何故かといふに、帶刀してゐる人々の大部分は外國人を切り殺すのが忠義だと考へてゐたからであります。殊に外國との戦争に徳川幕府をたづさはらせて將軍家の力を弱め、それで自分等の利益を増さうと考へてゐたからであります。町を歩くのは勿論、夜になつて外へ出るには、生命が危いといふことを常に感ぜずにはゐられませんでした。

政府では、居留地以外に居住する外國人が、其住所にゐる時も、他所へ出る時も、之を保護するため騎馬の護衛を與へてくれることを怠りませんでした。外國人の官吏に對しては特にそうであつたが、居留地以外、條約範圍の中に暫時居住する宣教師に對しても亦さういふ風でありました。斯ういふことは無益な恐怖ではなかつたが、又しなくてもよかつたと思はれるやうな注意も屢々やつたので

す。今日に至るまで、横濱や東京の墓地に見られる墓碑銘に『無殘にも暗殺せらる』とあるのが其證據です。

(五) 日本に安心して居住されなかつた第三の理由は政令二途より出たとです。それから將軍政府の下にある港だけに特定されてあつた、外國貿易に對して多くの有力な大名が不満を抱いてゐたことです。多くの人々を動かす、殊に陽に勤王家を動かした攘夷の精神は外國人に對して攻撃が行はれるといふ警報や噂を生み出すやうになりました。何日までに、外國人を放逐せよといふ勅令が發布された。それは將軍政府によつて遂行されはしなかつたが、長州公によつて、下ノ關海戰を促がし、數ヶ國の船舶に發砲するやうになつたのであります。將軍の政府は長州の舉を強ひて止めることが出来ないといふことを宣言したので、當該數ヶ國によつて、下ノ關にあつた城砦船舶が攻撃され遂に長州は降服してしまつた。同じやうな酷い責罰は、薩摩の首府鹿兒島の上にも見舞はれた。といふのは、一人の若い英吉利人が首を切られた上に、それと一緒に行つた外の三人のもの、生命をも奪はうとしたので、それが偶々日本の中でも最も戦争好きで黨派である鹿兒島をして外國人に對する放埒な攻撃を止めしむる原因になつた。そして歐洲との戦争に將軍家を巻き込むことを求めず。却て同國人の日本人が敏捷に陛下の御身を保護し、將軍が陛下に近づくことを禁じて、大膽に將軍家そのものと戦ふことを決心しました。將軍は戦争を試みたが、伏見で無理に妨げられ、遂に大阪城に歸り、之に火を放つ



て首都江戸に退き、所謂勤王軍と戦を繼續することを禁じた。將軍家の臣下の中、戦争好きな會津藩のものは、城と祿とを失ふまで反抗したが、遂に最後の將軍にして且つ最も氣高き一橋家（と我々は言ふことが出来ると思ふが）の自讓、忠君愛國の精神に依つて、この血生臭い革命も終りを告げた。すべて是等のものの中に奇しき業を爲したまふ神の御手は最も明かに現はれてゐます。太閤が早い頃の基督信者の迫害を始めてから、家康、家光其他の將軍によつて殿しく繼續されたのであるが、徳川家も亦すべての日本人が豫想した如く、十四代目で終りを告げてしまつた。之よりも不思議なことは佛教に對しては國教の權が奪はれ、士族の階級が廢除され、二重政府の形も苦しい夜の夢の如く、朝の近づくと共に誠に靜かに消え去つてしまつた事です。憲法發布、良心の自由と信教の自由、帝國議會、自由出版、日曜日の休暇、風俗及社會の改良、及び基督教的文明の殆どすべての應用が速かにいつて來た。凡て是等のことを考へて見れば、たしかに我々は『神の爲したまふ所何を偉大なるや』と叫ばざるを得ないのであります。そして使徒と共に、『神に謝して心勇立た』ざるを得ないのであります。

しかし、日本に行はれた政治的、社會的變化といふことにかゝる重大なる意義を與へると共に、私は此國に行はれてゐる道德的、宗教的勢力に目を閉じたくありません。教育、醫術、聖書翻譯、禮拜式、讚美歌、外國語學習の辭書の出版、説教、印刷の書籍、講演、直接傳道によりて、『神の王國の良き種』が

蒔かれたのであります。今直接傳道といふことを最後に言ひましたが、之は恐らく順序から言つても最も大切なもので、數世紀の間、日本人が、學者官吏及び普通の平民に至るまで、基督教に對して抱いてゐた僻見を取去つたのであります。一言にいへば、プロテスタント教の宣教師はゼシエット派の宣教師ではないといふことを證明したのであります。ギドー、エフ、フルベッキが二十年間身斃れるまで其働き盛りの二十年間を特殊の傳道に費したのは、實にそのためであつたのです。『日本人をして私がゼシエット派の宣教師でないといふことを考へさせるには、果して何んな權利を私が持つてゐるか』と彼れは自省して、『此國に之を證明するためには、二十年の生涯を之がために費しても惜くはない』と彼は言つたのです。かう考へて彼れは之を行つた。神は、この謙遜な、信仰の厚い、彼の生涯を恵み給うて、日本國民ですら得ることの出来ない位、政府や人民から、非常な信用と尊敬とを得たのであります。以上のことは眞個の記事として一般に許容される事だらうと信じます。もつと他の明かに知られないことは、茲に述べる價值がないものであると言ふのでは勿論ない。ヘボン、二人のブラオン即ちアル、エス、ブラオンとナサン、ブラオン、監督ウキリアムス、グリーン、マクレイ等の聖書翻譯者、カクラン、イビー、ミーチャム、ベンチット、デビス、ラーチッド、ゴルドン、マコーレー、アレキサンダー、アメルマン、ノックス、イムブリ、等の教育者、マクドナルド、フォールズ、バーム、クレッカー、ベリー、テラー、等の、人々の敬愛を受けた醫者と公使、それ



から凡での傳道會社に於て著名な人々、かういふ名は銀河の如く輝いてゐます。『多くの人々に喜びの音信を傳へた婦人』の中には、ブライン、ピアソン、ツル、ベントン、ミラー、ヴァンヘッテン、マコーレー等の夫人がある。——獨身な女子には、クロスビト、ガスリー、ブリテン、ダッドレー、タルコット、スターリング、ウキンビシユ、ガードナー、ミリックン、ヤングマンなど『生命の書』に其名を記されたる真理のために働く同勞者及び福音傳道者があります。

かういふ清められた教役者の仲間となつてゐるといふことは、何んな人にとつても、身に餘る光榮と言はねばならぬ。獨り此光榮に優るべき者は、たと死後永遠に受くべき大なる光榮のみである。神が日本のすべての教會の中に起したまふた可なり多い男女の教役者を見ます時、私共の感謝を言ひ表はすべき言葉なきを思ふのです。現在生きてゐる人や、もう既に死んでしまふた人々に對する記憶を公平に尊重するために、夫等の人々の名を悉く枚擧することは不可能であります。是等の多くの兄弟達と交際するといふことより楽しい清い友情は何處にも發見するとは出來ないでせう。肉親のものよりも、もつと近く、もつと親しいのです。で、私はこゝに主の約束の完成を證せんことを願ふものです。

『我と、福音の爲めに、家宅或は兄弟、或は姉妹、或は父、或は母、或は妻、或は兒女、或は田疇を棄つる者は、この世に於て百倍をうけざる者なし、即ち、家宅、兄弟、姉妹、母、兒女、田疇を迫害と共に受け、又後の世には限なき生命を受けん』(可十〇廿九、三十)此約束は私にとりて此生命のつゞ

く限り、文字通り一點一劃に至るまで完成されてある。そして私は未來の生涯に於ては益々然るべしと信ぜざるを得ません。

主がなしたまふた別の約束は『若し爾曹何事にても我名に託りて求はゞ我之を作さん』(約十四〇十四)といふことであります。私は又之を最も親しく私の経験で確證したといふことを證明せんことを願ふのである。日本語の詩篇の中で最も美はしい句を求めるならば、それは詩篇六十六篇二十節の『神はほむべきかな、わが祈をしりぞけず、その憐憫をわれよりとりのぞきたまはざり』である。この句はテニソンの『此世界の夢想してゐるよりも更に多くのことが、祈禱によりて行はれる』といふ眞に美はしい句よりも遙かに優れてゐます。すべての基督教事業には皆さうであるが、傳道の成功に缺くべからざる條件は實にこの祈禱である。私の大學在學中の勉強や、傳道界に於ける努力に、何んな成功が伴うてゐたにせよ、それは殆ど祈禱の結果であると確信します。私の最初の教師と密室に於て初めて日本語を以て祈禱した時から、東洋のために確實な平和を得るやうに、日本軍の成功せんことを日本人の熱心な組と二十ヶ月間毎日／＼祈つた時まで、又ドレファス將軍放免のために祈つた如き、支那皇帝の生命を保存するために祈つた如き、北京に於ける公使館の保護のために、日本政府の基督教に反對する勅令の廢止、及び支那國民を亞片の害より救ふためといふが如き、世界のために祈つたのが聞かれたといふこと——かういふことは宣教師ニードム氏が私に初めて注意してくれたエレ



マア三十三〇三に於ける「汝我に願求めわれ汝に應へん、また汝が知らざる大なる事と秘密たることを汝に示さん」との勸告の言葉を高調してゐるものである。特に一個人に對して仲裁的祈禱をなすことは、天の父の偉大なる仲裁者である基督と我々とを最も密接に結合する所以である。そして之が使徒保羅の成功の秘訣であり、又「我等は父および其子イエス、キリスト同心たり」と言つた使徒約翰が深き愛を以て神と結びついた秘密であります。かく神と自由に交はり、神より力を得るといふことより、更に偉大な美はしい特權はないのであります。

之と關聯して、すべて神の恵みの記念として心からの一致團結を欲する永い間の願を今言顯はす勇氣が起りました。之は聖書の勸告に合つてゐます。「われ殊に勸む萬人の爲に願告、祈禱、懇求、感謝せよ王および凡て權威を有つもの、爲めには別けて之を行すべし。是れわれら敬虔と端莊を以て靜に安らかに日を度らん爲めなり。此は美事なり我儕の教主なる神の意旨に適ふことなり。萬人の救をうけ眞理を曉るに至るは神の望みたまふところなり。それ神は一位なり。又神と人との間に一位の中保あり即ち人なるキリスト、イエスなり。かれ萬人に代りて己を棄て贖となせり時いたらば證すべし。」(提前二〇一—六)日本の天皇陛下及び世界の皇室に對して熱心なる祈禱の捧げらるべき理由は是れです。是は適當なことであつて、又之を爲せば適當となるといふ理由ばかりではなく、又天皇陛下が全國民に與へたまふたすべての恩恵に對して神に感謝するためであります。又天皇陛下は眞に天の祝福をう

けてゐる此國民の主權者たり、又恩徳ある御方として恵みたまふ神の救を知らずして、此世を去りたまふことなからんためであります。

此五十年祭に於て、我等の爲すべき祈禱に對して、更に一般的の要求は、日本に於けるプロテスタント教百年祭が舉行される前に、全國民が悉く福音を聞くに至らんこととあります。八萬の悔改者が八千萬とならんこととあります。即ち今日の一千倍にならんこととす。「之は神に對しては信じ難きことなるや」その小さきものは千となり、その弱きものは強き國となるべし。われエホバその時に至らば速かにこの事を爲さん。』(賽六十〇—二二)

感 謝

日本メソヂスト教會監督 本 多 庸 一

宣教開始五十年の記念祝賀會も愈々事實となりまして私共最も感謝を捧ぐる所でございます、御同様に誠に幸福なる次第で喜ぶべきこと、誠に感謝の至りてございます、五十年の年月は随分短くない年月でございます、此間にはイロ／＼の事が起り得べきこととございます、殊に此十九世紀の終りの五十年と申しますものは、世界の歴史に取りましても非常な變化の多い時でありますし、又殊に



此日本帝國に於きましては此五十年間は非常にイロ／＼な事柄の多い時でございます、誠に驚くべき變化を生じて居る時でございます、此歴史の中に私共此長く禁じられて居りました所の基督教が、我日本に傳へられたと云ふことに付きましては、非常に感謝すべきことが多くあるのであります、併ながら是は唯此教會の傳道上の事、内容の事を以て之を數字に擧げて見やうと致しますれば比較的驚くべき所の數字が出て來ない、却て東洋の或國の如きは我日本國よりも大きな數字を示すことが出来るてございませう、併ながら私共は此場合に於て神様に感謝せんことを思はんが爲に、唯此教會の内容の統計を見るよりは寧ろ如何に此基督教の宣教師が此五十年の間に日本に居つて、今日までの此結果を擧げるやうにならなかつたならばどうであらう、斯ういふ事を一つ考へたいと思ひます、宣教師が居らなかつたならばどうか、日本に此教會が無かつたならばどうか、斯ういふ事に付いて數箇の問を設けて考へたいと思ひます、時間がございませぬから一々答をする暇がありません、私は此數箇の問を設けて皆さんに其答を喚起して戴きたいのであります、是も詳しい數を盡して問を設けて居る暇がございませぬ、唯私はすばかりの問を簡單に申上げて皆さんに其答を作つて戴きたい、それでは分ると思ひます。

今より五十年前即ち千八百五十九年（我安政六年）に此プロテスタント諸派の先輩宣教師方が日本へ參られました、今日は其中の一人も此方にはおゐてなさらぬけれども、併ながらまた存命でおゐてな

さる御方がございます、ドクトル、ヘボン氏の如きウキリヤムス氏の如き皆存命でございます、それに續いて第二の繼續者が先刻此處に立つて御話をなされた所のバラ氏の如き御方でありまして、て此今より五十年前に始めて日本の國を開いた時に當つて多くの冒險者が歐米諸國から參つた筈でございます、併し勿論今のやうに多くはない、其多くの冒險者は商人又は探險家でございます、其等の人々が參つて居りました時に、其人々に餘り後れないで此宣教師諸君が日本へ參られました、長崎或は神奈川に永住の計畫を立て、チャント住むを定めた、て此多くの冒險家の中に此宣教師、基督教會を代表した所の君子が其處に住つた、若し其時分にては、斯の如く此有徳博識の紳士達か日本に既に來ておゐてなすることがなかつたならば如何でございますか、當時は其社會に宣教師として立つて居ることとは随分困難なことで、先刻のバラ先生の御話でも大分分ることと何時でも政府の穩密、間諜の目の下ばかり居つたものであります、切支丹の坊主として常に睨まれて居つたに違ひない、度々イロ／＼の危険に遭ひました、併ながら横から見ても縦から見ても公の方から見ても内側から見ても有徳な人である博識な人である、さうして始終働いて居られたのであります、若し此有徳博識の君子達が彼の冒險なる多くの商人や探險家達の間に立つて若も始めから日本に來て居らなかつたならばどうか、之を事實を以て證明するとか或は數字を以て擧げると云ふことは出來ませぬが、實に私共の深く



感

味ふべき事であらうと思ひます、殊に今日の此プロテスタント教會でございます、長い間禁じられて居りました所の天主教會のゼスイット派の傳道ではなく、今はプロテスタントの傳道となりました、當時内からも外からも綿密に觀察せられまして、是は切支丹の坊主であるけれども確に有徳な君子である、決して奇術邪法を行ふものでないと云ふことを明かに證據立て、參つたと云ふ事は非常な大切な事項であると思ひます、當時若し此人々が居らなかつたならばどうてありましたらう、斯う云ふ間を一つ設けたいと思ひます。

第二には明治三年の初に當つて長崎に大迫害が起りました、數千人の天主教徒を捕へて西南の十四藩に分配して大變な迫害を被つた、此時に各國からしても當時の明治政府の御方にイロ／＼忠告もありましたらうが、其時に當つて初から日本に參つて居られた所の宣教師諸君が、段々日本の事情が能く分つて中には或學校に教鞭を執り、或は政府に勤めて助けて居つた所の人もございます、さうして當路者と交をして其間に於て直接の傳道ではありませぬがイロ／＼基督教の歴史や性質を語り、亦外國の事情も語り、其間に立つて克く説く所がなかつたならば如何てありましたらう、是にはドクトル、フルベッキ氏の力が與つて多いこと、思ひます、さう云ふ事がありましたらう、僅か一年の間に非常な迫害が起りましたが、又一年の間に非常な變化が起つて皆許されてしまつた、若し此時にプロテスタントの宣教師が日本に居りまして且長い間黙つて居りましたけれども其間は日本の國情を調べ學問をして、さ

附

うして一方には交際をして政府の間に働いて能く此事情に通ずることがなかつたならば、恐らく此變化が起らなかつたかも知れませぬ、若し其時分に宣教師が居らなかつたならばどうてあらうか、斯う云ふ間を一つ設けて見たいと思ひます。

感

其次に明治五年の頃であつたらうと思ひます、岩倉全權大使が米國に居る間に日本の當時の明治政府の有力者が皆伴つて、一の政府を組織して米國へ渡り、世界中を歩いて立派に一つ外交上の土臺を据える積りて行きました所が、先づ米國へ行つて忽ち障礙が起つた、どうしても此所の難關が通れないイロ／＼なる難關が澤山起つて來て遂に歐羅巴へ行かれないで米國に留つて居るの已むなきに立至りました、此時に彼の有力なる大久保利通君と今の伊藤公爵と二人日本に歸つて來られたのであります、そこで此通りでは逆も世界を通れまいモウ少し仕度をし直さなければならぬと云つて日本へ歸つて段々イロ／＼な準備をした、當時政府の間には議論も澤山あつたさうですが、其時分の準備の第一箇條は此切支丹宗門の禁制と云ふ高札が何時の間にか見えなくなつた事でございます、私は當時横濱に居つた時でありましたが其時に高札を下して戸長役場の前に一週間程置きました、さうしてモウ皆見てしまつたから宜しいと云ふので引込めました、是が大久保、伊藤兩副使が日本へ歸つた時の彼等の使命の大切な事項の一つでございます、斯う云ふ時分にまだ傳道と申す程の傳道が出来て居りませぬけれども、此宣教師諸君が有らゆる艱難辛苦をして神の護りの下に日本に居らなかつたならばどうて

附



ありましたらうか、果してさう云ふ事が行はれ得たてありませうか、米國でドンナに親切に言つて呉れても或はドンナに強い理窟を持つて居つても傳道師が日本に来て居らなかつたならば恐らく甚だ力の弱いものであつたらうと思ひます、當時古い宣教師諸君が忍耐をして傳道をし忍耐をしてチャント出来るだけの事をして居つたのであります、明治三年に既にバラ先生の如きは吾々にエー、ビー、シーを教へて下すつたのです、私はビネオの文典を教へて戴きまして能く覺えないで非常に叱られました(笑)若し宣教師諸君が来て居られなかつたならばどう致しませう、此議論は甚だ弱い議論でありましたらうけれども、宣教師が居つたから大に力有る議論になつたのであらうと考へます、若し當時宣教師が居られなかつたならばどうであつたらうか、斯う云ふ問題を起したい。

其次には是も明治五六年の頃てありましたらう、横濱に秘露の奴隸を乗せた船が入つて來ました、支那人の奴隸を二百人ばかり乗せて横濱に入つて來た、此問題に付しましてはイロ／＼長い話がありますが遂に當時の副島外務卿の勇斷に因つて解放することに決しまして、秘露の船から其奴隸を解放してしまひましたが、それが遂に國際問題となつて露西亞が仲裁裁判をすることになりました、其結果は日本の勝訴となりました、當時未だ傳道は甚だ微弱でありましたけれども矢張宣教師諸君、殊にフルベッキ先生が當時政府に働いて居りました、そうして副島外務卿などと交際があつたてございませう、又副島さんは古い宣教師諸君とは交があつた、ニコライさんなども交があつたさうです、さう

云ふやうな譯で當時の政治家先輩の人々の間に個人の自由と云ふ基督教的の思想が擴つて這入つて來たので、殊に此基督教國に對する體面と云ふものから大變に此事が強く論ぜられまして遂にさう云ふ事を實行し、續いて其關係で日本の到る所の數萬の女郎が皆悉く自由の身となりました、日本には奴隸が無いと云ふことになつたのであります、斯の如き事も是は微弱でありますけれども當時基督教の傳道が段々始まつて宣教師が續々参りました、明治六年から宣教師の數が續々殖えましたが斯う云ふ事が苦しなかつたならばどうであつたらうか、當時宣教師が居らなかつたならば——傳道が始まらなかつたならば——殊にプロテスタントの傳道が始まつて居らなかつたならばどうでありましたらうか斯う云ふ問題を起します。

次には明治二十二年に憲法が始めて發布されましたが、憲法の第二十八條には明かに信教の自由を規定されてあります、然るに段々此憲法制定に付いての話を承つて見ますと、伊藤公爵などの話ではナカ／＼むづかしかつた、此第二十八條を定めるには此憲法制定の會議に於て即ち樞密院の會議に於て大議論がありました、それは非常な議論で議長たる公爵も押へ切れなかつた、多分基督教に付いててございませう、唯一般に信教の自由と云ふことでない基督教が眼前に此處にある、それが大變に問題であつたさうです、例の鳥尾得庵居士などが随分激烈な議論をしたさうです、此時分に若し宣教師が日本に於て傳道をして居らなかつたならば——若し日本に宣教師が傳道の結果此教會が小さいながら



も出来て居らなかつたならば恐らく議論が無かつたてでありませう、議論の無い代りに二十八條と云ふものが今日の如く明かにチャント立つて居ると云ふことは恐らく無いかも知れませぬ、有つても力が弱いかも知れませぬ、是も一の大問題であると思ひます、宣教師が日本に傳道をして居らなかつたならば——吾々が其信者となつて小さい教會でも組織して居らなかつたならばどうであつたらうか、今日の憲法第二十八條の賜物を受けたかどうかと云ふことは一の大きな問題であらうと思ひます。(拍手)

其次に今日まだ日本には基督教徒の数が甚だ少い、基督教の勢力は甚だ弱いやうでありますけれども基督教が五十年の間宣教師に依つて布教せらるゝことがなかつたならば、日本の家庭に關する思想が如何でございませうか、日本人の家庭の有様は今日まだ吾々の理想より甚だ遠い、日本の民法にも日本の其他の法律にも適つて居らぬ、さう云ふ家庭が澤山ございませう、けれども今日は一夫一婦の議論と云ふものが何處へ行つても通用の出来る議論でございませう、力の有る議論でございませう、斯の如くして日本の家庭思想と云ふものが非常に變化したものであります、是が此基督教がございませぬならば——宣教師が來朝しないならば——基督教が今日までに發達しないならば、恐らくは此日本の社會の土臺たる所の最も大切な家庭思想と云ふものは今日まで進歩しなかつたであらう、若し宣教師が居なかつたならば果してどうであるかと斯う問うて見たい。

又社會進歩の程度に隨つて此矯風慈善の事業が起るべきことは必然であります、維新後誰が此矯風慈善の事業に最初手を出したものでありませうか、是は實際のことと即ち此微弱なる基督教徒、數の少い宣教師諸君の力に依つて矯風慈善の事業が起つて來たのはございませぬか、それからして段々いよいよな慈善の團體が起り、又宗教の團體が出來まして慈善矯風の事業が起りましたが、今日まで多少其現状を維持し成功して居るものが基督教徒社會に多くある譯ではないか、此矯風事業の思想が宣教師が渡來せず、プロテスタントの傳道が起らなかつたならば果して如何でございませうか。

其次には此教育のごとでございませう、教育は由來日本政府が非常に熱心に盡力をしたので今日のやうな立派な教育制度も出來、又其結果も擧つて來たのであります、併ながら其抑々の始めを見れば宣教師諸君が大に教育に盡力せられた結果であらうと思ひます、今日では基督教主義の學校の數が甚だ少いやうに見えますけれども、併ながら其割合に十分有力な感化を與へ又有力な刺戟を與へました、宣教師の學校、耶穌教の學校は斯うだ、だと云ふ教育者の間に話がございませぬけれども殊に女子教育——女子教育の學校らしい學校が起つたのは横濱の共立女學校、それに續いてフェリス女學校、其等の學校が彼方此方に起つて來たのであります、是が日本の女子教育の需要を充す上に缺くべらざるものとなつて居るのであります、て此基督教の力に依つて日本の教育を致す所のものは私はまだ——是は理想より遠い、まだ澤山やつて戴きたい、併し今日までの中でも是が無かつたならばどうするか、



宣教師諸君が力を盡さなかつたならばどうするか、斯う云ふ大きな問題を起したい。

それから是有意的に出来たことでありませぬ、無意識的に出来た事ではありますが、茲に一の大きな事がございます、それは他の事ではありませぬ、日本の宗教家——佛教も神道も目を覺まして復興致しました、殊に佛教が大に盡力して學校を建てる、慈善事業にも手を出す、社會事業にも手を出すやうになつて來ました、耶蘇に負けまいといふので——是に付いて私共基督教徒が日本の佛教神道を刺戟した、それが目的であると云ふことは固より申されませぬが、併ながら自然に其處に起つて來た、恐らく佛教が傳つて以來千三百年程になります、今日程日本の佛教と云ふものはどう云ふものであるかと云ふことを知つて居る者の多かつた時はあるまいと思ひます、佛教を信じて居つた者が昔の方が或は多かつたかも知れませぬが、佛教の事を知つて居る者が今日程多くあるまいと思ひます、神道も斯の如くてあらうと思ひます、是は基督教の存在が刺戟したのである、宣教師諸君の目的ではなかつたが其結果が是に至つたのです、是も或一方から云へば吾々の傳道の邪魔になるかも知れませぬが、併ながら本統の邪魔にならぬ、本統の傳道は或宗旨が起るだけ起つて、さうして始めて本統に基督教が傳はると思ひます、是は決して憂ふべきことではなからう、若し日本に基督教が傳らなかつたならば——即ちプロテスタントの基督教が傳らなかつたならば、日本の佛教も神道も總ての宗教が今日の状況になるであらうか、之を試みに問うて見たい。

謝

感

最後に大綱を展げて即ち大風呂敷を展げて見ますが、逆も一々算へて居ることが出来ませぬから大風呂敷を展げますが、是は誰でも出来ることでは出来ないことは誰もしないでありせうが、日本の今日基督教の思想を幾らか持つて居る人は縱令基督教信者と言はれなくても其人の道徳の考が基督教的である、若くは又大勢の前で神様を拜まなくても獨りて神様を拜して居る者が澤山あります、或は又神様を拜まなくても其人の考が基督教的と云ふのが澤山あります、斯う云ふ事を日本から抜取つてしまふことが出来るならば——或は日本の學者の中から基督教的の考を持つて居る所の人を皆日本から取つてしまふならば秦の始皇帝のやうに——それから日本の文學に基督教の思想が這入つて居るものが澤山あります、又基督教の言葉が澤山文學上に使はれて居ります、若し文學上耶蘇教臭い言葉を使はないで書けと云つたならばどうであらうか、さう云ふ基督教的思想を皆取つてしまひ、又基督教的趣味を文學から取つてしまつたならば今日の日本はどうなりませうか、又日本の文明の有様はどうなりませうか、果して日本の進歩が今日のやうに圓滿に行つてありませうか、私は此日本の宣教師並に宣教師の働の結果たる所の基督教的思想或は基督教的文學を日本から取去り得ることが出来たならばどうであるか、斯う云ふ問題を茲に掲げます。

是に於て皆さんの御答が澤山に出て來ること、皆私共の感謝しなければならぬことであると存じます、併ながら諸君、此五十年間は實に私共の準備の五十年間と見なければなりません、どうぞ次の五

謝



十年間にはモウ一層神様に感謝すべき事項の多く起るやうに、即ち我自身が奮發して神様に感謝することの起るやうに努めなければならぬことであると信じまして、感謝の念を以て茲に諸君と共に奮發致したいと存じます。(拍手)

### 懷舊實驗談

日本組合須磨教會牧師 村上俊吉

今日此五十年祝會で皆さんと御目に懸りますことは私に取りましては誠に珍しいことと存じて喜ばしく存じます、今短い懷舊談を御話申します。感話に代へやうと思ひます、斯る席で懷舊談は如何かと存じますけれども却て御話申すことが適當だらうと思ひます。

私は明治五年か六年の頃に横濱の九善の其時代の社長の連矢志有的と云ふ人から支那で出版になつたところの天運淵源を買ひまして長らく懐疑の中にあつたが遂に信仰が進みまして其天運淵源の中に奮いてある祈禱文を朗讀致して。それに依て祈禱をして居つたが、その中に聖書を見たいと思ひまして銀座通を探し歩きましたけれども新約全書を賣つて居る店がございませぬ、然るに上野から淺草に行く途中の書物屋にございまして、價を尋ねたところが一圓だと云ふことであつたがそれを求めて讀みました、所がどうも群疑百出で愈々分らなくなつて、前に大分分りかけて居つたところの點まで又分らなくなつて来て、政友人から築地の六番館にタムソンと云ふ宣教師が居ると云ふことを聽きまして、丁度八月頃でございませぬ、それは何でも明治六年頃だつたか七年だつたか能くは分りませぬが、六番館に行きましたところがさう云ふ方は在らつしやらぬと云ふことで遂に御目に懸らず、今日此處で初めて御目に懸るやうな譯でございまして、其三十六七年前に一番最初に御助け申したときには御目に懸らずして、今日此處で其御方に初めて御目に懸るやうな譯

て、未だ御挨拶は致して居りませぬ(笑聲起る)長い間東京に御留りになつて此教の爲に傳道なさつて下さいましたことは實に感謝の至りであると思ひます、勿論其頃は神戸と此方とは餘程御心安くありましたからして此處にござるタムソン先生のメンテコステ御説教書などは私が靈界に生るゝに産婦の如く御助けを戴いた様に覺えて居ります、又今の御方からして日本の老人を御覽になると大抵同じやうに見えませうけれどもその頃は大に違つたのです、何故かと申しますと其頃の一年と今の五年位と匹敵するだらうと思ひます、其頃には前年度には寺子屋で教育を受けたところの者が一年違つて學校に入ると云ふ譯でございまして、イヤ中學校が出来たとか大學が出来たとか、鐵道が開通したとかと云ふ譯で續々開けて参りますから其一年の間の開化の度が餘程變つて参ります、殊に教育の上にて著しき變化がございませぬ、それと、もう一つは開化の日向に居る人とそれから谷間のやうな暗い所に居るところの人とは大分時代が違ふ、今になりまして若い人と新しい人が出来る譯でありまして、開化の横濱邊に居つた御方はどうしても開化の日向でございまして早く開ける人ですが、さう云ふ場所には居らない人は愚圖々々して時勢に後れるやうな譯であります、私が神戸に居りました頃即ち明治八年に同志社が出来まして神戸の青年は皆手を連れて京都の方へ行つてしまつたのです、私は神戸の御留守番を吩咐かりました、マア無限に吩咐かつたやうな譯ですが、それは一つは外の御方から見ますと年が寄つて居りましたのと、其時分人が居なかつたのと、又目下の急務に追はれて居りますのと、もう一つは其頃は今のやうに社會の知識が進んで居りませぬから學問はさほど大切に感じなかつた何でも信仰で遣付けると云ふ勢でございましてからソンの爲に到頭京都に参りませんでした、而して當時の學問の軌道に入り損なつた譯でございませぬ、併ながら幸に此葡萄園の雇人の末席に加へられまして、さうして所謂無能と管轄して以て今日まで先づ繼續致しまして三十五年間に安息日二回程説教を休みました外は、メツと日曜に立つことが出来まして今日此處に皆様と共に御目に懸る光榮を併ますことは誠に幸でございませぬ、實は私共よりは古い御方が澤山あります、もう些と能く働いてござる御方で今日名前が出て居らぬ方が澤山ございませぬ、神戸で申しますと松山高吉君などは古い人であつて神戸教會の土産であります、明治八九年の頃は聖書翻譯の爲に横濱に参つて居られて神戸には居られなかつたから、神戸の最初に働きのがあると云ふわけにはいかぬけれども、其以前を申しますると松山君などは古い人でありませぬ、私が以前に諸派の御方の御名を餘計に知つた譯があります、神戸に七一雜報が出来まして、それは「アメリカンボード」で出来ましたもので、當時は今村謙吉君と私の名で、主に私が編輯を致しました、是も基督教の奇蹟と



申すべきでありませうと思ひます、大抱負を抱いて七年間無能の手でやつて来たので、矢張是は所謂石でタビタを打つたやうな譯柄だらうと思ひます、兎に角七年間繼續致して居りました、其時代には未だ雑誌が一つも出来て居りませぬから日本に居る賭派の御方が皆之に御便りなまつて之を御取りなまつて珍しく思つて又賭方の御方がそれに投資をして下さいました、又教會外の人で申しますると今居られませぬけれども植木枝盛などと云ふ人もそれに論文を書いて投資したこともある、元來宣教師方がイロ／＼面白い珍しいことをそれに出したと云ふ譯では一週年間續いて居りまして外に餘り雑誌が出来て居りませぬと云ふ譯で以て賭方の其時代の御事情を承知することが出来たのであります、併し其時代には實に人が少なうございまして、今から思ひなさんと云ふと矢張昔も同じやうに思つたてでありませうけれども人が少ない、餘り英學の出来た御方も少ない、漢學先生は些とばかり彼方此方にありますけれども、それは唯漢學先生でございませぬ、それで信仰を守つた學者は頼りませぬ、今賭派の中で綺々の聞えあり堂々と働いてござる御方々も未だ學窓に潜んで學んで居らつしやると云ふやうな譯で些とも働くんが無いのです、それで丁度戦争の忙しい時に武士が要るやうな譯で信仰があり何か話でも出来る者が要ると云ふ譯でナカ／＼忙しうございませぬ、明治十三年頃からキツ／＼と學問が出来る御方が出て見えて明治十五年位からはどうも雨後の筍のやうな工合でメク／＼と彼方此方に有爲の士が御現はれになつたのであります、又新聞もさうです、丁度明治十五年位まではございませぬと思ひます、多分ニロライ派の方に一つ出来て居りました、それも七一雜報より後かと思ひますが、明治十五年位からキツ／＼と起り出しまして是も亦以後は雨後の筍の如くに種々様々基督教の新聞雑誌が起つて参りました、實に今日は御目に懸りましたも御顔を知らぬ方が深山あり又名も知らないところの新聞雑誌も深山に増加して居るやうな譯であります、丁度彼の聖書にありまする神殿から流れて出るところの活ける川が初めには渠位であつたけれども段々行くと深くなつたと云ふこととてあります、所謂今年はその河が五十等を以て潤るまでに達して活ける水が滔々と流れて居ります、が、今後には益々此活ける河水が我日本全國に流れ廻ることを希望します、又私共は手を拍いて青年有爲の忠實にして智徳に富むるところの教役者諸君の物興を歓迎致して居ります、又後からして此靈界の戦争に従事なさる御方の爲に手を拍いて贊助致したい切神であります、どうか各個人に於て此靈界の戦争を常に助力して勝を奏するやうにどうか此日本全國に於ても基督の御名が崇め尊ばれて十字架の旗が翻々と翻へるやうにありたいものであります。(拍手喝采)

### 障害の除却

神學博士 データムソン

此の愉快にして感謝すべき日に於て特に述べなければならぬ事は此國に於ける傳道の障害と傳道師の教育及派遣に對する障害か神の恵みによりて取除かれた事である。昔の基督教に對する禁止の布令なる有名なる高きはよし最大なる障害では無かつたにしても最大なる障害の一つとして有つた。日本橋を起點として全國を通じて少く名の有る場所では此等の禁令を見ぬ處はなかつた。最も不思議な事は普通の法律や、常行爲の規則は或は不文法であるか又は「家康の遺訓」とか「明律」とか又は明治三年に當局者より發布せられたる新律綱領とか其他多く學者に由つて置かれた有名なる書籍の中に潜在して居つたにも關はらず基督教に反對する法律は最も明瞭に發布され恰も此の實際の法律で有り又最も重要な法律で有り而して凡ての人民が之を心に留めて注意しなければならぬ唯一の法律で有るかの如くして有つた。

又此時代には能く知られて居なかつた第二の大なる障害が有つた。若し之を知つて居つたならば事情は全く一變して居つたかも知れぬ。之れ所謂基督教國の人々が此種の事に關して怪しきまでに無頓着で有つた事である。基督教國民や其政治家は其國內の事は左様では無かつたろうけれども他國の宗教上の信仰自由などに關しては全く注意して居ない様に見えた。たとひ人が最も熱誠なる手紙を寄せて基督教の新聞雑誌に投書しても信頼されぬ様なものや又假令眞實に有つても當時の勢力ある方面に歡迎されぬ様なものも掲載する様な間拔けな編輯者は居ないから此等の手紙は直に府籠の中に押入れらるゝのみで有つた。丁度此頃英國に於て「無干渉」と云ふ本が出版された。私は此本をば讀まなかつた。其名を聞くだけで充分で有つた。何故なれば無干渉の空氣は當時の英國に漂つて居つたからである。タレーランの云ふ處の外交上の干渉インタフエレンスと同義を有する語である。ビーマンス、フィールド及びソリスベリーは露土間の事件に干渉した而してベルリン協約に依つて亞米利加人の爲めに無干渉の主權を取るべき事を規定して、所謂「基督教國の罪惡」を爲すの道を開いた。而して丁度此時にフィラデルフィアのシヨウ、エチ、スチユアトが統轄して居つた亞米利加の基督教徒の一團體がベルカ



ン半島の新教徒の爲めに露國皇帝に近接せんとした時にコルチコフは露國は其國內の事件に關しては全く干渉を許さないと云ふて體よく断はられた。丁度此時コルチコフは前に太平城を征服して統一せる王朝を立てるの助けを爲したる前遊征地の支那を再び訪ふた。そして其國中を見回してから卒然此國を去つた。其日の新聞の記する處によれば神が予をして支那に於て爲さしむべき何事をも有せずと首つて去つたやうである。彼は其故郷に歸り遂にカルタウンに行つた。其處で彼は神が尙彼をして爲さしむべき仕事を與へ給ふた事を知り而して世界をして基督教國の政府はクラッドストーンの如き善真なる人が國政を握れるが如き良好なる時機に於てさへも尙此の如き事件に干渉する事の如何に遅きかを知らしめたので有つた。然し乍ら其後に於て近日に東京に來らるべきキチナト將軍はスワタンの事件に有效に干渉した。然し乍ら日本に於ける有様は更に一層希望なく落膽するのみで有つた。昔の禁令が新らしき標札に覆々と記されたのを見ると恰も明治の大革命が成功して同時に昔の壓制的法律が再び發布され更に新なる激しき權力を以て強行されそうに見えた。世間ば、禁錮か殺戮に逢ふべき事を知りつゝ而も躊躇せざりし其勇氣たる實に尊敬すべきもので有る。最初の宣教師は此等の人々に公に信仰を宣傳する事を薦めなかつた只彼等に公平に物語りて自ら責任を負ふ様に命じたのであつた。然し乍ら彼等は自ら進んで基督の王國に入つたので有つた。彼等の心の中には基督が第一のものなりや否やの疑問は無かつた。只彼等は基督の「予よりも多く其の父母を愛するものは予に價せざるものなり」と云ふ語を奉じたので有る。此の如く決心せる人々の中から最初の最も信仰厚き傳道者が多く出たのである。其中の或人は今日の愉快なる執行順序の中にも乗つて居る。其人々は決して少くない、何となれば禁令の標札が取除かれた後にも尙役人は其禁令が有效に行はれて居る事を主張し續けて居つたから、其後に洗禮を受けた人も少からず此中に數へ入るゝ事を欲するからで有る。

予は茲に最初に傳道に従事した二人の兄弟即小川毅毅君と奥野高綱君との宗教的生活に於ける二個の出来事を御話し致し度いと思ふ。其一は此二氏が最初の基督教式の葬式を爲したるの罪に對して答辨せんが爲に舊式の法庭に出廷すべく召喚せられた時で有つた。此事の有つた日と時刻とは其後何時でも精確に之を知る事が出来る、何故なれば築地に於て人々が油煙を喰つた硝子を以て金星の子午線通過を眺めて居つたと同じ時刻に、此等の二人の兄弟は舊式の法庭即白洲に立ち彼等の上に座して居る裁判官を殿に仰ぎつゝ、其裁判官

が何故に此の如き事をなしたか又何故其目的にあらざる地に基督教徒を埋葬したかを壯嚴に詰問されて居つたので有つた。裁判は長引いたが、遂に彼等は罰金を課せられ、脱獄されて放免せられたので有つた。

今一つの事件は此二人の一處に傳道旅行をやつて居る時で有つた、此の傳道旅行は私の知つて居る範圍では最初のもので有つた。此二人は築地の六番地に連續して居る一の長屋で有つた私の家から出發した、奥野君は前夜横濱から來て居つた。朝早く小川夫人は質素なる食事を整へた。彼等は非常なる莊重の態度を以て此食事に當つた。而して暫時の祈禱がすんでから彼等は靜に其必要なる携帶品を取り上げ、彼等が常に之を用ひる等しく剛點を施した小き漢譯聖書を携へて出發した。私は彼等が出發の際後に残り居る人々に別れの挨拶を爲した時に、彼等の顔に現はれし其威嚴を忘るゝ事が出来ない。其後彼等は上總下總の階處に於ける此最初の傳道旅行の喜ぶべき報告を齎して歸つて來た。

諸君、予は確信する、幸に吾々は此信仰の自由の時代に遭遇し、宗教的眞理を得及び與ふる良き方法を有して居るからして、若し吾々が彼等が爲したると同様の眞面目、熱心、謙遜、靜肅且祈禱的にして調和ある態度を以て神の道なる聖靈の御を以て吾々の傳道事業に着手するならば、此の事業は神に於て空からさる事て有らう。此國に於て與へられたる信仰の自由及び「行きて我が葡萄園に働け」との召に應じて立てる力ある教役者に對して、吾々は心からの感謝を神に捧げなければならぬ。又吾々は教役者の少き事、收穫の大ならん事、及び吾々の事業から吾々を誘惑せんとする多くの鋭く強き敵のある事を忘れてはならぬ。此の樂しき機會は吾々凡てに對して、吾々の主なるキリストに對する一層強き信仰と、パウロが「我弱き時に我強し」と云ひし其眞意を理解し得べき一層の謙遜と、遂には世界を一變すべき、神と人とに對する一層豊なる愛とを以て新なる發展を爲すべき事を示すものであります。



感 話

日本基督四谷傳道教會牧師 稻垣 信

猶太人の歴史を見ますと神の道ミチに従ひましたモーゼといふ人がホレアの磐を打つたときに其磐からして水が迸り出たといふことを見ます、是れは甚だ不思議なことでありましてどうも古い御話のやうに思つて居つたのでありますが、宣教開始五十年の月日を経ました、此日本の今日に於て音あつた猶太の奇蹟が實現せられたやうな心地が致します、我日本に耶蘇の名の傳はりましたことは決して五十年前ではない、安政六年に先ちますこと三百三十七年前天文二十一年に我國に基督といふ名が傳つて盡つた、耶蘇教と云ひ切支丹宗と云はれたものが傳つたのであります、それより六十年餘り我國に於て此教は傳つて居りました、元和二年に至りまして茲に一の變を生じた、宣教師なる者が國政に干與して我政府を嘲罵するといふ疑を蒙つたのであります、之と同時に耶蘇教禁制といふことが行はれまして既に道を宣へ傳へる者又既に道を信仰いたしました二萬數百人といふものが殺戮せられたのであります、之は基督教が廣まりまして我國に起つた第一の迫害であります、續いて寛永十四年に彼の有名な島原の騒動が起つた、此時に徳川政府は切支丹宗の者を根絶せんと百方力を盡して終に彼處に於て又數萬の信徒を殺戮して仕舞つたのであります、引續いて徳川政府の方針は此外教耶蘇教といふものを傳へるものは國を亡すものである、國を危くするものであると云つて嚴しく之を禁じたのであります、種々の方法を以て宗門を改めるといふこともあり一個／＼の信仰を試験し一方には制札を建て之を犯した者があれば嚴罰して彼處にも磔に掛けられ此處にも磔に揚られたといふことがあつたのであります、さういふ有様を以ちまして我國には基督教は決して受け容るゝ餘地がない、只々磐のやうな感カミを以て此宗教に對したのであります、然るに五十年前安政六年に横濱が開かれると同時に宣教師が來られ宣教を開始せられたり、五十年後の今日になつて見ますと實に我國には驚くべき變化を起して石のやうなる此國民の精神が變つて生命イキの水が迸り出たやうな有様イキに我國の精神界が一變して盡つたのであります、此處にお出でなさいます所の方々の中には餘ほど各自に石の如き心を持つてお出なすつた御方もあらう、國としてではない個人として石の如き心を持つて居つた者であります、斯く申します私の如きも石の如き心を持つ

話

感

話

感

て耶蘇教大嫌ひな者であつたけれども神の力は此の石の如き心を變へて其道を布教する者として今日まで召仕ひ給ふ、是實に神の不思議な業であります、斯の如く過去五十年間を顧みますと其間に起つた變化は本多君の御話の通り實に多くありまして歎へ盡されなけれども只一つ心に感ぜしは實に神の力は能はざる所のないもので人の出來ないことを爲し得るといふことを確かに經驗したことであります、私共は是より前途に五十年の星霜を経て宣教開始百年の記念會を迎へることと思ひます、是より先に向つて進むところの道は坦路であるか、最早開墾せられて何も進むに妨げのない所であるかといふならばさうではない、前には恐ろしい山があり穿たんとして穿つことの出來ない山がある、又渡らんとして渡ることの出來ない海もある、是より此日本國に布教を致すといふには種々なる妨害困難があるのであります、けれども過去の五十年に顧みまして信仰に頼り神の道ミチに従ふものには、彼の山は移りて海に行き山は平かにする、とが出来る機會があることを知ります、是から我國の前途は確かに團體と基督教と衝突する様なことがありません、種々の妨害がありますけれども之は憂ふるに足らない、神の御旨に従つて磐の如き此國家が變化して五十年の間に非常な變化があつた如く是より先の五十年も同じ様な變化を見ることが出来る、確かに出来る、けれども之は是より先きモーゼが神の道に従つて磐を打つた如く私共の力ではイカぬ、智識ではイカぬ、神の御旨に従ひ神の道ミチに従つて誠實に御盡しにならねばなりません、宣教師諸君が初め此國に來つて神の御心に従つて働かれ、種々なる傳道の方法も盡されたのであらうけれども只神の御旨に従つて働かれたる所に救の水が流れたのであります、將來この國に百年の記念會を開くときに方り大なる感謝を爲し得ますには矢張り此の神の道ミチに従つて進む所に好結果を得らるゝことであると心得ます、然すれば將來は望ある將來であるといふことを私は覺へるのであります、只一言を申し上げます。



## 祝 會

(明治四十二年十月五日午後二時開會)

## 五十年の回顧

東京靈南坂教會牧師 小崎 弘 道

## 一 最初の宣教師

此記念會を開くに當て第一に記念せねばならぬのは最初に來た宣教師の事である。

歐米諸國が我國に宣教師を送らんとして其時期を待つて居つた事は久しき以前よりの事で、アメリカンボード傳道會社の如きは日本傳道の爲め最初の寄附金を受けたのは一千八百廿八年(文政十一年)の頃である、英國の宣教師ペッテルハイムが琉球に上陸したのは千八百四十六年(弘化三年)であつてコムモードルベルリが來た七年前の事である、彼が數年の間止つて居た内に爲した事は聖書の翻譯であつて、その譯書は會て見た事もある、此の外支那にある宣教師にして開港前に來た人も二三あれども我國の宣教師として最初に來た人は五十年前に來た人であつて、その第一は米國監督教會の宣教師リギンスとウイリヤムスの兩氏である、リギンス氏が長崎に着したのは安政六年五月二日であつて開港の實施より二ヶ月前の事である、而してウイリヤムス氏が長崎に着したのは其翌月の末である、リギ

ンス氏は一年ばかりの後辭して歸國したが、ウイリヤムス氏は其後永く我國に止まり監督となり昨年歸國し今は其郷里にて休養して居る、ウ氏は中世紀的の宗教家であつて古聖人の傳があることは凡ての人が認むる所である、次ぎに來た宣教師が米國長老教會のヘボン博士で博士が神奈川に着いたのは同年十月十八日である、博士は傳道の傍ら醫業を營み、又我國に於ける最初の和英字書を作つた人である、今より十七年前に米國に歸り其郷里にて今尙ほ餘生を送つて居るが、本年は九十九歳で、博士が九十の誕生日に我政府は勳三等を贈りその功勞を賞した。

第三に來たのが米國メソヂスト教會の宣教師フルベッキ、ブラオン、シモンスの三氏であつて、彼等が我國に來つたのは同年十一月七日である、フルベッキ氏は明治二年までは長崎に居つて自ら日本語を學ぶ傍ら英語を教へたが、我國の元老中に氏より英語其他の教授を受けた人も少くない、明治二年開成學校の教授として東京に來りて教育に従事し、其後政府の顧問となり教育制度其他政府の爲め貢獻する所少くなかつた、是れ氏が明治十年に於て勳三等に叙せられた譯けてある、その後傳道と聖書翻譯に従事し明治三十一年東京に於て死し青山に葬られて居る。

ブラオン氏は主にも教育家として記憶せらるべき人であつて横濱に來てより間もなく新潟に移りて學校の教師となる、後再び横濱に歸りて教育に従事したが、今日の基督教會の名士にて氏の薰陶を受けた人々が誠に多くある、氏は教育の外聖書翻譯に盡した所亦少くない、明治十二年米國に歸り翌年の



六月郷里にて死した、シモンズ氏は醫師であつたが、間もなく宣教師を辭し傍ら醫業に従事したのである。

## 二、第二期の宣教師

之より明治の初迄は米國に南北戦争があつた爲め宣教師の來る者が少かつたが、明治二年に至りアメリカンボードはグリーン氏を派遣し又英國の監督教會のC、M、S會社はエンソール氏を派遣し我が國の傳道に着手した、明治六年には米國美以教會はマックレイ、ソール、デヴィソン、ハリスの四氏を派遣し、又米國浸禮教會も同年にネサン、ブラオン其他の宣教師を派遣した、夫より明治廿年頃までが最も多くの宣教師の來た時代であつて、宣教師の姓名を擧ぐるは勿論其教會をも數へ立てる事が六ツヶ敷程である。

## 三、宣教師以外の宣教師

我國に基督教を傳へたのは宣教師たるは申す迄もなき、事であるが、今回の記念會にて忘れてならぬのは宣教師以外の宣教師である。

第一は我國の學校教師として來た人々の傳道である、單に學校教師として來た人の内熱心傳道を致した人々も少くないが、その内に私共の最も記憶すべき人は札幌のクラーク博士に熊本のカヤブテイン、デニースの二人である。

クラーク博士は米國マサチューセツツ州立農學校々長であつたが、我政府にて札幌に農學校を設立するに當り博士を招聘して専ら設立の任に當らしめた、博士が我國に來たのは明治九年の頃であつて、我が國に止ると僅かに一年餘なるに關はず、博士が教を實行して殘した感化は偉大なものである、直接博士の教を受け直に入つた人々の數は左程多くなく、之がため起つた教會は僅かに一つあるに過ぎぬ、けれども彼が殘した感化は實に大なるもので當に其感化を今日の農學校の校風を見るを得るばかりでなく、其感化は弘く我國に及て居る。

カヤブテインデニースの事は直接予に關係あれば爰に多言はせない、氏が熊本に來たのは明治四年であつて彼が熊本に止まる五年、彼の教を受け信者となつた人々は數十人の多さに達し、同志社の教育、組合教會の傳道には直接間接その感化を及ぼした所が少くない、此外工部大學の教師ディクソン氏、東奥義塾のイング氏の如き基督教的教育家として吾人の記憶に存すべき人である。

## 四、洋行信者

次ぎは洋行信者の事であるが維新前後の洋行者にして基督教信者となつた人々は頗る多い、森有禮、鮫島公使、開成學校第一の校長たる島山義行等諸氏の如き著しきものである、青木子爵、岡部子爵、三島子爵及故三好退藏氏が或は獨逸或は英國或は米國で信者となつたが如きは稍後の事である、而して洋行信者の内最も著名なる人を擧ぐれば新島襄氏である、同氏の人物並に事業は已に世人の知



る所であれば予は爰に贅せまい、大儀見元一郎、木村熊二の兩氏の如きも洋行信者の中に加ふべき人々である、其後に於て太平洋沿岸にて信者となり我が國の傳道に従事した人々は美以教會に最も多いがハリス博士傳道の結果と云はねばならぬ。

洋行信者の數は前後合はすれば多數に上るであらうが、其内にて信仰を失ふたものは割合に多い様である、思ふに温室の内に成長した植物を他に移して成長を遂げないものが多いのを見れば此種の信者に墮落するものゝ多いのは不思議でない。

此の外西洋の文學並に學問は間接に傳道の紹介を爲したと云ふて差支なかる。

五、最初の教會

以上は基督教が我國に傳はつた機關通路であるが、その結果として起つた教會は如何なるものであるか。

我が國最初の教會は横濱の海岸教會であつて、其設立は明治五年の三月十三日である、如何なる事情の許に此教會が組織せられた乎に付ては面白い物語も少くないけれども、此は他日に譲り爰に其教會の特性として掲げ度事は此が飽くまでも無宗派的で日本的であつた事である、教會の名は日本基督教會と稱しその組織、信條共に無宗派的であつた、其後に東京に起つ教會又神戸及大阪に起つた教會も之と同様無宗派主義日本的の教會であつた、當時の信者が如何に此主義を重じた乎は粟津高明の如き人

がその教會が自然此特色を失ふ事を憤慨し獨り分離して別に日本主義の教會を立てた程であつた、組合教會の如きは此精神を奉じ明治十七年に至る迄は單に基督教會と稱し何等の名を其上に冠せるなく又別に何等の規則も設くるなく勝手に教會を組織し來た程である。

六、宣教五十年史の時代分

我國基督教五十年の歴史を區分すれば左の五時代に分つことが出来る、聖書に神の國の成長發達を植物に譬へてあるがその比喻を爰に應用すれば

- 第一、開墾の時代 安政六年—明治五年、
- 第二、播種の時代 明治六年—同十五年、
- 第三、萌芽の時代 明治十六年—同廿二年、
- 第四、内生の時代 明治廿三年—同三十三年、
- 第五、成長の時代 明治三十四年以後、

此五時代に付ては到底その一斑をも話し申す事が出来さないが、先づ第一の時代に於ては宣教師も外に向ては何等の働きを爲すことが出来ず、唯だ内に於て我國の語學を學んだのと聖書翻譯に着手したのみである、尤も英語其他の學術を教へ醫術を以て人を救ふ事を爲したのと宣教師等が靜かに高潔な生涯を我同胞の間に送つた事は我が國民の基督教に對する惡感偏見を碎くに少からぬ効力があつた



であらふ、或る人が始めて宣教師に接した時の感覺を私に話したのに昔時の聖人と云ふものは斯の如きものである乎と思ふたことがあります。

#### 七、播種の時代

切利支丹邪宗門の義は堅く禁制たるべき事との制札の撤去されたのは明治六年二月十九日の事であつて、爾來基督教は默許の姿となつた、宣教師等が『眞の道』と乎『眞の神の道』とか『眞理の清談』とか云ふ様な名義の下に講義所を開く事を得たのは此時代よりの事であつた、最初は基督教を何と稱ふべき乎の論宣教師の間に喧しく、多くの宣教師は最初『イエス教』と稱へたが、一部の宣教師は『ヤソ教』と唱へねばならぬと主張した、之を基督と稱ふる様になつたのは明治十二年以來の事でも我輩當時の青年傳道師の首唱に由つたのである。

此時代に著しき事は信徒に傳道の精神の盛んな事であつて、逢ふ人毎、到る所に道を傳へないとはなかつた、此時代程人の少き割合に引く道の傳へられた事はなかるふと思ふのである、此時代には種蒔きが随分弘く行はれたのである。

#### 八、萌芽の時代

次ぎは萌芽の時代で此時代の特徴は一方は信仰の復興を見たのと他の一方は社會よりの大歓迎を受けた事である、信仰の復興の最も著しかつた事は明治十六七年の大親睦會の時であつた、一方は東京で

あつて他の一方は京都であつた、當時の信仰は十年ならずして我國が基督教となるであらふとの事であつた、此時代は伊藤公が新たに内閣制度を創設し條約改正實行の必要より盛に歐化主義を鼓吹した時である、此時代には政府のみが斯る方針を取つた許りでなく、民間の議論も之に和唱し甚しきは基督教を以て我が國の國教となすべしとの論を唱へた程であつた、されど其成長たる筈の如く又若芽の如く速がてはあつたかなれども亦至つて薄弱であつた、上下の形勢斯の如きであつた爲め基督教の進歩が潮の満るが如く又太陽の東天に上る様であつた。

#### 九、内生の時代

第四は内生の時代であつて明治二十三年より同三十三年までは所謂反動の時代であつて、日本主義、國粹保存等の唱へられた時代である、教會の内にも此感化が及て排外的の精神が頗る盛んで此時代には色々面倒な問題が續出した、

##### 一、教會と宗教の衝突

##### 二、内外人の衝突—同志社問題

##### 三、神學問題

此時代は教勢の頓挫を來たし退歩をなした様であれども實際は内に成長した時代である、恰も植物に秋冬には更に外に向て其成長を見ざるが如くなるも、内に成長するを見る如く内生を爲した時代であ



る、而して此時代の進歩と云ふべきは思想の獨立と教會の自給である。

### 十、成長の時代

此教勢不振の形勢を一變したのは三十四年の大舉傳道であつて、此より傳道の形勢が順境に變つたのである、其後に起つた日露戦争は我國民の思想を世界的になす上に、非常な効力があつた、殊に戦争中天皇陛下より一萬圓の御下賜金が基督教青年會の天幕事業にあつた事は我國民に偉大なる感動を與へ基督教に對する凡での偏見惡感を根本より排除したと云ふ事が出来る。

### 十一、異例な事蹟

以上は其歴史の大略であるが、爰に五十年の記念を爲すに當り一つの他にその例を見ざる事は我が國には幾ど一人の殉死者なき事である、先づ第一は宣教師中一人の教の爲め殺されたるものも負傷したるものもない事である、隣國なる清國の如きは數年前の團匪の亂丈けても宣教師の殺されたるもの百名以上に上つて居る、初めより殺された人を數へ上れば幾百と云ふ多數に上るであらう。

信徒の殺されたるものに至つては幾百と云ふのでなく幾千と云ふ多數に達して居る、然るに我國では如何、御維新當座に入獄したものは二三あつたかなれども殉教者と云ふは宣教師にも日本の信徒にも一人もないのである。

此は實に著しき事と云はねばならぬ。

### 十二、有形的文明の進歩と比較

我國の傳道の成功著しきは勿論であるけれども、有形的文明の進歩の速かなるに比すれば逆でも比較の出来るものでない、五十年以來の商工業の進歩、教育の進歩、學術の進歩、政治法律の進歩、何れも驚嘆の外はない、殊に我國力の進歩は幾ど奇跡的である、五十年前迄は隱遁國として列強國の間は勿論、世界の列強に齒せられなかつたものが、五十年後の今日世界の列強と肩を並べて別に遜色なき程となつた、その進歩に比すれば基督教の進歩は尙ほ遅々たりとせねばなりません。

### 十三、基督教の進歩が比較的遅々たる理由

何故に基督教が他の文物と歩武を並べて進歩せないか、第一の理由は宗教心は最後に發揮するものなるが故である、第二は宗教の如き高尚なる事の理非、利害、得失は他の有形の文物の如く容易に知る可らざるが故である、第三には我國獨特の事情として三百年來我國民の頭腦に基督教は邪教である妖怪であると云ふ偏見惡感を深く浸潤せしめたが爲めである、此の偏見惡感は容易に取り去る事が出来ぬ、第四は國體と基督教の間に衝突ありとの迷心が深く我が國民の精神にしみ込み居て容易に一掃すべからざるものがある、加藤博士の如き人が今日も尙ほ斯る迷信を抱かれて居るを見ると此の迷心の根底決して淺からぬを知るのである。

### 十四、我國の大缺陷



我新日本國の文明たる尙ほカッタ文明たるを免れない、政と教は車の兩輪、鳥の兩翼の如く片々其一を廢する事の出來ぬものである、然るに維新以來新日本を作るに當り政治法律の方面は泰西文明國の制度に倣ひ新制度を採用したかなれども、教の一方は其まゝにして省る事なく幾ど識者の間に於て放擲せられて居る様な姿である、是れ佛を造て魂を入れず龍を描て眼睛を入れざるが如きもので大な缺陷と云はねばならぬ、斯の如きカッタ文明は到底永く立つ事を得ないものであれば、速にその缺陷を充すのでなければ由々しき大事である、此は單に國家の上より考ふるも實に重大なる問題である、吾人は過去五十年に於て基督教の基礎を据へたれば、今後の五十年に於て新日本の文明に眼睛を入れ魂を入れ維新の大業を全ふする事を務めねばならぬ。

十五、今後の傳道個人の教化

終りに於て云ふべき事は一つある、それは五十年後に今日の基督教は如何なる位置にある乎の一事である、今回列席の支那の宣教師アルサー、スミス博士は會て其著述の「支那の村落制度」に於て清國教化の將來を論じ準備に百年、基督教思想の傳播に三百年、個人の教化に四百年合計八百年を要すべしと云はれた、今回博士の標準によりて我國傳道の現狀を洞察するに、我國は已に標準の時代を過ぎ、基督教思想の傳播の時代を過ぎ、將に個人教化の時期に移らんとするの時である、其理由は一々爰に掲ぐるを得ないかなれども、基督教的思想の強く我が國民の間に普及して居るのを見て知る事が出来る、

果して然らば一昨年支那にて百年の記念會を催ふしたのは準備時代を過ぎた事の記念であるかなれども、我國の記念會は基督教思想傳播の時期を過ぎた事を記念とする事が出来るだるふ、爰に至るに五十年を要せし事であればスミス博士の標準に従へば個人の教化に更に五十年を要するであるふ、果して然らば則ち我國の宣教百年の記念會には我國が眞實の意義にて基督教國となつたのを記念と爲す事が出来るであるふ、吾人今よりその來らん事を待て此記念會と共にその信仰と精神を一新し非常なる決心を以て個人傳道の責に當らねばならぬ。(終)

五十年の回顧

神學博士 ウヰルリアム、イムブリー

過去五十年間に於る日本の歴史は驚くべき歴史である、數百年間嚴重に門戸を鎖して外國とは交際を爲なかつた國民が急に港を開いて世界と交通するやうに成つた事といひ、王政維新といひ、廣く知識を世界に求むるといふ御誓文といひ、鐵道の敷設、日刊新聞の發行、大學の設立、法律の改正、憲法政治の實施、非常の精力と智慧と勇氣と忍耐とを以て遂に世界列國の中に立つて第一等國の地位を占た事といひ、又歐洲の一大強國と戦つて連戦連勝の後能く自制の精神を以て和を講じた事といひ、キ



リスト教會の建設といひ僅か半世紀間の出来事としては實に不思議と申さねばならぬ。

四六

僅かに五十年前にはキリスト教は國の嚴禁であつた、切利支丹宗門堅く禁制たる事といふ制札は全國至る所に掲げられてあつた、今日では此等の制札は歴史上の參考品として帝國博物館に陳列されてある、五十年前には日本にまだ信教自由といふ言葉さへなかつた、今日では信教自由は帝國憲法の一箇條と成た、五十年前には聖書を公然と印刷するものが出来なかつた、今日では何の故障もなく聖書會社は聖書を全國に頒布して居る、五十年前には日本國中に一人もプロテスタントの信者はなかつた、今日では帝國議會の議員中にも、裁判官の中にも、帝國大學の教授の中にも、有力なる新聞記者中にも、陸海軍の將校中にもキリスト信者がある、四十年前には日本中にも一つも組織立つた基督教會といふものはなかつた、今日では北は北海道より南は臺灣まで到る所教會があり且大會もあれば總會もあれば部會もある、然かして本日は日本國中東西南北よりキリスト信者が首府に會合して宣教開始第五十年を祝するに當り、國務大臣其他顯要の地位にある人々が祝意を表せらるゝ次第である、或時は現にその事に與る者はその意義を明白に理會せぬ事があるものではあるが、本日の大會の意義は眞に深且長なりと申さねばならぬ。

プロテスタント基督教が始め日本に傳へられてから次第に弘まるやうに成つた時の歴史は日本の教會史に於て必らず永く記憶せらるゝてあらうと思ふ、其頃から次第に人がキリスト教を聞たがるやうになつて來た、處々方々から傳道の請求が來た、そつといふ事は何も珍らしくないやうに成つた、その時分にはキリスト教大演説會があれば何時でも満員で四五百人の男女の聴衆が公會堂や演劇場に於て午後一時から五時過までも熱心に聴聞して更に倦怠の様子が見えぬといふ有様であつた、此の如き勢であるから傳道者は熱心に充ちて四方に出掛るし、會員も一般に祈禱を以てその傳道を助くるといふ情態であつた、實にその頃は三年毎に教會員の數が二倍づゝ増加した、此勢で進歩すれば日本の諸教會は久からずして全く自給獨立するに至るであらうといふ希望も起つた。

そこで日本基督教會と協力する諸ミッションは此等の事實を叙して本國の傳道局に對し特に日本の傳道に力を用ふることをその傳道方針の一ヶ條とせんことを建議したとがある、そうしてその一節に此の如き事がある、

今を去ること百年前、歐米の教會は汝等往きて萬國の民に教へよといふ天來の聲を聞いた、その當時人々は然らば我等は何處に往くべきかと問ふた、今や日本の海邊に立ちて絶叫する一人の人がある曰く願くばアジャに渡りて我等を助けよと、此れは是れ日本國民の聲である、我等は是非共その聲を聞いて往かねばならぬ、凡そ國の事には個人の夫れと同じく滿潮の時がある、收穫にも時期があるが今や日本は收穫の時期に達した、我等が工人の派遣せられんことを祈るはその既に色付きたる田地に來りて鎌を入れんことを求むるのである、他國民は待つても差支なからうが此國民は最早

四七



一日も待つことが出来ぬ、

是れが其頃日本基督教會と協力する諸ミッションが聯合して米國及び蘇國の教會に訴へた所である、處がその頃から一種の反動が起て來た、初めには徐々として來たが後には捲土の勢を以て來た、その結果社會一般にキリスト教に對して冷淡に成り遂には反對する様になつた、一旦受洗して教會に加入した者も次第に墮落して諸教會の公禮拜も寂寥さびしかけて來た、一旦自給獨立した教會も獨立を維持する事が出来なくなつた、一旦猛火の如き勢であつた傳道精神も殆んど消かけた、數年前の驚くべき成功の話を聞いて米國などから渡來した壯年の宣教師等は日本に來て見て評判と實際と甚だ相違して居るとを驚き且失望した次第であつた。

是れが當時の大反動であつたが全體何がその原因であつたらうか、思ふにその原因は外ではない、當時は歐化主義全盛の時代でキリスト教も歐洲文明の一要素として一般に歓迎せられた、それが爲に之を奉じた人も澤山にあつたに違ひない、そつといふ鹽梅であるから格別心靈上の實驗も何もなく極々淺薄な考へて教會に加入したのである、夫れ故に天空の鳥が飛んで來れば天國の種は直ぐに啄まれて仕舞ひ、太陽が出て照付れば苗は枯れて仕舞ひ、棘が繁げればその種は忽地蔽おほがれて仕舞つたのである、實際天空の鳥も來れば太陽も照付るし荆棘も生長繁茂したのである。

帝國憲法は愈々發布せられ帝國議會も愈々開設せられた、此に於て國民の思想は自然に此等の新方面

に傾き國民一般に政治に熱注するやうに成つた、且又その頃より日刊新聞も盛大に成つて來て人の注意を惹くやうに成つた、縱令歐米諸國に於ても萬一その國の政體が根本的に變ずる様な事があれば如何であらうか、恐くは人心非常に激動して中々落付て靈魂上の問題を考へる餘裕はあるまい、是れ即ち天空の鳥が來たのである、すると亦其處へ突然と排外思想が起つて來た、どうしてそつといふ思想感情が起つたかといふに日本政府は再び條約改正を試みて失敗をした、そこで國民は激昂した、その結果凡そ外國のものといへば風俗であらうが思想であらうが一般に之を排斥するやうに成つた、そうしてキリスト教は歐米から傳へられた宗教であるからその連累ついでを喰ふて排斥せらるゝやうに成つた、加之のみならずキリスト教と日本の國體とは水火相容れぬものであるとの聲が高く成つて來た、是れは即ち太陽が照付たのである、尙その上に、折も折、極端な新神學なるものが渡來したのでキリスト教會は之れが爲にも亦一打撃を蒙つた、是れは即ち荆棘が内から生長したのである。

反動の由來は大略此の如きものであるが然し最初の進歩及び之に續いて來た反動の歴史は日本のキリスト教會史に於て永く記憶せらるべきものであらう、成程糞糠も澤山にあつたに違ひないが麥も澤山にあつた、即ち眞實にキリスト教を信奉し忠實にキリストに事へた人も決して少くなかつたのである、實に現今日本にある、プロテスタントの教會はその結果であると明言して差支ない。

今一つの序に申すべき事がある、傳道の盛んに進歩した頃我等は他國の傳道の一方向に振はない様子を見



てその振はないのは何故であらう、もしや傳道法を過つて居る爲ではなからうかといふ疑問を起した  
 そうして又日本でも反動が來て傳道不振の情態に陥つた時にこれは何故であらう、もしや我等の方法  
 が悪いのではあるまいかといふ疑問も出た、然し是れは孰れも極めて淺薄な考である、神は進歩の中  
 にも在まし亦反動の中にも在ましたのである、その孰れにおいても同様に神は日本の教會のみならず  
 他國の教會にも幾多の重要な教訓、就中最も重要な教訓即ち全知全能の神は列國の盛衰興廢を統  
 御し給ふといふことを教へ玉ふたのである。

然しながら反動の時期は既に過去つて今や回復の時期と成つた、然らば前途は如何であらうか。

さて現在の形勢を視るに日本には數個のキリスト教主義の學校がある、中には創立以來大分年月を經  
 たものもある、此等の學校は到底統計上には表はすことの出来ない感化を國民の中に及しつゝある、  
 尤もその統計表を見ても中々感ずべき事もある、此等の學校は孰れも夫々固有の歴史もあれば特長も  
 あるが此に特筆すべきことは日本に於ては最初のキリスト教會はキリスト教主義の學校から生れたと  
 いふ事實である、それから亦キリスト教青年會は青年の間に於て種々の事業を營んで居る、彼等を種  
 々の誘惑より救ひ彼等に新理想を與へ新興味を有たしめ彼等を高等の生活に指導し凡そ善事とあれば  
 何事でも之に従事するの覺悟を有し官民一般より多大の賞讃を得て居る、尙其他に女子キリスト教青  
 年會もあれば聖書會社もあり、聖教書類會社もあれば禁酒會もあり、孤兒院もあれば慈愛館もあり、

慰廢院もあり、慈善病院もある、此れ等は皆キリスト教を擴張し證明し推薦する所の器械である、主  
 も之れを見て我病しとしき汝我を見舞ひ我獄に在りしとき汝我に來れりと賞め給ふところのものであ  
 らう。

現在日本のプロテスタント信者は七萬五千程あるが公然之を告白せずに内心に信仰して居る人は尙其  
 他に澤山あるに相違ない、既に按手禮を領して教職にある人が百人以上教職志望の神學生の數は三百  
 人以上、全然自給獨立して牧師の俸給を支辨する教會が約二百半ば自給の教會が五百以上、未だ教會  
 に組織せられぬ講義所の數が殆んど一千程ある、日曜學校の數が約一千二百、その教員及び生徒の數  
 は合計約九萬人、前年度諸教會の献金額は金二十六萬圓である、先づ統計は概略此の如きものであ  
 る。

然しながら回復の時期と現在の大勢とを達觀しやうと思へば統計以外の事も觀察して見なければなら  
 ぬ、近時日本の諸教會、殊にその中で創立も早く勢力も強いものはキリストの教會として亦日本の教  
 會として一層深き自覺を有するやうに成り然してその結果キリストの教會として亦日本の教會とし  
 て一種の新なる抱負を有ち又更に重大なる責任を感ずるやうに成つた、然かしてそれと同時に教會は  
 活氣を帯びて來た、一面には財政上の獨立は靈的の健全及び生長に欠くべからずといふ主義は愈々強  
 く主張せられ又一般に認められ、自給する資力なき教會はその設立の目的を全ふすることが出來ぬそ



れ故に自給獨立の教會と對等の權利を有すべき筈がないといふ主義も一般に認められて來た、そうして他の一面には諸教會は夫れ夫れ種々の機關を設けて一層組織的に且一層熱心に傳道に従事するやうに成つた、固より尙創業時代であるゆゑに未だ盛大とは云へぬ然しその芥種は生長しつゝある、是より益々生長するであらう、最初の進歩の時代及び反動の時代には教會の指導者は大抵青年であつた、然し當時の青年は早や既に分別盛の中年の人と成つた、且彼等は最初の進歩の時期も反動の時期も經過した實驗を有て居る故に現在の教會を指導するには最も適任である、加之のみならず彼等に續く所の有爲の青年も澤山に居る、然し教會の組織及び指導も必要は必要であるがだゝそれ丈では行かぬ、常に勝ち又將に勝たんとするキリストの教會には必らず一の使命がなければならぬが日本のキリスト教會は既にその使命を有つて居る、その使命如何となれば是れ他なしキリストに在る神の福音は即ち救に至る神の能なりといふ眞理であるが此の眞理は實驗から生れ出た確信であつて此確信は益々堅固に益々鮮明に成つた、今一つ申したい事がある、若しも日本の諸教會に此覺悟があるならば、日本の諸教會と協力して神の福音を宣傳する爲に外國から渡來した人々も同様の覺悟がある。

乍然神の靈は諸教會及び後援者の中に活動した許でなく之と同時に國民の中にも活動したことを見る、キリスト教の眞理及び主義は漸々人心に浸入しつゝありキリスト教文學は多くの人の想像するよりも遙かに廣く讀まれて居る、而も之を讀む人は信者のみではない未信者である、諸預言者及び使徒

等の言は支那の古聖人の言と共に日刊新聞に引用せられキリストの教訓も次第に人口に膾炙するやうになつた、今では聖書程一般に廣く愛讀翫味せらるる宗教書はない、現在日本の倫理思想は随分混亂して居るが多數の人はキリスト教倫理を以て人生最高の標準と認めるのみならず假令自身には未だその道を踏まなくても生命に至るの途はその窄き門と狭き道より外にはないと悟つて居る人も少くはない、又キリスト教世界觀も段々一般に理解せらるゝやうに成りキリスト教の説教者が公衆の前に立つて神といふ語を用ふる時にその神とは即ち永遠無窮萬古不變にしてその榮光を以て宇宙に充滿し給ふ所の活ける存在者であると様なことを説明する必要は殆んどなくなつた、此の如く教會の周圍にも或は探り得ることあらんとて神を求めつゝある人の輪は次第々に廣まりつゝあるのである。

是れが現今の情態である、今や茲に一の叫の聲が聞える、その叫の聲に曰く、諸の谷は埋められ諸の山は夷げられ曲りたるは直ぐ峻しきは易くせられ主の道は備へられたりと、實に主の道は備へられ門戸は廣く開かれた、然し我等は今自ら欺いてはならぬ、大事は將さに是れからである、近來頻に唱へらるゝ一の標語がある、即ち現代中に全世界に福音を宣傳し了るといふ標語があるが本當に世界萬國に福音を傳ふる事即ち人がキリスト教を好く理會して之を信じ又は棄るまで叮嚀に説明するといふ事は實に非常な大業である、恐くは未だ曾つて此の如き大事業は他に無からうと思ふ、試みに智的の困難を考へて御覽なさい、神の存在に反對する哲學の系統やキリスト教の世界觀に反對する哲學系統も



ある、又汝心を盡して主たる汝の神を愛し己の如く汝の隣を愛すべしといふ誠を遵奉する事に對する社交上及び道徳上の困難を考へて御覽なさい、支那や印度や亞弗利加の事や又千九百年來キリスト教の感化を受けて居る所謂キリスト教國の事をも考へて御覽なさい、

若しも全世界に普く傳道する事がそれ程困難であれば一國民に普く傳道するのもそれに准じて困難な道理、日本國民に普く傳道するのも同道理である、若しもそうでないといふ樂天家があらばそれは極めて思慮淺薄な樂天家と云はねばならぬ、本當に日本全國に福音を宣傳するといふ事は中々容易な事業ではない、それが爲には勤勞も入用であるし時間も入用である、到底一氣呵成に成る事ではない、譬へば十分に防禦工事を施した城砦を攻るやうなものである、之を攻陥するには勇氣も入れれば耐忍も入れれば辛抱も入る、恰かも旅順を攻落すやうな譯である、故に「汝精兵卒（せいへいそうちゆう）の如くキリストの精兵卒（せいへいそうちゆう）の如く諸の苦難を耐忍ぶべし」是れが即ち今日日本の諸キリスト教會が服膺すべき命令である、

## 第一講演會

(明治四十二年十月六日午前九時)

### 基督教教育の前途

東山學院長 エ、ピータルス

基督教教育は無論男子の普通教育にのみ限らず、女子の教育も神學校の教育も其中に含まれて居ますけれども、此等の問題は特別に調べた御方が、後で御話なさる機がありますから、私は唯だ普通男子の教育の結果のみを申上様と思ひます。併し始めから行はれた基督教教育の結果を残らず調べ上るといふ事はとても出来ませんでした。一時盛んであつて後程廢校された基督教學校は數ヶ處にありました、例ば新潟の北越學館、聖公會の聖提摩太の學校の如き者は暫く有益なる働をしましたが、事情の爲に續く事が出来ませんでした。此等の學校の効果を調べしその材料は不充分ですから残念ながら、其等は唯今の研究には入れる事が出来ませぬ。

此通り制限して見れば、今舉げやうと思ふ統計は、同志社學校、明治學院、鎮西學院、青山學院、東北學院、東山學院、關西學院、桃山中學校、東京學院等であります。此等の學校に就て三の點を互に研究しやうと思ひます。第一には其卒業生の數、又た其職業の事。第二には社會の上に與へた一般の



感化。第三には基督教會又た基督教會の運動に貢献した事。先づ第一に統計を調べまじやう。先づ此等の學校の設立以來幾人の青年男子が其内には入つて教育を受けたかといふに、確實にはわかりませんが、見積の種として年々の三年級生徒数を數へて見れば、其數は殆んど一萬人であります。一般の経験に依つて計算して見ますれば、入學生の總數は三年級生徒數の倍ばかりでありますから、之を標準として見積つて見れば、いくらか我教育に接して其感化を受けた者は二萬人になるまいかと思ひます。尤も之は唯だ概算であります、既に廢校した學校と今ある學校の組織が不充分であつた時代の生徒を加へて見ますれば此見積は格外に高い者だと思ふ事は出ますまい、却てまけて作つた積りて御座ります。

扱て此二萬人の中で卒業した者は幾人てしやうか、神學校を除いて各學校の卒業生の數を擧て見れば左の通てあります。

	中學部	高等部
同志社學校	五八九	七一
明治學院	三七六	一三八
鎮西學院	一三〇	五九
青山學院	三八六	一九〇
東北學院	一一九	五五

これに立教學院と名古屋英和學校の卒業生を加へて見れば、確かに中學部の卒業生は二千五百六百人、高等部の卒業生は約六百人になりまじやう。併し此に兩部に學んだ人は二度數へられて居るから、其を除けば全躰の數は三千人に足りまじやうと思ひます。

關西學院	八二	四
東山學院	七五	
桃山學校	二九三	一一
東京學院	四三	二
聖學院		
立教學院		
英和學校		
合 計	二〇九三	五三〇

卒業生の職業を區別して擧げますれば此通てござります、統計は不完全であります、大抵の事はわかりまじやう、二千三百四十四人の履歴を調べましたが、其中に現今牧師、傳道師、又は其外布教に従事せる者七十人、諸種の學校に出て教育に従事せる者二百七十六名、官吏百十七名、様々の實業に従事せる者六百五十六名、陸海軍に屬する者二十九名、其外醫師、辯護士、新聞記者など、なつた者合せて四十七名、未定又は在學中の者八百三十七名、行衛不明の者百六十三名、永眠したる者百四十九名、であります。今此統計を百分比例にして見ますれば百人の卒業生の中で布教に従事せる者三人、教育



家十二人、官吏五人、實業家二十八人、陸海軍に出る者一人、其他の職業に従事せる者二人、まだ在學中の者三十五人、行衛不明の者七人、永眠した者同じく七人でござります。

唯だ統計上から此等の學校の結果を考へて見れば、決して誇るべき事ではありませぬ。却て費した錢と教員方の給料の割合に卒業生は少いと謂はなければなりません。併し統計を重んじ過ぎる事は昔ダビデ王の大罪でありました。私共も此罪に陥らない様に注意をせねばなりません。全體基督教教育は今存在する所の學校にのみ限りまじやうか、決してそうではないと思ひます。ヘボン夫人が明治四年に横濱に於て開いた學校はミッション、スクールの始まりで御座りますが、フルベッキ先生は長崎で、ブラウン、バラ、タムソン、ヘボン先生たちは横濱で、其前十年間若い人々を教育しました。此教育は名義上基督教教育ではなかつたですが、先生たちの精神と目的の方から考へて見れば、さつと基督教主義教育と謂つても差支御座りませぬ。又た其結果は此國の開發に精神上の刺撃を與へたに相違は御座りませぬ。ブラウン、フルベッキなどの先生たちは此教育に依りて、あとで有力な政治家、官吏、外交家などとして社會を指導した多くの人に世界的の眼光を與へ、其偏見を破り其信用を得其理想を高め、其知識を研いた事は疑いなき事實で御座ります。此教育は明治時代の開發の準備となつて後來にどれ程貢献したか容易に測る可らざる事であらうと思ひます。

扱て組織的基督教教育を始めましてから、今迄の出身者は社會の進歩發達に貢献した事があるか、日

本は過る五十年の内に驚くべき進歩をしましたが我學校に學んだ者は此物質上又た精神上の進歩に關係があつたか無つたかといふに、大に關係がありました。少數の卒業生の中から出た實業家として、官吏として、教員として、新聞記者として、著述家として、新日本の開發に大に貢献したる者は割合に澤山御座ります。又た感化の廣い事を調べて見れば、實に驚く可き事御座ります。尤も或職業に従事した者は少なふ御座ります。例へば陸海軍に屬する者は殆んど御座りませぬ、又た醫師、辯護士となつた者も僅かしかありませぬが、實業家として國の物質上の進歩を助けた者は大分あります。即ち既に申しました通り、卒業生の四分の一ばかりは實業に従事して居ます、其過半數は無無論普通の生活をして居つて餘り社會の目につく成功を得て居るとは謂はれませぬ。アメリカの大統領リンカンは或時「神様が澤山の普通の人を造り給ふたから定めて神様は普通の人物が好きである」といひました。如何にもそふて御座ります。私共は決して普通の生活又た一般の實業を見下してはなりません。我等の學校の卒業生の多數は一般の實業に従事して居つても若し各我が身分に應じて力を盡して働いて居れば、これに國に仕へ又た神に仕へて居ると謂はねばなりません。我教育を受けて實業家と成つた人々の働さを一々調べる事は出来ませぬが、私が思ふには、他の人に負けないで國の物質上の進歩に貢献した事があると思ひます。又た其中には銀行の支配人となり會社の社長となり其外大事なる事業をやつて居る者は大分あります。



其から官吏政治家などはいかゞてしやうかといふに、百有餘人が此等の職に従事して居ます、多數の者は矢張普通の位置を得て市役所、縣廳、郵便局の様な官衙に出て居ますが、餘程出世した者もあります、帝國議會には數名の貴族院議員、衆議院議員が居ります、外交家には全權公使を始め、下役の者が居ます。又た其外に岐阜縣の縣知事、横濱市の市長、長崎郵便局の局長の如き者も居ります。併し基督教々育は國の文明の發達に貢献して著るしき成功を得た事は既に申上た實業界、政治界よりも、謂はゞ思想界に於て効果があつたのであります、此は間接な感化であります、此よりも大事な事は御座りませぬ。所謂舊日本と新日本との區別は何處にありますかといへば、色々ありまじやうが、つまるところ思想が違つて居ます。昔の思想もいくらか變化してしましたるふが、其のみでは無く新しい思想が澤山は入つてきました、民權の思想、自由の思想、教育の思想、婦人のねうちに関する思想、男女の交際に関する思想、家庭に関する思想、學術上の知識、歴史上の知識などは無論の事、新しい道徳上の思想、宗教上の思想、も澤山は入つてきました、舊日本は合衆國の西の方に澤山ある處の乾いたる山中の谷の様な所でありました、其處は地味もよく空氣も清く、溫度も丁度適當であつて、日も立派に照て居りますが、唯だ水のみ欠けて居りますから、作物は僅かしか御座りませぬ。そんな處に水道を造つて水をさへ引きましたならば非常な收穫が出来るのであります。恰も其通り舊日本に新しい思想がきて恰も水が沙漠を潤ふすが如き働をしましたから、直に世界中の人々を驚かす程の進歩發達

が見へたのであります。日本の山と海とは昔の通りであります、日本の國民も急に魔術的に變つたかといふに、そふてはありますまい、根本は昔と同一の國民であります、新しい思想が入つた御蔭で殆んど別世界となつたのであります、是は誰も承認する事てしやうが、此水を引いた水道の働は難有い事では御座りませぬか。こう考へて見れば新しい思想を輸入するに比較すべき事業がありましたらうか、決してないと思ひます。扱て西洋の知識又た思想が日本に輸入された機關は外國語でありました、併し獨逸語、佛語の勢力は或専門の學術にのみ限りましたから一般の思想を引いてきた機關は無論英語であります。従つて英語を教へる教員ほど社會に惡を施す者はないと思ひます、こふ考へて見れば、ミッション、スクールは社會の一般の進歩に著るしく貢献したに相違がありません。皆さん御承知の通りミッション、スクールは常に英語研究に重きを置きましたから、其出身者は到る所の學校に歡迎されて居ます。其出身者の中に中學校教員を持たぬミッション、スクールはありますまい。其のみならず高等學校、高等師範學校、高等工業學校にも澤山出て居ます、東北學院、明治學院、青山學院、同志社學校、鎮西學院、東山學院は高等専門學校に教員を興へたのであります、又た帝國大學の教授になつた者もあります。教育は文明の生命でありますれば、我基督教學校は帝國の進歩に大關係があります。併し、新しい思想を輸入する事業は諸種の學校に行はるゝ教育のみではなく、も一つの大事なる機關



があります、それは何であるかといへば新聞、雑誌及び著述であります、筆を執る人は社會を動かす道具を握つております、新聞記者と著述家は社會の教育家であります。日本の新文明の最も重要な現象は、其新文學であります、基督敎學校の出身者は此新文學にも關係がありますかといふに、關係があるのみならず、其開拓者であると謂つても差支がないのであります。今盛んに行はれて居る雜誌の事業はどうして始まりましたるか、徳富猪一郎氏の『國民の友』に於るが如き、又植村正久氏の『日本評論』に於るが如き、又島崎、戸川、平田諸氏の『文學界』に於るが如き者は日本の新文學を鼓吹した先祖であると謂つても過言ではなからふと思ひます。

此現象は唯だ昔のみの事であるといふ譯ではないので御座ります、現在其主筆として又記者として基督敎學校の出身者を持つて居る新聞雜誌の名を擧て申しますれば毎日新聞、國民新聞、報知新聞、大阪朝日新聞、名古屋扶桑新聞、鹿兒島日々新聞、長崎の鎮西日報、東京朝日新聞、萬朝報、河北新報、仙臺日々新聞、實業の日本、英文新誌、冒險世界、文庫、早稻田大學出版部、中央公論、太陽、仁川朝鮮新報、門司新報などあります、大抵その様な記者を數名持つて居ります。取急いで調べました上に此丈がわかりましたが、まだ此外にもありまじやう。

又著述家はあるかと尋ねますれば詩人には島崎藤村、文士歴史家には松村介石氏、心理學者には故大西祝氏、小説家には徳富健次郎氏の如き人々があります。誰か此新文學の感化を測る事が出来まじやう

か、誰も出来まじやうと思ひます。従つて此等の人物を通じて社會に精神的刺撃を與へた基督敎教育の成功をも測る事は出来まじやう。

次に我教育は基督敎會と其色々の運動にどれ程の關係があるかといふ問題に移りまじやう。明治四年から組織的基督敎教育が始まりましたから今迄三十八年を経過致しました、其間の出身者は社會の上に又傳道事業の上にとれ丈の感化を與へたかといふ問題を調べやうとすれば、先づ第一に明治三十四年此方の卒業生を皆論外に置かねばなりませぬ、なぜならば其間の出身者は皆近頃學校を出て其多數の者はまだ在學中であるから御座ります。既に學校をやめて社會に位地を得た人でもまだ著るしき功勞を現はす時か御座りませぬ、最近の八年を除けばあと三十年残ります。其三十年を又分て見れば二つの時代があります、此二つの時代は非常に互に異つて居ります、埃及の國は七年間豊年であつて其から七年間引續いて飢饉があつた通り、以上述べた初の時代は基督敎學校の豊年で御座りました、其次第は社會が其を歓迎しましたから従つて生徒も多くなりまして立派な出身者も亦た澤山出来ましたが、其から後大なる反動が起り社會が批評的眼光を以て我等の教育を見る様になつて生徒も減り従つて好い出身者も比較的少くなりました、尤も全く無かつたとはいへませぬ。其第一の時代は日本基督敎會、組合敎會、聖公會が生れた時ですが、此三の敎會は始から基督敎學校に負ふ事は尠く御座りませぬ。日本基督敎會の第一番目の敎會を組織した者は二三人を除くの外は宣教師の教育を受けた學



生で御座りました、熊本團隊は同志社に往つて、そうして組合教會に非常な刺撃を與へたのは誰も承認する事であるから、委細の事を申上る必要はありません。又た段々進歩してから後の各教會の先輩といふべき兄弟たちは、殆んど皆其時代の基督教學校の教育を受けた者で御座います。聖公會の教育も豊かに實を結んだ實例として聖提摩太學校を御覽なさい、此學校は小さい學校で校舎も教員も充分でなかつたそふてあります、又た唯だ暫くの間しか存在しなかつたから卒業生は一人もありませんのでしたけれども其にも關らず非常に成功したと謂はねばなりません。チン教師のあかしに依れば聖公會の先輩者は數名此學校に勉強して其れに依つて導かれて己を神様に献げて傳道界には入つた相て御座ります。

私は先刻初の時代を指してミッション、スクールの豊年といひましたが其時代に得た出身者の中に日本基督教會の植村正久、井深梶之助、島田三郎、メンヂスト教會の本多庸一、根本正。組合教會の宮川經輝、海老名彈正、小崎弘道。聖公會の元田作之進等を始め、多くのエライ先輩者の働と人格と勢力とを考へて見れば實に豊年であつたては御座りませんか。其時代の重なる教師は數名を除くの外皆教育の門を通つて教會には入りました。やがて教會の指導者となつて其土臺を堅固に据へ今ても其が爲めに盡力してやまざる者は矢張其時代のミッション、スクールの出身者で御座ります。或宣教師が私にてた手紙に書いた通り、「若し基督教教育がなかつたなれば、殆んど基督教の運動が無つたらう」と

と思はれます。

扱て第二番目の時代から今迄は如何てしやうか、生徒は大抵信者となりますか、又た學校を出ても信仰を保つて居ますか、卒業生は到る處に福音を傳へて模範的の品行を以て基督教教育の榮を現はして居りましやうか、又た卒業生の大多數は献身して世の快樂を棄て、教役者となりましたしやうか、残念ですけれども此等の間に答へて必ずさうであるといふ事が出来ませぬ。此處にも出来る丈統計を調べましたが其得た統計は餘り不完全でありますから寧ろ其を出さない方がよかろふと思ひます。此談の準備として多くの牧師に手紙を出して其御方々の考を聞合せました。其返事の中に非常に基督教教育を譽めて呉れる者もありましたけれども、大抵の者は小言を申しました。即ち學校の出身者は大抵教會に向つて冷淡なる態度を取つて居る事。又た學校では信者であつても出た後には其旗を翻がへさないから其て「學校信者」といふ名前が出来ました事。基督教教育を受けない者よりも罪惡を犯して居る事。學校で基督教に飽いて居るから、今はどうしても彼等に近く事が出来ない事。かやうなことを書いて御送りなされました。此様な意見は多くの地方より來ましたからそれ此は悲觀的て有といふて無視する事は出来ませぬ。そうするよりも寧ろ澁泊に其事實を認めて此點に就いていくらか基督教教育の結果は失敗して居るといふ方がよいと思ひます。どうかもう少し深く生徒に感化を與へてもう少し多くの者を信仰に導き又た献身させる事が出来ませぬかと常に嘆息して居ます。此は我教育の一つの



大問題であります。

宣教師がミッション、スクールを建てた時代には重なる目的とした事は教役者を養成するといふ事て御座りました、どうか澤山の青年を集めて、其中に有力なる者を教役者とならしむる事を望んで居りましたが此目的を達しましたるか。神學校を入れて調べるならば勿論達しました、只今全國にある教役者の数は凡そ千人ありますが、其中に少しも基督教學校に出なかつた者は、餘程少いでしやう。併し此に普通教育のみを考へて見れば僅か百人以内でありますから、總ての教役者の十分の一に過ぎませぬ。是は實に残念であります、先刻申しました通り始めの十五年間は豊年でしたが其から十五年乃至廿年間は非常な凶作でござりましたから、今の通りになりました。是は基督教教育に従事する私共の一番苦しく思ふ事て御座ります。幸に神様の恵に依りて此頃大分よくなりつゝありますから、將來は望があります。

併しながら此處にも亦た人の頭を數へる事よりも寧ろ其働の價値を見なければなりません。珍らしい事は普通教育を受けて而して神學校を通して教役者となつた者は大抵重なる自給獨立教會の牧師となり又は神學校の教師となり又は他の方法で特別に教會の指導者の位置に立て居るといふ事て御座ります。其を調べやうと思へば、基督教會の中にある特別な運動即ち教會の信仰をも養ひ世間にも基督教の精神を紹介する運動を御覽なさい、第一には基督教新聞雑誌は現在の教會に取つては絶對的に必

要てありますが、其主筆なる者又た記者なる者は何處から出たてしやうか。福音新報の九人の中に一人は帝國大學、も一人は早稻田専門學校の出身者であります。此二人は其兩學校に行く前に基督教學校に居つたか居なかつたか知りませぬ、其外の七人の御方は植村先生を始め基督教學校から出たのであります。尤も其内には只た神學校のみに勉強した者が居るかも知れませぬが餘計にはありません。基督教世界の八人の記者の中に其主筆なる加藤直士氏は北越學館から出ました、其から關西學院から一人、同志社から二人出ました。残つて居る四人は色々の教育を受けました。此通り基督教の新聞を一々調べて見れば、記者の大過半数は基督教學校の出身者であります、其中に唯だ神學校のみに居つた人もありますが大抵普通科を卒業した者て御座ります。青年會の事業も亦た同じ事てあります、初めから大に此運動の爲めに盡力した丹羽清次郎君は同志社の卒業生であります。また其外青年會の幹事の過半数はミッション、スクールの出身者であります。青年會が初めから今迄使つたミッション、スクールの出身者の數を聞きましたら其返事には十四人の名がありました。其中に同志社から三人、東北學院から二人、青山學院から四人、明治學院から二人、鎮西學院、東山學院、關西學院から各一人宛出て居りますが、外にも居つたてしやう。日露戦争の天幕事業は大邊盛んであつて非常に社會の注意を惹いたのでありますが、其時青年會が使つた二十二人の幹事の中に十五人はミッション、スクールに養成された者てありました。



又現今の讚美歌を拵らへた日本の教師の重なる者は三人でした。其一人は青山學院他の一人は同志社の教育を受けた者であります。

六八

救世軍は山室軍平氏が無つたならば、どうして盛んに運動が出来ましたらふか、此兄弟は矢張同志社の教育を受けました、又山室氏の手紙に依れば、ミッション、スクールの出身者は数名熱心に救世軍に働いて居ます。

禁酒の運動を主張した安藤太郎、根本正の二人はミッション、スクールに學んだ御方であります。今終りに此問題を研究した結果をかい撮んで言へば我基督教教育に就て大に失望を感ずる事は其卒業生の多い事、其生徒に與へた宗教上の感化が我等の望む程深くない事、卒業生は教會に對して冷淡なる事、又た教役者となる者は餘り多くない事で御座ります。

其に反して感謝す可き事は此基督教主義の教育は初めから今迄國の物質上、又た知識上、道德上、の進歩に貢献した事、其出身者はよく實業家として官吏として教育家として新聞記者として社會の爲めに働きて居る事、彼等の勢力に依つて文學は非常な刺撃を受けた事、又た此感化は大抵正義を守り家庭を潔め、社會の風俗を改良し、全體善を助けて惡に反對する感化であるといふ事で御座ります、直接に基督教の運動に貢献したる事は極めて重大なる事で第一に教育は傳道の門を開いた事、其から教會は有力なる先輩者を多く與へて、殆んど教會を産んだ事、其から長く難義に逢ひましても段々熱心

なる信者をも教役者をも教會に與へた事、其數は我等の望に合はないが其働は教會の普通の運動に於て、基督教主義の新聞雜誌に於て、禁酒の運動に於て、青年會の運動に於て、救世軍に於て、其外様々の事業に於て、教會を助けて殆んど教會の生命となつて居る事、此等の結果を考へて見ると、神様に感謝するの外は御座りませぬ。

### 基督教教育の前途

明治學院總理 神學博士 井深梶之助

我が邦に於る基督教々育の過去に付ては既にビートルズ氏の綿密なる演説あり、教役者養成即ち神學校の事に關しては後に原田氏の演説ある筈なり、然れば余は此等の方面に向ひては論ずるの必要なし然れども單に基督教々育の前途に關しても研究すべき問題は随分澤山にあり、到底限られたる時間に於て之を詳細に論ずると不可能也、故に余は尙更に問題の範圍を狭めて女子教育に關する事は凡て婦人部に譲りて之を論ぜざるべし、又初等教育に關する問題例へば幼稚園、家庭學校、小學校の問題には一切論及せざるべし、是れ決して此等の問題の緊要ならざるが故に非ずと雖も比較的更に重要にして且切迫せる教育問題の我等の目前に横はる者あるが故なり。



然らばその重要な問題とは何ぞ、是れ他なし、今後我が邦に於て中學校程度以上の基督教々育を如何にすべきかと云ふ事は是れなり、中學程度教育も彼の有名なる明治三十二年八月三日の文部省令第十二號訓令に由り容易ならざる打撃を蒙り明治學院、同志社及び青山學院は基督教々育の主義を維持せんが爲に不得已中學校の認可及び之に伴へる所の高等學校との聯絡及び徴兵猶豫の特典を放棄するに至れり。

七〇

文部大臣の訓令に曰く

一般の教育をして宗教の外に特立せしむるは學政上最必要とす、依つて官立公立學校學科課程に關して法令の規定ある學校に於ては課程外たりとも宗教の教育を施し又は宗教の儀式を行ふことを許さざるべし。

此訓令の目的及び性質は一讀して明白なり、官立公立の學校に於て宗教々育を施すの不可なるは論ずるを俟たざれども私立の學校に於て宗教々育を施すべからざる理由果して何處にあるか、我等はその甚だ理由なきことたるを信じたるが故に文部の當局者に向ひて我等の所信を開陳し交渉數年に跨り漸くにして右三校の普通學部は文部大臣に於て中學校程度以上と認定せらるゝに至り引續きて諸種の官立専門學校及び高等學校との聯絡も付き且つ徴兵猶豫の特典も與へらるゝこととなりたれば父兄等此に初めて安じて此等の學校に生徒を入學せしむる様になり此の如くにして基督教主義の中學程度學校

も漸く活路を開き得たる次第なり、若しも不幸にして文部の當局者が最初の態度を固守して前述の特典を拒絶したらんには恐くは我等の學校は中學教育の機關としては自ら廢校の悲運を見たりしならん。

然れども大能なる神の冥助により幸にして事此に至らず文部の當局に於ても漸く寛容の態度を示して現在の規定を設るに至りたれば目下の處先づ以て中學校と大差なきの状態となれり、然して其結果全國に於る數個の基督教主義の中學程度の學校は何れも満員の有様なり。

然れば尙問題として存するは中學以上の教育を如何にすべきか、我等の學校に於て中學科を卒業したるものが尙引續きて基督教主義又は其感化の下に更に高等若くは専門の教育を受んと欲する場合には如何に爲すべきかと云ふ問題なり。

是れ固より今にして初めて起りたる問題に非ず、早く既に基督教教育者の苦心したる所の問題なり、即ち此問題の解決として京都の同志社には専門部あり、明治學院と青山學院とは高等科あり、立教學院には大學部あり、東北學院には専門學部あり、然らば我等は現在の設備を以て満足することを得るか、之を以て基督教々育の目的を達することを得るか、之を以て我が國の教育上の必要に應ずることを得るか、或は更に完備せる高等の教育機關を要せざるか、換言すれば日本に於て名實相合へる基督教大學の必要なきや否やと云ふにあり。

七一



立教學院に於ては既に大學部を設置し同志社其他の基督教學校に於ても大學部設置の計畫ありと聞けり、蓋現在中等以上の基督教々育を施しつゝある學校は何れも皆其必要を感じつゝあるは明白なる事實なり、何となれば現今日本の情態に於ては中學卒業の後單に高等普通の教育を受けたるのみにては卒業後就職の途頗る困難なればなり、今日は堂々たる帝國大學の卒業生にして就職の困難を切に感じつゝある場合なり、況んや單に高等普通の學を修めたるものにて何等専門の知識なきものに於てをや、今日基督教學校の高等科に入學者の少き一の重なる原因は此に存するなり、青山學院の高等科に入學者の比較的多き一の原因は無試験檢定教員免許の特典あるが故ならん、故に余は云はんと欲す、現在我が國に於る基督教教育機關は首無しの肢體の如しと其不備なるや論を俟ざるなり。

然れども人或は云はん、日本帝國には既に東西兩京の帝國大學あるのみならず九州にも東北にも設けられんとするに非ずや、加之のみならず、早稻田大學あり、慶應大學あり、又高等商業、工業、農業の官立學校あるに非ずや、然るに尙此上に一大學を必要とするの理由何處にあるか。

此議論に答ふるには更に根本的問題を考へざるべからず、即ち日本に於て基督教主義の教育を必要とするや否やとの根本問題はれなり、若し夫れ單に國家教育の立場より見れば基督教大學は不及申、中學校も高等學校も基督教的のものは一切其必要を認めざるならん、否寧ろ此如き學校は厄介物視するならん、然れども我等の確信するが如く日本の爲に基督教主義の教育が果して必要なりとせば、現在

の機關設備を以て満足する能はず、其目的を達すること能はずと斷言せざるを得ず。

然らば何故に日本の爲に基督教教育を必要とするか。

今は其根本に溯りて此問題を詳論するの違なしと雖も、極めて簡單に其理由を述べれば、

第一、我等基督教徒は我が子弟の爲に基督教主義の教育を要す、現在我が國の學校を官公私立の別なく宗教教育に對しては全然無頓着なるのみならず、其態度精神に於て全然非基督教的なる場合少しとせず、我等は此の如き精神態度の學校に我が子女の教育を托するは甚だ心苦しき事共なり、成るべくは單に中等教育のみならず大學教育までも基督教の感化の中に受けしめ然して基督教的の品性を養成せしめんことを希望せざるを得ず、是れその理由の一なりとす。

第二、我等は基督教者として各自分に應じて基督教を全世界に宣傳するの義務を負ふものなり、我等は日本全國を基督教化せんと欲するものなり、我等は唯我が信仰上より之を欲するのみならず我が國の爲を思ふても之を最善と信するものなり、實に基督教の感化に由らずして我が國民の品性を健全に發達せしむるの途なきを信するものなり。

然らば如何にせば能く日本を基督教化し得べきか、是れ當面の問題なり、夫れ一國民を教化するの道は第一直接傳道にあり、是れ勿論の事なり、然れども唯直接に福音を説教することのみを以て唯一の方法と爲すは寧ろ淺薄の見と云はざるべからず、眞に國民を教化せんと欲せば其腦髓となり指導者たるべ



七四  
 き人物を教化し而して國民全體の思想觀念を基督教化せざるべからず、換言すれば我が國の社會各方面に立ちて牛耳を取る人物をして基督教的世界觀を有し基督教主義に依りて生活行動せしめざるべからず、然して之れが爲には唯公衆に向つて廣く福音を宣傳し教會を建設するのみならず、最高の教育機關を設けて基督教的人物を養成するの必要あるなり。

然らば如何にして此の如き大學を設立せんとするか、其資金は如何に、其教授たるべき人物は如何に、是れ實際の問題なり、若しも一教派にて之を建設し、之を維持するの金と人とあらば、是れ蓋し最も單純なる解決ならん。

然れども見渡す所現在日本の教派中に一手にして之を實行するの資金を有するものあるを見ず、然らば諸教派合併して一の大學を設立するも亦一の方法ならん、例へば現在東京にある四五の中學以上の基督教學校が合併して一の大學を設立せんと欲せば、是れ決して不可能の業には非るべし、然れども恐くは是れ云ふべくして行ふべからざるの論なり、今日の如く教派の分立する間は、教育事業の合同を見るは、縦令不可能ならずとするも至難の事なりとす。

故に余は第三の方法として教派以外に獨立の基督教大學の設立を切望して止まざるものなり、若しも此の如き大學の設立あらば、現在の諸基督教學校はその卒業生の爲め初めて活路を見出して直ちに一生面を開くべきは、余の確信して疑はざる所なり、此方法に對する一大困難は資金の出處なり、如何に

少く見積りても創立費五六百萬圓は必要ならん、年々の経費も亦莫大ならん、漠然として此の如き事を云ふは宛がら雲を捕ふるが如き感なき能はず、然れども我等は神の全能を疑ふこと能はず、若しも眞に其必要あらば、又我等にその信あらば、神に於て其方法なしと云ふべからず、日本に於ても既に教育の爲に百萬圓以上の資金を寄附したる富豪家も一人にして足らず、其資金に至りては只管神の佑助と内外篤志家の義捐とに俟つの外なし。

余の切に希望する所は、本大會が以上述べたる如き基督教大學の必要を認め、滿場一致の決議を以て其意志を發表し、以て内外富豪家の篤志同情に訴へん事なり、其學科及び他の細目に關する事の如きは徐ろに議して可なり。

### 教役者の養成

同志社々長 原 田 助

司會者並に諸君、私の題は今御紹介の通りに教役者の養成であります、初めに本邦に於ける教役者養成機關の現状を申上げて、それに卑見を少し附加へたいと考へて居ります、私の調査致しましたところは、現今日本に於ける基督教神學校の数は十七校であります、實は女子神學校のことも同時に調査す



る積りでありましたが、是は別に論ずる方があるやうでありますから省くことに改めました、單に男子の神學校のみを申上げれば、私の知り得る限りに於ては十七校であります、それを設立の順序を以て申上げれば、同志社神學校、明治學院神學部、東京三一神學校、青山學院神學部、横濱バプテスマ、大阪三一神學校、福音神學校、關西學院神學部、東北學院神學部、聖書學院、東京クリスチャン神學校、大阪傳道同志館、東京神學社神學校、聖教社神學校、神戸神學校、福岡神學校、此の外に東京に聖學院と云ふ神學校があるを聞いて居りますが、再三照會を致しましたけれども、返事がありませぬので、已むを得ず此調査の中に入つて居らぬのであります、之を宗派に別けて申しますれば、日本基督派に關係のあるものが五、聖公會派が三、メソヂスト派が二、浸禮派が二、組合派が一、福音派が一、クリスチャン派が一、無宗派が一、尤も此派と申すのは必ずしも其宗派に屬して居ると云ふ意味ではありませぬ、例へば東京の神學社神學校の如き、或は同志社神學校の如き、日本基督派又は組合派に屬して居ると云ふ譯でありませぬが、關係上最も密接の關係があるところから、假りに其中に算したのであります、或は其外にもさう云ふ關係のあるかも知れませぬ、是等の十六神學校に教授をして居るところの人の數が都合百人、其中に内國人が五十五人、外國人が四十五人、助教授及び講師の數が四十二人であつて、之を合計すれば百四十二人となります、其各神學校の修業年限を取調べて見ますると、五ヶ年以上の課程になつて居るものが九校、四ヶ年以上のものが三校、三ヶ年以上のものが四校、

専門學校の認定を受けて居るところのものが都合八校であります、又生徒の總數は三百四十九人、此中には東京神學社の生徒の中に少數の婦人があるやうです、其外の中にも或は少々混つて居るかも知れませぬが、無論其大多數は男子であります、其三百四十九人の中で、中學校若くは是れと同等の程度以上の學校を卒業したものが百四十六人、基督主義學校の卒業者が三十三名、是は少し御注意を願ひたいと思ひます、或は私の御尋ねをしたのに中等學校以上の卒業生が幾名か、基督教學校の卒業生が幾名かと云ふことを尋ねたのでありますから、或る學校ではそれを取違へて、此中學程度以上の學校以外の基督主義學校の卒業生だけを、後の方に算入せられたのかも知れませぬ、けれども若し是が事實であつて、基督主義學校の卒業生三百四十五名の中に、僅かに三十三名であつたならば、是は大いに注意すべき現象であらうと考へるのであります、是等の學校の中で生徒數の最も多いのは五十三人、最も少ないのは四名、五十名以上は一學校だけであります、四十名以上が一學校、三十名以上が一學校、二十名以上が三學校であります、其外は何れも二十名以下であります、明治八年に最初の神學校が出来た以來今日に至るまで、是等の學校を卒業した人の數が八百五十五名、其中で目下直接傳道に従事して居るところのものが四百三十二名であります、是等の神學校の基本金がどれだけあるかと云ふことを調べましたが、基本金を有して居る神學校は僅に三つであります、其中二萬圓以上が一つ、一萬圓以上が一、三千圓と云ふのが一つであります、此總計の地所及び建物の價格全體が十七萬九千四



百八十七圓、圖書の数が六萬六千百冊、年々の經費全額が五萬八千四百四十八圓であります、以上の統計は素より完全ではありませぬが、大體に於て本邦に於ける神學校教育の現状を察するに於ては、當らずと雖も遠からざるものであらうと思ひます、是等の統計を考へて見れば私共に多くの教訓を與へるものがあるではないかと思ふ、神學校の数が十六若くは十七、其生徒の数が三百四十九名、其教師及び助教教師が百四十二名、是等の學校から出て目下直接傳道に従事して居るものが四百三十二名ある、是等の神學校が日本の基督教界に於て有力なる要素であつた、今尙あると云ふことは決して否定することが出来ないであります、前の直接傳道に従事して居る四百三十二名の外に或は教育に或は實業に或は文筆に従事しつゝ、間接に基督教傳道の事業を助けて居るところの人は、決して少なくないだらうと思ふ、吾々は過去及び現在に對して敢へて甚しき不平を訴ふるの理由はないと思ふのであります、併ながら諸君、一步を進めて此神學教育の現状を考へ、更に今日は是より後五十年の神學教育の前途を如何にすべきかと云ふことを考へる時には、私共多くの點に於て甚だ不十分に感ずることが多いのであります、——時間が少ないから言葉を成べく簡單にして要領だけを申し上げますが、試みに今まで申しましたところの統計に基き、現今の神學教育の状態を批評して見るならば、第一に此神學教育に統一が欠けて居ると云ふことは、何人も先づ注目するところであらうと思ふ、各學校相互の間に更に氣脈の相通じて居る點がない、又此神學校と其生徒を供給するところの普通學校との間の氣脈が甚だ不

完全であると思ふ、第二は神學校の数が多過ぎるのであります、一つの派に五つ或は三つ、而して其中には極く平たく申せば餘り完全でないやうなものもあるやうであります、是は神學教育の前途に於て最も憂ふべき點であらうと思ひます、第三は其設備の甚だ不完全であると云ふことであります、圖書の数が全躰に於て僅かに六萬と云へば、一つの神學校としても甚だ不十分である、其人物に就て考へて見ても、吾々は決して今日の有様で満足することが出来ないものであります、前に申すことを忘れましたが、教授が百四十二名に對して三百四十九名の生徒がある、それを割當て見ると教員一人に就いて生徒が二名半位の割合になるのであります、さう澤山の學校を設けて少數の生徒を教ふるのは、費用から云つても人物から云つても實に不經濟である、或學校では教授及び助教の数が八名あつて、生徒が僅かに五名の所があります、(笑聲起る) 第四には其基礎が決して堅固であると申すことは出来なからうと思ふ、是は基本金のことに就いて申すのみでない、基本金は僅に一つの有形の現象であるけれども、其神學校の基礎が甚だ鞏固でない、そこで是から後のことです、教役者養成の前途を如何にすべしかと云ふことを考へるに就いては、素より之を短時間に申し盡すことは出来ないものであります、兎に角吾々の最も第一に考へなくてはならぬことは、聯合合同の必要であらうと思ひます、前に井深校長から基督教大學の必要を御話になつたのであります、他の學科は先づ暫く措くとしても、少くとも日本に於て一個或は二個の基督教神科大學を置くこと云ふことは、今日最も必要なることであらうと思ふ、そ



れて夫れは到底各派合同しては出来まいかと云ふと、若し吾々が之をやる氣があれば、決して出来まいことではないのであります、それは其神科大學の中に神學擔當の教師或は牧會學の教師、即ち教會の政治に就いて講義をするところの講師の如き者は、各派を代表するところの者を置いても少しも差支ない、又丁度ケンブリッジ若しくはオックスフォールドの大學の組織のやうに、多くの寄宿舎を設けてさうして其寄宿舎に各派の生徒を收容しても差支はないのである、けれども科學的の即ち學問に屬する部分を教ゆるには、一派々々別々に教授を置くこと云ふ必要はなからうと思ふのであります、社會學の如き、哲學史の如き、或は宗教と科學の關係の如き、比較宗教學の如きものは別にマソヂェスト派なり、長老派なり、監督派なり、銘々の社會學、哲學史と云ふものがあるのではない、(笑聲起る)夫等の事に就ても若し基督教神科大學と云ふ者を置いて、さうして茲に共同すると云ふことであつたならば、費用の點に於ても人物の點に於ても多くの經濟を實行することが出来るのであります、吾々は帝國大學の卒業生が將來基督教神學を學んで、日本の傳道界に力を盡したいと云ふやうな者があつても、何所へ行つて神學を御學びなされと云ふとを申すことの出来ないやうな状態にあるてはありませぬか、將來の基督教傳道に於て最も必要なるものは、日本の思想界を指導するところの人物である、然るに其日本の思想界を指導すべき人を養ふ神學教育を授ける所を置かずして、さうして日本の思想界を指揮して行かうと云ふことは無理なることとあります、少なくとも帝國大學に竝んで神學の専門科を修むることの出来

るだけの設備をするとは今日の急務ではありますまいか、併ながら神學の教育と云ふとは唯學者を造るのみではありませぬから、若し更に一言を加へて申すならば一方に於て神科大學を起すと共に、成べく基督教思想を普及することの出来るやうな簡易なる神學校を起すことも必要であります、其所には牧師傳道者を養ふのではない、普通の信徒で基督教神學を學ばうと云ふ人に簡易なる學科を教ゆるのである、是は實業家にせよ、教育家にせよ、其外一般のクリスチャンであつて簡易に基督教神學の大體を學ばうと云ふやうな人々のためであります、さうして一方に基督教神科大學に於て神學者と専門の教師を養ひ、日本の傳道界に盡さしむると云ふことであつて、初めて完備なる教役者養成の事業が出来たらうと思ふ、次ぎには日本の現狀に應ずる所の學科を一層完全に設備することとあります、昨日からも段々御話の中に日本は東西の思想を融和すべき大切な地位に居るのであると云ふことがありました、其の東西の思想を融和すると云ふことは何所で出来ることであるか、私は基督教神學校に於て一方には基督教神學を學び夫と共に東洋の哲學なり、儒教なり、佛教なりを十分に學ばせて東西の思想を知るべき便宜を與へなければ、到底東西の思想を融和すべき責任を成就するとは出来なからうと思ひます、其次ぎに申したいことは前にも申した通りに今日は普通教育と神學教育の間に氣脈が十分に通じて居らぬと申しましたが、私の近頃最も深く感ずることは完全なる神學校を望むなれば其豫備校を完全にすることが必要であると云ふこととあります、素より此神學校に入るところ



の人の中には將來中學校を卒業したところの人が多く入つて参りませう、是も望ましいことであるが、併し人格を造ると云ふのは専門の學校に入つてからは餘程むづかしい、先づ普通部に於て即ち中學程度の學校に於て其人格を養成することをやらなければならぬ、若しも吾々が單に一般の中學校から入つて来る人だけを當にしてそれを神學校に入れて、神學の思想を授けると共に其人格迄も養成して行かうと云ふことは、是はナカ／＼困難なる事業であります、吾々は各神學校に於て前に申す如く三百四十九名の中に僅かに基督教學校の卒業生が三十三名と云ふやうな状態を以て繼續するにあつたならば、完全なる神學教育を授けることは餘程困難であらうと思ひます、どうか此神學教育を完全にするが爲に中學程度の學校即ち基督教主義の夫等の學校を一層完全にして茲に其人格を五年或は六年の間養成し、其人々が神學校に入つて更に神學教育を受けて傳道に従事することにしたしたいと思います、夫がなくては凡ての設備も無効に歸すること勿論である、其外イロ／＼申したいこともありますけれども、時間を餘り取りましたから茲に略致しますが、之を要するに教役者養成、神學教育と云ふことは實に日本傳道の死活問題と申しても宜からうと思ひます、若し此問題を解決することが出来なかつたならば、今後五十年の日本傳道は決して成功を期することは出来ないのであります、どうか此五十年の記念に當つて既往のことを回顧して感謝をすると共に、此日本傳道中心問題である所の教役者養成即ち神學教育の事に

就きましては御互ひ共に祈つて深く熟考することに致したいと思ひます、(拍手喝采)

圓滿なる教役者の養成

大坂聖一教會牧師 深田直太郎

二三年前までは神學校の教授の幾分を致して居りましたけれども、今は唯教會にのみ従事して居ります、誤つて此選に當つたのであります、御断りなしましたけれども是非何か述べて呉れと云ふことありますから、簡単に自分の考を申述べたいと存じます。今日の神學校に於きまして一番困難に感じます所のものは、唯今原田校長が御話になりました中にもあります如く、神學を教授すると同時に人格を養ひ上げなければならぬと云ふ二つの事をやつて行かなければならぬ、是が至つて困難なことでございます、(拍手)今日の神學校に有力な學生を得ることがむづかしい、今日の神學校に教育されたる學生を迎へることも餘り困難でない、けれども基督教的家庭から育て上げられた所の生徒の學生を神學校に迎へることの出来ぬのは甚だ遺憾であつて、是が將來我國の基督教發達の上にななる關係を持つて居るものと私は信ずる、吾々自らを顧みましても吾々自らはどうして今日教役者になつたかと云へば、青年の時までは未信者の家庭に居つた者であります、其處に種々なる不信仰の空氣の中に育つたのであります、其處に吾々は種々なる罪惡の種を受けたのであります、而して吾々は青年の時悔改めて、さうして救はれて今日は十年なり二十年なり或は傳道に教會に従事して居るのであります、吾々自らが教役者となつて感ずることは我身が眞に清くなつて居るや否や、是が甚だ苦しいことと云ひます、眞に脱俗の牧師がどれだけのか、眞に垢脱けた圓滿の人格の牧師がどれだけのか、是が非常に大切な問題であります、吾々が唯十年、二十年、若くは三十年前に未信者であつた其家庭に育つて、其種々なる惡い風に染んで、さうして悔改めて此處に教役者として立つたと申しましたも、まだ／＼吾々の眞に穢い所のものが残つて居ると云ふことを私自ら感ずるのであります、英國の名高



い監督が長い間の経験からして申しました言葉に「理想的の教役者を作るには三代掛らなければならぬ」三代も掛つて其清い家庭で其敬虔な家庭で其熱心な家庭で育て上げて段々と信仰の清いものが傳つて、其家庭で産み出した者が始めて理想的の教役者になる、私は之を思ひます毎に私共日本基督教會は大に之が爲めに力を盡さなければならぬと考へます、諸君の中にアナタ方の子供を教役者にする熱望がありますか、今日のクリスチアンであつて、今日の牧師であつて、今日の教役者であつて我子を將來教役者に育て様と云ふ熱烈な考を持つて居る人がどれだけあるか、若し此事がモット熱烈になつて來なければ立派な教役者となるべき資格のある者を神學校に送ると云ふことは甚だむづかしいことであり、少し例は大き過ぎるかも知れませんが、イスラエル人が基督を産むまでにはどれだけの年月を要しましたか、長い間の年月、メシヤを産まう、メシヤを産む所の名譽を我家に取らう、取らうと思つて幾千年の後に基督が産み出されたのであります、其他基督の弟子でありまして今迄幽かに生活して居つた所の漁師であつた者が、俄に傳道者になつた杯と言ふ者がありますならば、それは淺薄なる所の考でありまして、彼等は其前に受けたる教育、家庭に於て受けたる宗教的感化の實に大なることを思ひますと、吾々が日本を教化するに當つて將來の五十年に向つて大に努めなければならぬ事は、完全なる圓滿なる教役者を作るに信じます、それをやるには長い年月を要することでありまして、基督教全體が是が爲に力を盡し基督教全體が熱烈に力を盡さなければならぬと考へます、どうしても家庭から育て上げられた者でなければ脱俗な教役者として立つことが出來ぬと思ひますから、是に向つて皆さんと共に大に力を盡したいと思ふのであります。(拍手)

### 教役者の養成に就て

關西學院教授 神學士 松本益吉

僅か七分間で私も教役者の養成に就いて少し御話を致して見たいと思ひます、從來預言者の學校から預言者と云ふものが出たことはありませぬ、神學校から大なるところの宗教家が出て居らぬではないかと思ふのであります、餘りに智慧の方に重きを置いて靈の方に重きを置かないと云ふところの點は非常に欠點ではないかと思ふのであります、夫故に「セチロサカルセミナリ」が「セチロサカルセヨテリ」になつてしまつて全く神の方靈を救ふところの世を救ふところの人物が少ないと云ふことを私は嘆ずるのであります、それは一つは今日非常に靈的の人物、眞に基督の如き人物が我教界の中に少ないと云ふことが其一つの原因であらうと思ふのであります、私共は自ら悲しむ、多くの先聖とか或は有力なりとする人物を見るのに餘り我と云ふところの觀念が強くして我を主張するところの我を傳播するところの我勢力を扶植するところの觀念が餘りに強くして此日本を救ひ神を示し基督を示すところの大精神に満ちて居ることが少ないことではないかと考へます、私共の教役者の中に神學校の中に眞に基督の如き人格があると云ふことは教役者を養成するのに先づ第一に必要なる點であらうと思ふのであります、其次には併し靈と共に又私共は此二十世紀に生れて居る所のもののでありますからして十分なる近世の思想に觸れて居らなければならぬのであります、一方に於てナーブリー、スピリチュアルであると共に他方に於ては近世の思想と刻下の問題に觸れて居ると云ふことが必要であります、それと共に——近世の思想と共に日本では今までの宗教佛敎なり或は儒敎なり、斯う云ふやうな今迄の宗教思想に觸れて居ると云ふことが之れを能く神學校で研究することが必要であらうと思ふのであります、我日本の神學校を見るのに多くは歐米の神學校の直譯であります、日本の生命に觸れて居らない、日本の事情に適して居らないと云ふ感があるだらうと思ふのであります、私は日本に於ては此比較宗教、殊に日本にあるところの宗教思想の歴史、斯う云ふやうなことは非常に神學校で研究することが必要であらうと思ふのであります、基督教をして日本に於て新しきところの見解を加へ基督教の見解をエンリツチすることを日本に於て勉めむとするならば必ず此方面から來らなければならぬ、我日本の國に於ては在來の宗教思想に、より多く觸れると云ふことが必要であらうと思ひます、もう一つは日本は教育が普及せられて居る、高等教育が段々多く行はれまして高等教育を受けたところの人間が澤山出て來る、一方に於ては生活難がある、就職難があります、日本に於ては將來社會問題が非常に起つて來るだらうと思ひます、而して此基督教が日本に於て之を解決するや否やと云ふことは基督教界に對する一つの試金石であります、我神學校の如きものは基督教の吾々の學校の如きものは此社會學、社會問題を大いに研究する必要があるものと思ひます、併ながら此神學校斯う云ふことを教へるに就いては、どうしても神學校は二つの傾向に分れて來るだらうと思ひます、一つ

りませぬ、神學校から大なるところの宗教家が出て居らぬではないかと思ふのであります、餘りに智慧の方に重きを置いて靈の方に重きを置かないと云ふところの點は非常に欠點ではないかと思ふのであります、夫故に「セチロサカルセミナリ」が「セチロサカルセヨテリ」になつてしまつて全く神の方靈を救ふところの世を救ふところの人物が少ないと云ふことを私は嘆ずるのであります、それは一つは今日非常に靈的の人物、眞に基督の如き人物が我教界の中に少ないと云ふことが其一つの原因であらうと思ふのであります、私共は自ら悲しむ、多くの先聖とか或は有力なりとする人物を見るのに餘り我と云ふところの觀念が強くして我を主張するところの我を傳播するところの我勢力を扶植するところの觀念が餘りに強くして此日本を救ひ神を示し基督を示すところの大精神に満ちて居ることが少ないことではないかと考へます、私共の教役者の中に神學校の中に眞に基督の如き人格があると云ふことは教役者を養成するのに先づ第一に必要なる點であらうと思ふのであります、其次には併し靈と共に又私共は此二十世紀に生れて居る所のもののでありますからして十分なる近世の思想に觸れて居らなければならぬのであります、一方に於てナーブリー、スピリチュアルであると共に他方に於ては近世の思想と刻下の問題に觸れて居ると云ふことが必要であります、それと共に——近世の思想と共に日本では今までの宗教佛敎なり或は儒敎なり、斯う云ふやうな今迄の宗教思想に觸れて居ると云ふことが之れを能く神學校で研究することが必要であらうと思ふのであります、我日本の神學校を見るのに多くは歐米の神學校の直譯であります、日本の生命に觸れて居らない、日本の事情に適して居らないと云ふ感があるだらうと思ふのであります、私は日本に於ては此比較宗教、殊に日本にあるところの宗教思想の歴史、斯う云ふやうなことは非常に神學校で研究することが必要であらうと思ふのであります、基督教をして日本に於て新しきところの見解を加へ基督教の見解をエンリツチすることを日本に於て勉めむとするならば必ず此方面から來らなければならぬ、我日本の國に於ては在來の宗教思想に、より多く觸れると云ふことが必要であらうと思ひます、もう一つは日本は教育が普及せられて居る、高等教育が段々多く行はれまして高等教育を受けたところの人間が澤山出て來る、一方に於ては生活難がある、就職難があります、日本に於ては將來社會問題が非常に起つて來るだらうと思ひます、而して此基督教が日本に於て之を解決するや否やと云ふことは基督教界に對する一つの試金石であります、我神學校の如きものは基督教の吾々の學校の如きものは此社會學、社會問題を大いに研究する必要があるものと思ひます、併ながら此神學校斯う云ふことを教へるに就いては、どうしても神學校は二つの傾向に分れて來るだらうと思ひます、一つ



は神學者になる人間と、他は實際社會に出て働く人間と斯う云ふ二つの傾向になつて来るものでありますからして、神學校にはさう云ふやうな設備をすることが必要であります、併ながら今日神學校を置きますに就いて最も感ずるところは神學生の基礎學が十分に出來て居らぬ、「ピラミッド」を建てやうと致しまして下の土臺が大變薄弱であります故に神學校に來るまでに十分に其準備を爲すと云ふことが必要であります、中學を出てさうして少くとも二年或は三年基礎學をすると云ふことが、準備を爲すと云ふことが必要であります、そこで十分に其思想を練つて歴史、哲學或は論理的の頭を練つて置くことと云ふことが必要であります、それから神學校の三年の教育を爲すのであります、此神學校の三年に於て今迄の如く神學生の補助などは廢めてしまつたが宜いと思ひます、十分に自費で勉強すると云ふやうな人物を養つて行く方が宜いだらうと思ひます、神學校の中で自然と二つに別れまして一方は實際に働くところの人物一方は益々學術の蘊奥を究めて行く人間と此二つが出来て参りますから神學校に於ては或る程度迄は學科を自由に選擇さすと云ふ方法を講ずることが必要であらうと思ひます、神學を三年やりまして其次には即ち今朝御話のあつた工合に大學が必要であります、亞米利加の方や英吉利の方に行つて勉強するのでなく日本で十分出来るやうに神學校を了へまして中學校を出て或は二年三年の準備をやつて神學校で三年其次の即ち神科大學に行つてさうして其蘊奥を究める順序に致したら宜からうと思ひます、時局が参りましたから……

(拍手喝采)

### 日本に於ける基督教教育の情態及結果

東京、學院、長、イ、ダブルユー、クレメント  
マスター、オブ、アーツ

七分間にて此非常に重大なる問題に對していくらか價值ある説明を與へん事は恰度自妙の富士の高根の秀麗なる姿を郵便端書の小冊に寫さんと試むる事と同じき事でありませぬ。されば此短かい時間で成し得べき事は唯だ一にして即ち私共の思想を此廣大なる問題の只一

點に集中する事であらうと考へられます。今私が諸君の注意を引かんとする此一點は當問題たる「日本に於ける基督教教育の情態及結果」にてふ事を直接に論ずるものではありませぬけれどもそれより學ぶべき重且つ大なる一の教訓であるので御坐います。私が特に諸君の注意を促さんと欲する處の點とは抑も如何なるものなるかと云ふに日本に於ける基督教教育は政府のそれと全く別なる特徴を有すべきものにして政府の定めたる教育制度と競争を試みてはならないと言ふ事でありませぬ。先づ第一私は競争は善い事でないと言ふ事を申し上げるのではありません。競争は貿易の生命であると言ふ事を或る範圍までは眞理であると言ふ事でありませぬ。けれども私は競争と言ふも卑劣手段を用ひて他の學校より學生を誘ひ出し、結果その學校を滅すやうにする道ならぬ競争を意味するのではありません。私の申し上げ度いと思ふ競争は各學校が名譽を維持せんが爲めに總ての點に於て絶えず改善を施しつゝあるやうな極めて健全なる競争を意味するので御坐います。要之私は建設的競争を信する者でありまして決して破壊的競争を信する者ではありません。即ち己の學校を興さん爲めには他の學校を倒すも厭はないと言ふやうな道ならぬ競争では御坐いません。然らば總てみな建設すると言ふやうな極めて穩健なる競争を意味するので御坐います。而して若し基督教教育にたづさばる人々にして政府の教育制度に關係する當事者が力を注いで居る點と全く別な方面に心を盡して開拓し行くならば如上の健全にして合理なる競争が自然起り來るべき事は少しも疑ふ可らざる事であると考へられます。而して日本に於ては此種の教育策に都合よき特殊の條件が備はりあるのであります。即ち教育事業に對する政府の設備が概はしき程不十分なるが故に私立の宗教學校と雖も諸の設備完全ならんには學生を得るに破壊的競争の方針を採るの要なき次第で御坐います。政府の教育制度は必要上統一的時に臨て之が改造を許さず繁雜にして手数を要し所謂繁文縟禮の躑を免かるゝ事は出來ませぬ、故に教科要目及訓練の點に於て政府のそれよりも一層多くの種別と時に臨て之を改善し行く事の出来る教育機關即ち學校を設くる事が出來得べき事にして又實に願はしき事であると考へられます。勿論基督教主義學校が世間の信用を得ん爲めには勢ひ政府の示したる教育の法令を遵奉し行かれねばならぬ事は明なる事でありませぬけれども政府の教育當事者が其施し居る統一的制度を我等に奴隸的に採用せよと強ゆるの不合理なる



事、一般の施政宜しからんか細目を施行するに於て多大の自由を直轄以外の學校に與ふる事、の上座なる事を認むるに若ならずるべし、と信ずるので御坐います。而して差當り諸學校の數が學生の需要を充たすに十分ならざるので御坐いますから勢ひ官立學校が出来るだけ大多數の學生を收容する機な設備をしなければならぬ次第であります故に生徒は學校に溢れ級の生徒數が非常に多いと云ふ結果になるので御坐います。

學校があまり大にして適當に管理する事が出来ず又級の生徒數あまりに多きがために教師も満足なる働をする事が出来ないと云ふ事は苟も官立學校に教鞭をとり居る者の皆均しく仰つ所て御坐います。勿論教師が單に講師である場合は如上の既が其効力を失ふものでありますけれども此點に於ても理想を一層高くする事は望まじき事で御坐います。即ち教師は單に講義する機械でなく生徒は單に之を寫す筆耕生でないやうにならねばならぬと言ふ譯で御坐います。

以上陳べ來りたる思想が日本に於ける基督教育を政府の教育方針より全く別にし得べき諸種の點を私共に教ゆるのであります。則ち級の生徒數を小數に限りて各生徒をして十二分に教養開發の特權を享受せしむる小規模學校主義を實行して之を感ならしむる事が出来る絶大なる機會があるので御坐います。勿論私は此主義に對する反對ある事、特に經濟上の點に於てしかある事を認むる者でありますけれども是れとても年々め々の寄附金又は基本金を得る事が出来る曉には除く事の出来る障礙であると考へられます。而して國の内外を問はず此實踐すべき善き事業を助けんが爲めに喜て寄附する人士のある事は疑ふべからざる事と思はるので御坐います。

此點は日本來遊の節ハルトン博士が特に力をこめて論じたる所て御坐います。即ち基督教主義學校は比較的小數の學生に甘んじて彼等の爲めに他に勝る教育を施す事に努めなければならぬと申された次第で御坐います。如斯せば基督教主義の學校は外的勢力を張るに汲々たる事なく内に深き感化を及ぼす事に自然全力を注ぐに至るべしと信ずるので御坐います。而して此小規模學校主義を採用せば他の學校と異なる事即ち道徳靈性の開發と品性建造とを圓滿に成就する事が一層容易く出来る事と考へらるゝ次第で御坐います。

神學校教育の理想

聖教社神學校長 今井壽道

私も教役者の養成と云ふ方面からして、神學校教育の理想の幾分を申上げたいと思ひます、神學校教育を教役者の養成と云ふ方から考へますと云ふと、矢張科學的方面と美術的方面と此二通りに分けて考へて、又此二通りの方面を共に發達させなければならぬものでありと考へて居ります、一は智的、思想的の方面と一は體的、人格的の方面と此二つのものが共に發達しなければならぬと考へます、科學的方面即ち科學的の方から考へますと、何處までも此神學校教育に於ては専門的に研究を進めて、何處までも神學は科學の科學であると云ふ地位を辱しめないやうにするために、一切の學問智識との調和、統一、連續を保つやうに努め又專攻して行きたいと考へます、其方面に於ては、日本は教會歴史あつて以來、非常に大なる運命を持つて居るものではないかと思つて居ります、古代のアレキサンドリヤが西洋の思想と近東の思想との接觸に依つて獨特の地位を宗教學上に占めたことと云ふことは諸君御承知の通りであります、此日本の神學校教育が西洋に於る思想經驗の數千年の長い歴史と近東に於る思想經驗の數千年の長い歴史とを接觸し相調和し、相感化し相補益して行きましたならば、基督教神學の方面に於て科學的に一種獨特の發達を成就することが出来はせぬかと思ふのであります、此點に於て日本の神學校教育と云ふものは非常に大きな抱負を持つて、それに相當する發達をして行きたいと願つて居ります。

併ながら神學校教育の此方面即ち科學的發達は丁度科學が音樂を作ることが出来ぬやうに、繪畫を描くことが出来ぬやうに、神學者が人の心の中に基督の肖像を描き出すことは出来ない、或は又神學者は唯單獨に神と人の絶えざる交通に依つて發せられる所の人生の音樂を創作することが出来ない、此方面に於ては美術學校としての神學校を十分に發達させなければならぬ、美術學校即ち體的の美術學校を發達する爲に天の異象を見る力が發揮されるやうな、又神との交の宗教的經驗が日々積まれて來るやうな、基督に似る所の人格が日々に高まつて來るやうな、さう云ふ趣味のある美術學校としての神學校の發達を計らなければならぬと思ふのであります、歴史と云ふものは始終循環して繰り返すが故に、若し此絶東から近東へと次第に宗教的藝術の或使命が傳へられ、更に近東より進んで西の



方へ基督の新しい使命が傳へられるやうな機会がありましたならば、其時には、少しく大言壯語に似て居りますけれども、日本に於て美術的に靈的に教養された教授者が四へ四へと傳へて行く基督の使命に依つて私は非常な大きな任務を遂行することにもならうかと考へます、日本は今日に至るまで美術國として一種の特色を持つて居つたのでありますが、今日に至るまで靈的の美術に於て何も世界に貢献したことがありません、是から後私共は此方面を十分に發揮して、さうして此靈的の美術に於て世界に向つて貢献したいと云ふ考を持つて、それに相當する所の神學教育を施すやうにしたいものであります。

併し此二つの方面、即ち科學的の方面と美術的の方面、智的と靈的の事柄が如何にせば一の學校組織の内に行はれるか、又如何にすれば是が共に發達するかと云ふことはむづかしい問題であります、今日まで五十年の歴史を回顧して見ましても、常に一方に偏する趨勢を免れないことが分ると思ひます、先づ大體から云へば、一番初に神學校の性質と云ふものは、神學が無くても人が救はれると云ふ種類の學校が多くなかつたらうか、それが漸次改つて來てどうなつたかと云へば、專門學として一般科學に劣るまいと云ふ事に人心が集つて來たやうな趨勢になつて居ると思ひます、さう致しますと今日から此勢を觀測して参りますと云ふと、或は神學校と云ふものが餘り神學校になり過ぎてしまつて、さうして此靈的人格を養成する所の學校でなくなつてしまひはしないかと云ふ虞がないでもないからうと思ひます、是は實に大切な事でありますから、一方に於て十分に專門學としての開發が出来るやうに、即ち其方面に於て特色のある偉大の人物が出るやうに、それを十分盡力すると共に、靈的の方面に於て優れた人物を養成するやうに兩方面に十分に力を盡すことを、總ての神學校の當局者又總ての日本の基督教徒、及傳道に従事して居る外國の同胞に願はなければならぬと考へます。

もう一つ是に付いて私の所感を述べますと云ふと、此様な兩方面の大きな理想を持つて之を實現せんとするには、教育者其人の人物或は學校の建物或は圖書館其他の設備に於てイロ／＼な問題が起つて來ますが、其中の一番大切な事は何んであるかと云へば即ち生徒の選擇であらうと思ひます、私の信ずる所に依れば何れの方面に於きましても、最も大なる教師と云ふものは即ち教授でなくして生徒であらうと思ふ、又最も必要なる設備と云ふものは即ち建物も其他の組織もなく生徒の人物にあると思はれる、此適材が集つて來なければ到底吾々が神學校に對するに理想を實現することが出来ぬのであります、若し何れの神學校に致しましても——先刻私共は

イロ／＼神學校の名前を承りましたが、其何れの神學校に致しましても、若し同時に科學の方面と美術の方面とに他日偉大な人物となることが出来るやうな青年が三名でも四名でも同時に在學するやうな時があつたと致しますれば、私は信じます、其學校は必ず其當時には固よりのこと、それより後に起る所の其彼等の遺傳力が他の偉大に成りうべき生徒を産み出して、此兩方面に於て非常な働をする事が出来るに相違ない、而して私は此の如き事が何處かの神學校に起ることを願ふのであります、故に自今凡ての神學校に對して望むべき事は何であるかと云へば、何れの神學校にもせよ、其外形の大小に拘はらず、必ず他日偉大な人物になることの出来るやうな三四名の人物、即ち少数でもさう云ふ立派な人物が、安んじて收容されて教育を受けることの出来るやうな教育所とならんと勉むこととでありませう、是が、一番大きな理想であると思ひます、此中には凡ての他の意味が道入つて居るであらうと考へます、どうか何れの神學校も此理想に向つて進まれんことを希望致すのであります。(拍手)

### 小規模の高等專門學校

鎮西學院教授 エフ、エヌ、スコット

只今までも私は、征學博士が此處に御出になることを待望して居りましたが、遂に御出がありません。けれども、私は長崎を立つ前に、當記念會へ出席の場合には、如何なる演説を試みんとせらるゝのであるかを尋ねて置きました、そうして、目下の基督教育の不備に對する同氏の意見を聞いて居りますから、同氏に代て一言申したいと思ふのであります。尤も同氏が此即席演説を保證して呉れるか否は存じません。

私は小規模の高等專門學校が政府の認定を有し學位を與ふるに至らんことを主張せんとするのであります。小規模の高等專門學校とは、米國のアノミニョナル、カレーナ即ち宗派學校と等しきものを指すのであります。此等の學校では組々の生徒が少數で、教授



は個人的興味を持ち、生徒を教育することを得るので、學位は米國の「マテマティクス、オプティクス」に相當する學位を與へ得る學校を指すのであります。此専門學校或はカレッジは現今日本に二十一あります。其一は基督教學校にて、其八は佛教學校であります。其餘は本論以外の學校であります。或人は我等の「モーション、スクール」の高等部にて充分なりと云ふてせう。けれども是は實際數千の學生が年々官立學校から各所の専門學校に趣くにも拘はらず、吾等の學校に來るものゝないといふ事實を以て容易に反證されるのであります。昨年は名古屋高等學校にのみ、二千三百八十四人入學を志願し、唯五百十三人のみ許可せられました。然らば殘餘の一千八百七十七人は吾等の學校に來ましたか、否一人も參りません。我等の學校は彼等の要求に適つて居りません。我等の學校の高等部は大概の青年の要求に對して頼と力がないのであります。

或人は帝國大學で充分であると云ふかも知れません。然し之は理想であります。然しながら帝國大學は、基督教傳道者を出す事に付て名高のてはありません。唯二三の卒業生が自己の生涯を基督教傳道に捧げたと云はれて居ります。斯様でありますから、之を當にする譯には行きません。現今の情態では基督教教育は中學程度にのみ限られて居ります。然し吾等の教育が中學程度に限られてはならぬといふ理由は數個あります。

第一、中學程度の教育では素乏しき教役者を與へるのです。若し米國で「ハイスクール」の三年級の終了生徒を神學校に遣るとしたならば、如何なる教師を得るのでありませうか。

基督教の教育が人に舊式の弓矢を持たして人生の戰場に遣るのは當を得た仕方ではありません。

第二、吾等は指導者を得んが爲に、中學校に連絡する高等専門學校を要するのであります。若い生徒は専門學校生徒の指導を仰いで、著しく進歩するも、唯だ彼等の勝手氣儘に放任せられて指導者なき時は、此進歩を決して見ることが出来ません。

第三、吾等は中學校の終りの頃は青年の危期であることを發見します。何れの教育者も、青年の生涯は驚くべき不可思議の時代であることを知つて居ります。其時代は、道徳性が長足の進歩をなすのです。其時代には正邪の驚くべき觀念を彼等は有て居ります。又精神的印象が深く刻み附けらるゝ時であります。

而して若しも、吾等は中學程度教育のみを以て止めるならば、生徒は生涯の最も危険なる時期に吾等の學校を去るのであります。北米北

ジャコブ州レッドリバーの夢遊地一帯の農夫は、種子を蒔き、數月間は何等の心配もなく夢が生成するのを見るのであります。其の後に一は一の危期が來るのであります。即ち雲の無き夜は大概は降霜を意味するのであります。故に朝早く起きては夏中の仕事は悉く失はれたるや否やを見んと氣遣つて寒暖計を怖は／＼ながら見るのであります。

私共は中學校にて種子を蒔き而して三ヶ年間著しき進歩を見るのであります。何が故に私共は彼等を最も危き時に、學校を去らしむるのでありませうか。

私の辯論する専門學校は中學校以上六年間を含むものであります。三年間は高等課程で三年間は専門の課程であります。けれども高等課程は文部省認定を以て一年半に短縮することを得るのであります。故に斯くすれば中學校以上四年半になるのであります。私は五年が猶善いと思ふのであります。文部省の規定は左程六ヶ敷しいものでなく、實際寛大なものであります。

是に二つの反對が起るかも知れません。

第一は、生徒を得ることの難きこと、第二は經費のことであります。第一に就いては別に困難なく適當の誘導を與へることが出来るのであります。

我等に彼等に留まる價值あるものを與へるにあらざれば、彼等を止めることが出来ないのです。吾等は生徒をして社會に位置を得させることも出来ず、又學位を與へることも出来ない處に、真心の爲に止まれと云ふは無理なことではありませうか。

若し學位を與へることが出来ないならば、米國の青年でも専門學校の課程を續けるのでありませうか。

斯う云ふ話があり或る監督が可愛らしい二人の娘を持つて居る家に招待されました。此二人の娘は監督を尊取りに誘つて行きました。すると河の堤にて彼等は年老つた漁夫に遇ひましたが、此漁夫は親まんとして、「オイ、仲間、獲物はあつたか。」と云ひますと、監督は、

「ウーン、乃公は、此様な漁り方を餘り善く知つては居ないが、然し乃公には人が漁れるよ」と云ひました。すると漁夫はつくづく二人の若き婦人を視て、

「成程、貴下は甘い餌を有て居ます」と云たそうです。吾等も亦生徒に止まつて居る丈の價值あるものを與へるならば、生徒を止むる



に困難なことはないです。而して宗教専門学校の学位が価値あるものと考へらるゝ時が来るてありませう。勿論何處で資金を得るか云ふことは、大問題であります。若し専門学校が中學校と連絡して、繼續するならば經費は減少せらるゝのでありませう。何んとなれば、或教師は兩方を維持することが出来るのです。又設備も同様に雙方に用ひることが出来ます。然らば中學校より来る大部分の収入は専門学校持續資金の補として力あるものでありませう。此金を得るには、日本人と宣教師とが共同して、此等の學校か米國の専門學校の如く一般信徒より十分なる寄附金を得るに至るまで、傳道局に之を仰ぐの外道がないのであります。惟ふに今は學位を與ふることの出来ない學校に取りて危急存亡の秋であります。基督教會が、此新通國の新進の青年を開發すべき千歳一遇の好期を逸してはなりません。今にして之れを爲さざれば、永久に之れを爲すの時機なからんも知ることが出来ないであります。

### 基督教主義の大學

東北學院教授 哲學博士 笹尾 糸太郎

僅か七分でありますが私に取つては非常に任せてあります、今日は咽喉を痛めて居りますから七分も頂戴せぬて済むかとも思つて居ります、「プログラム」を頂戴致して一番先に私の心に浮んだことは大抵私の述べざる餘地はもうありません、私の話さうと思ふやうなとは大抵諸君が御述べになることであらうと豫想致しましたが、丁度其通りでありました。(笑聲起る)それで殆どないのであります、先程から段々御話を伺つて居りました非常に私の感じて居ることがあります、それは此基督教主義の教育と云ふものが過去五十年間直接に或は間接に我國の社會全般の事業にイロ／＼の感化を與へた、非常に貢獻をした、是は實に賀すべきこととあります、殊にピヨリス君に私は感謝したいと思ふ、誠に能く其効果の著しかったことを御述べ下さつた、併ながら今日の我國に於ける基督教事業

はどうであるか、吾々は過去の其勢力の實に偉大であつたことを想ふと同時に今日の我黨の教育所は至つて振はないと云ふことを敢へてせざるを得ない次第であります、之れをどうしたならば宜いかと云ふことに就きまして先刻からイロ／＼御話がありました、殊に井深明治學院總理は基督教主義大學の必要なることを御述べになつた、又我國の思想界に非常なる貢獻をするやうな我黨の教育所を建てやうとするならば完全なる神科大學を設立しなければならぬと云ふことを同志社の校長原田氏が御述べになりました、私も實は基督教主義大學の設立に就き深く考へて來たのであります、どうかして吾々は基督教主義の大學を我國に起さなければならぬが、どうしたら宜いか、唯是は雲を掴むやうなことは役に立ちませぬ、私は幸ひに諸君が御述べにならなかつたからしてどうしたならば此の大學を設立する端緒を開くことが出来るか話してみたいと思ひます、今日我黨の教育所を卒業する者は多く進んで高等の學校に行き、高等の教育を受けるのであるが如何なる高等教育所を第一に設立するがよいかといふに私は醫科大學がよからふと思ひます、大學程度に相當するところの醫學を研究する所を設立するものが最も目下の急務だらうと思ひます、先程から御話のありました通りに吾々は決して今日の文部省の事業と競争すると云ふ考でない、どうかして吾々は日本の臣民である以上は日本の教育にも一つ貢獻したい、其貢獻するに第一必要なることは醫科大學を設立することであらうと思ひます、エライ突飛なことを私が申すやうに御考へになるか知れませぬが、是は困難の極でも私は比較的一番容易く着手することが出来るやうと思ひます、どうしても大學々と首ひましては資本がなくては出来ないうこととあります、其資本を集めるに於て此醫科大學を設立するのが一番容易からうと思ひます、なぜなれば醫科大學にて之に附屬して居る病院がなければならぬそれで是が直ちに社會事業となつて現はれます、慈善事業となつて現はれるからして基督教主義大學に對する同情者の範圍が擴くなるからであります、由來醫は仁術であると思ふこととありますが、今日醫學を學ぶ人の其動機と云ふものは餘程腐敗して居る、又醫者が果して其仁術を行ふて居るかどうかと云ふことが非常なる問題であります、此際一つ醫科大學の設立に着手したならば非常に宜からうと思ひます、私は唯何も目的なしに之を言ふのではありませぬが、我國の基督教事業に同情を表して呉れるものは唯米國或は英國のクリスチャンばかりではありませぬ、獨逸の基督教信者も吾々の事業に贊助して居るのであります、昨年獨逸に参りましてイロ／＼私の舊友或は昔御世話になつた教授方と話して居ります時に私は非常に驚いたことがある、獨逸人の中には黃禍説を唱へて日本人を嫌ふものもあると云ふこととありますが、獨逸にも本統のクリスチャンがあつて吾々日本の基督教徒の爲に盡し



たいと云ふて居るものもありました。其事に就いて至つて少数でありますけれども一つの會を起して吾々の事業を助けやうとしつゝある方があります。醫學は今日の所では矢張り第一だらうと思ひます。吾々は一つ斯う云ふ計畫を立てまして各國から又我國からも資金を集めて留學生を今の中から送つて完全なる醫學の教育を獨逸で以て受けさして其準備に取掛ることが出来たらよからふと思ひます。時間がありませんね。是はホンの私のサセシヨンにして置きます。

それから此神科大學のことではありませんが、是は今まで御演説がありましたやうに教役者の養成を完全にするものであります。完全なる神學の教授と云ふばかりでなく此神學を中心としてそれに附加して文學なり哲學なりの教授をしたら宜からうと思ひます。而して段々神科大學から分れて遂には一つの文科大學を組織するやうにやつたならば餘り價を擱むやうなことでなくして基督教主義の大學が成立つて行かうかと思ひます。最後に今日の吾々基督教主義の教育に従事して居るものは決して失望してはならぬと思ひます。多くの人、基督教主義の學校に居る人は興趣の途を得ることが出来ないと云ふて居ますけれども實際のところは随分途があるものであります。吾々は普通の學校と一つ異つたる特色を現はして吾々教育の事業に従事するものはどうかして今日我國の教育に缺乏して居る人格接觸主義の教育を重んじて今居ります現在の生徒を本統に養成して行くことに努めたいと思ふのであります。(拍手喝采)

### 政府認可の基督教學校と宗教

大阪桃山中學校長 シー、エチ、ビー、ウッド

公立中學校と同一の資格を得てその特權と制限とを受けてなる宗教學校は極少いのですが、大阪の桃山中學校もその一になつてをりますので、私は之れからその得失について自分の考を簡短に述べることにならうと思ひます。

政府が、宗教學校に對する態度は以前よりも寛大になつて來ましたので、この問題は今日に於てはさほど興味のないものとなつてをります。十年以前にはなにか、やかましい大切の問題でありました。その頃は文部省の指定科目へ基督教の教科を加へることが出来な位位ならいつそ生徒の數が、少くても特權が得られなくてもかまはぬといふ宗教學校もあつたのです。所が聖公會の英米傳道局は東京の立教學院や大阪の桃山中學校でやつたやうにその數をふみませんでした。テオドラス、チインの長老は立教學院についてその見所を語つて

此の學校は以前には傳道局の維持してなる學校の中で最も最小のものであつたが、中學校の認可を得てからは生徒の數も多くなり道徳上精神上の善化に於ても大に得る所があつた云々

と言はれてをります。之と同一のことが、その筋の認可を得た我が桃山中學校についても言はれるのでござります。生徒の數は一九〇一年即ち認可を得た前年には僅一〇〇を超えなかつたのが現在では僅に四五〇に達しその四五〇といふ數も校舎の設備の不十分のために制限せられてゐるといふ次第です。こゝによるべきことは生徒數の増加すると共に學校の教育力もすべての方面に伸張したといふこととござります。府當局者は修業前後正科以外に與へる宗教教育については何等の反對をもいたしません。それから信者の教師が一致親愛していかなる成績をあげてゐるといふことについては前學期間に於ける在學生徒の全數が隨意科になつてなる聖書科に殆んどかけなく出席してゐるといふ事實を御知らせいたしましたら手取り早くも又十分でもありませう。



## 第二講演會

(明治四十二年十月六日午後二時)

## 基督教文學

東京神學社教授 柏井園

基 督 教 文 學

余は此の盛大なる開教第五十年記念會の席上に於て基督教文學に就て語るを得る光榮を感謝するとともに、又少からざる困難あるを知るものである。何となれば明治の基督教文學の初期以來筆を執つて文壇に立たれたる歴史的人物は大抵今尚ほ健在せらるるのみならず幸にも多く此の席上に見ることを得るのである。然れば此等の先輩諸君の口より過去三十年の變遷多き歴史を聴くを得るならば如何に權威あり又興味多からんと思ふ。然れども亦思ふに不十分ながら先進の功績を考へ長短を論評しやうとするには反つて局外の人が便利である點もあるであらふ。余が強いて辭せずして此講演を試みんとするのは之が爲めである。

基督教文學と云ふ名稱は宗教文學と云ふ名稱と同じく随分漠然として居つて範圍を定めるのは困難であるが、文學と云つても純文學に限らない、もつと廣義の文學であることは明である。然ればとて基督教徒の手に成つた文學は皆此の題目の中に加へるかと思ふにさうではない。矢張り基督教に關係し

基 督 教 文 學

基督教の精神を表して居る文學であるを要すると信ずる。つまり此は大凡の區別に止むべきもので嚴格なる定義を下すことは出来ない。さて宣教開始は五十年の昔であるが基督教文學の歴史は明治の初年を以て紀元とせねばならぬ。爾來四十年の歴史を極めて疎く時期を分つて、明治二十年頃までを第一時代とし其の以後を第二時代としたい。第一時代は即ち發生期である青年時代である。此時期は先づ外國宣教師諸君の活動を以て始まるのである。第一に記すべきは聖書翻譯の事業である。ブラウン博士の如きは慶應年間より既に聖書の一部の翻譯に着手したが火災の爲に原稿を焼失したので初めて出版せられたのは明治四年に出たゴブル氏譯の馬太傳である。其からヘボン、ブラウン二氏が奥野昌綱氏の助を得て譯せられ、奥野氏が版下を書かれたと云ふ馬可傳と約翰傳の譯本は明治五六年の交に出版せられた。其後各派の宣教師の間に委員が出来て新約聖書の翻譯は明治十二年十一月に至つて完成し舊約聖書は明治十九年に完成せられた。此の大事業は外國ミッションの擔任した所であつて主任者は固よりヘボン、ブラウン、フルベッキ、グリーン等の諸氏であつたが之を助けて翻譯の事業を完成せしめた日本人は新約には松山高吉、奥野昌綱、高橋五郎、舊約に於ては松山高吉、植村正久、井深梶之助の諸氏であつた。現行の聖書の譯文は今日から見れば不完全の所多く、特に新約に於て支那譯文に拘束せられ居る點が少くないのは惜むべき事であるが、然し當時漢文調の文章の行はれて居つた時代に斯くまで平易で且つ下品でない文體を作り得たのは卓見と云はなければならぬ。ことに舊



約聖書の譯文に於ては著しき進歩を示し文學上の價值見るべきものが多い。其の外外國宣教師が初代の文學と思想に貢獻せる所大なるものがある。ヘボン博士が辭典を完成して羅馬字綴りの式を開きし如き、フオルツ氏か大學教授モオルスと對抗して宗教と科學の關係につきて辯證論を試みたる如き、ノックス、デヅキス、アメルマン諸氏が辯證論や宗教哲學神學に關する著書を出したる如き、ラルネット氏が聖書の註解教會史に於ける如き是である。ラルネット氏の如き今日まで我々として聖書解釋の事業を繼續せられて居るのは我々の感謝し且つ自から恥づる所である。かく初代に於ける基督教文學の進歩は宣教師諸君に負ふ所大であるとともに基督教を信ずる日本人の間にも文學の力は早くも認められた。日本に於ける基督教定期刊行物の先驅とも云ふべき『七一雜報』が發刊せられたるは明治八年十二月廿七日のことであつた。これはアメリカン、ポードの經營した事業であるけれども村上俊吉、今村謙吉二氏編輯せられ寄稿した人は多くは日本人であつた。この週刊新聞は七年間繼續して村上氏の話によれば七八百部乃至千部の發行高であつた。我等は『七一雜報』に於て、明治九年に廢刀令や散髮令の布告せられたと、大阪から向日町まで汽車(『岡蒸氣』とあり)の出來たことなどを讀み、つゞきて西南戰爭の記事を讀み、これが同時代の記録であることを思へば史的感興を催さざるを得ない。且つ基督教の文學は始めより其の趣味平民的であつて多數の人に了解せられ易きを旨としたと見え、『七一雜報』の如き此の點に力を用ひたることは明であつて、日常生活の事に關する記事が多いこと

となどは今日の新聞紙に近い所がある。我基督教文學の先輩は正しい起點に手を着けたのである。之より稍後れて東京では原胤昭氏が『東京新報』と云ふ唐紙假綴の雜誌を出すとなりクニールと云ふ米國婦人が今日まで續いて居る『喜の音』を發行して植村、井深諸氏編輯に従事せられた。文學上の生命が夙くより我が基督教界に活潑であつた理由の一は初代に於て道に入つた人々が大抵漢字があり和漢學の素養のあつた人々であつた事である。明治十六年七月築地新榮教會で開れた日本基督教大親睦會の席上で中村敬宇氏は基督教と文學と題する演説をせられたと『七一雜報』に載つて居る。其思想の向ふ處を見ることが出来る。全氏の如き深き漢學の素養あるが爲に『天道溯源』に訓點を附して發行する等教の爲に力を盡された。泰西人の上書に擬して天皇陛下に洗禮を受くることを御勸した長篇の漢文を公にせられたが、余が見たる基督教を稱賛した文章の最初のものはこのことである。其の他の諸氏に於ても大抵和漢學の素養はあつたし、英語にて書かれたる書籍を讀むの力は世間の學者よりも數歩前に進んで居つた。英文學は専ら基督教の人々によつて世間に紹介せられた時代があつた。加ふるに日本の基督教は初めから文學上の天才として誇るに足る人々を有して居た。小崎弘道氏の『政教新論』植村正久氏の『真理一斑』の如き當時の幼稚なる時代には過ぎたる産物であると云つても溢美ではない。其の他浮田和民、徳富猪一郎、大西祝、松村介石、海老名禪正の諸君が氣魄あり才藻ある文章は基督教文壇の花であつた。此等の人々の力により基督教は日本人獨特の思想と趣味に消化せられ



翻譯に非ざる産物を出すやうになつた。

104

前に區分した基督教文學の第一時代即ち明治二十年までは基督教が歐化主義の順潮に親して其の非常なる勢を以つて發展したる時代である。此の時代の特長とも云ふべきは各派合同の氣運尙ほ盛であつて文學上に於ても自から一致して事に當る風があつたことである。明治十三年十一月を以て創刊せられた『六合雜誌』明治十六年八月を以て創刊せられた『東京毎週新報』の如き全く教派に關係なき者であつた。基督教の文學出版會社として發起されし警醒社の如き全く有志家の事業で教派に關係なく營利を目的とせざるものであつた。年少氣鋭なりし我等の先輩は此等の一致せる機關によりて一致せる活動をなし思想界に於ても福澤、田口、井上、外山諸氏と戰ふて堂々たる論陣を張つた。當時三田流の功利説にあらざれば唯物論が支配して居つた日本の思想界に、功利以上の目的、物質以上の實在を知らしめ理想の光を見せたのは我が黨の文士の力であつた。實に愉快なる時代であつて青年の意氣騰勃たる勢ひがあつた。たゞ夫れ青年時代なるが故に意氣は壯んであるけれども思想は幼稚なるを免れない。文章亦今日に傳ふべき價值あるものは少ないやうである。更に一步を進むる前に試練の時代は來らねばならぬ。其の試練は明治二十年伊藤井上諸氏の歐化主義の失敗、保守反動の潮流の勃興とももに來つた。然して基督教界に於ては明治二十二年今の日本基督教會の前身なる一致教會と組合教會の合同の計畫殆んど成らんとして頓挫するあり、外には社會の逆潮彌々高くして傳道は困難を加へ基

基督教の學校は頗る學生の數を減じた。是等の事は基督教文學に影響せざるを得なかつた。先づ著しき現象は今迄各派の文士力を合せて守りたる城壘何時しか離散して事實上各派各々文學の機關を有する様になつたことである。かくて『基督教新聞』は組合派の機關となり、明治二十三年には『福音新報』創刊せられ、同じ二十四年には『護教』が發行せられ、それから暫らく間を置いて明治二十八年には救世軍から『関の聲』が發行せられ、三十一年には内村氏の『東京獨立雜誌』（後『聖書の研究』之に代り）三十三年には海老名氏等の『新人』が發行せられた。然して思想界の色分けは彌々明かになつて來た。いつかは來らなければならぬ神學の爭思想の混亂は既に始まつて居つた。之より先きユニテリアンもはいつて來た。獨逸の普及福音教會の一派は神學校を立て雜誌『眞理』を發行して盛に其の一派の自由神學を傳へた。金森通倫氏が『現在及び將來の基督教』の一書を著して牧師の職から退いたのは、此後幾度か起り來りたる神學上の波瀾の最初のものとして先づ人の注意を牽いた。爾來大波小瀾幾度か捲き起された。基督論に關し贖罪論に關して『福音新報』と『新人』もしくは『基督教世界』の間にあつた論戰は其の新しいものである。

此れが即ち進歩の順序である。かかる時代がなかつたならば日本基督教は英米の宣教師から教へられたままの有様を脱することが遅かつたであらう。波瀾は思想を銑煉した。夢幻境を出でて現實の苦き味はひを嘗めた結果として、一體の調子が沈着になつた。程度を重ざるやうになり用心深くなつた。



一言に云へば大人らしくなつたのである。然して文士と讀者との間に相了解するものが深くなつたのも亦割據時代の利益の一であらう。思ふに文學と云ふものは時代の思潮との交渉や何かによつてのみ品評さるべきものでない。實際人を教へ人を善くし人を慰むる力があるならば其處に眞の文學はあるのでないか。多くの基督教の雑誌は之をなしつつあるのである。生命の糧を供しつゝある、隨て又基督教を傳ふる上には講壇に匹敵する働をなしつゝあるのである。此は誰しも許す所であらう。然して弱點も亦之に伴ふてゐる。其の文章を賞鑑し得る讀者との間益々密になるとともに、幾分か社會一般から遠かることとなるは已むを得ざる次第である。然して文學の生命が高級の必然から喚び起されずして低級の必然に動さるることも少くない。低級の必然とは何であるか、例へば一の宗派があれば必ず一の機關雑誌の必要があると云ふ如きこれである。高級の必然とはさうでない、是非發表したい主張がある又充たさねばならぬ社會の缺陷があると云ふ處から出るものが其れである。低級の必然から生ずる争氣に至つては最も好ましくない。兎に角是の如き時代に於ては戰略を講じ廣き戰線を張つて戦ふことは出來難いことである。固より明治二十五年井上哲次郎氏が「教育と宗教との衝突」と題する意見を發表した時などは基督教の先輩は鋒先を揃へて之と戦ふた。然して之を追撃するまでに至つた。或る坊間の書物には此の論戰から基督教は不振に陥つたと書いてあるが、無知の甚しいものであつて此の争は基督教の勝に歸したのである。かかる場合も一二はあつたであらうが、先方の來襲を待

たず思想界の全局面の地理を按じ必要を研究してプログラムのある戰爭を開始すると云ふことは少くなつた。勿論此は戰が大きくなつたからでもあらう。明治二十年以前とは異なつて戰線が非常に長くなつて日本人の間にある或る思想を相手にすると云ふよりも寧ろ世界的の思想の一半に當らねばならぬ時勢となつて來たと云ふ事實も考に加へなければならぬ。しかし機關の不十分なること、小規模であつて世間一般若しくは思想界を相手にするに不便であると云ふことも少からず運動を妨げて居るに違ひない。之れとともに基督教徒はやゝ純文學の世界から離るるやうになつた。此の時期の初年には『國民の友』『日本評論』『女學雜誌』『六合雜誌』等の雑誌があつて此等が盡く基督教主義のものであつたと云ふ譯ではないにしても基督教徒の文學的產物は多く此等の機關によつて發表せられた、文學界に發言權を有して居た。今や前の三雑誌は存在せず『六合雜誌』は移り變つてユニテリアンの機關雑誌となつたが、嘗て此等の雑誌の主筆なる徳高、植村、巖本諸氏を中心として集つて居た人の中に今でも文學の世界に樹立して居るものが少くない。然して基督教の用語や思想は是等の機關と又英文學の普及によつて社會に普及し浸染し、戯作者風な所を驅除した。明治文學は全體に於て基督教の色彩を帯ぶるやうになつた。今日は大陸文學の流行から大分傾向が變つて來てゐるが、これでも今日の教育を受けた最大多數の人の教養と趣味は英米の文學によつて養はれたとは争ふべからざる事であつて、神の攝理は



感謝すべきである。基督教の思想と趣味を原として小説を書いた徳富蘆花、國木田獨步、中村春雨、岩本かし子等の功も亦記憶しなければならぬ。若し夫れ今日名を成して居る小説家の中で基督教會の門を出入した人の數は割合に多いことは明かな事實である。哲學界に於ては故の大西祝氏の如き末年信仰状態は大に變つて居つたに相違ないが、何しろ真正の學者の氣品を以て真理の研究に従事した生涯は精神界に忘れ難き印象を留めて居る。今日に於ても余輩は氏の占めたる椅子の尙ほ空虚なるを感ぜざるを得ない。及ずと雖も相似たる關係に於て網島梁川氏の名も亦此處に擧げねばならぬ。

之れよりもつと内部的なる文學の方面を云ふならば我等は爰に讚美歌の事を言はねばならぬ。大分前に溯つて讚美歌集の起原を調べて見ると、明治八年頃に横濱で初めて小さな讚美歌集が出版せられた。二十一の歌を収めた木版刷の書物である。大抵は翻譯して作者は奥野昌綱、熊野雄七、本多庸一の諸氏であつたさうである。辭は無論幼稚であるけれども疎豪雄健にして當時の氣象を偲ばせる所がある。之と前後して神戸に居つたグリーン氏等の手になつた讚美歌集が出版せられたさうであるが、余輩は未だ之を見たことがない。各教派の用ひた讚美歌集はその後時々改正せられたであらうが、明治二十三年に一致組合兩教會の委員の手に成つた新撰讚美歌出づるに及び著しき進歩を示した。此の集は松山高吉、植村正久、奥野昌綱氏の作つたもので、曲譜はオールデン、キング二氏が擔當せられた。之よりも少しく先にメソヂスト教會ではデザインソン氏其他の人々の編まれた『基督教聖歌集』が出来

た。明治三十三年に各派共通の歌集編輯の話が纏りて三十六年の暮に現行の『さんびか』が出版になつた。主として別所梅之助、三輪源造、湯谷礎一郎の三氏が之に従事せられたと云ふことである。辭と想が軟弱な所があつて剛健莊重な調を缺いて居る一事は惜むべきことであるが何しろ前のものに比べて進歩したものである。

聖書の改譯も今日其の必要が迫つて居り又た一部分の私譯を試みた人はあるが、教會の計畫としてまだ成立して居らぬ。其の外基督教其のものを解釋し紹介する目的を以て書かれた眞價のある作物や翻譯は無論ないてない。幾多の好著を出した内村鑑三、松村介石、海老名禪正諸君の功勞は記憶しなければならぬ。しかし眞珠的であつて珊瑚島のでない。系統を缺いて居る。聖書の註解にしても、基督教の教理を説明した書物にしても基督教の歴史にしても、當然あるべき書物で良いものがないものが多い。創作は勿論少いが好い翻譯も乏しい。それには種々の原因があるが前に云つたやうに基督教界の有力者がさらでだに多事なる上に各々機關雜誌を持つて居るがため長い年月をかけて著述をするに云ふ餘力が乏しいと云ふとが第一の原因である。必要を研究して遠大なる計畫を立てる出版者がなると云ふことが第二の原因である。基督教教育ことに神學教育が今まで不充分であつて、思想界に健闘し得る準備をさするに足らなかつた、殊に哲學が乏しいと云ふことが第三の原因である。基督教の文士が境界線上の人が多くして専門に研究し専門の領分に力を專にする風が乏しいことが第四の原因で



ある。然してもつと根本的原因を擧げるならば何にしてもまだ宗教的生命が浅く熟した信仰や見解が少いことである。

過去を追懐し現在の位置を考へて、更に將來に對する希望を述ぶるならば此の五十年記念會を轉機として希くは第三時代に入りたいものである。今や人物の點から考へても新しき人物は興つて局に當つて居る。そこで新時代の特徴とすべきは第一統一である。各派接近して合同に近くは當初の精神で又今日の大勢である、文學の上では實際如何にすべきかと云ふことは別として、とにかく一層部伍整然天下を相手として陣を布く方法を講ずべきである。思想に於ても統一した根本思想から割り出した體系の明らかなものを出さねばならぬ。第二は經綸である。文士も出版者も遠大の計畫を立てて、高級なる必然に動かされ、いさまであるよりも目的の明らかにして、品質の優れるものを出さねばならぬ。極めて平民的にして實際的のものを作るとともに一方には思想界の勢力となり得るものを出さねばならぬ。第三は努力である。今や文學の天地は廣くなつた、思想界の問題は多端になつた。ますます根本的となつた。戰は彌々困難を加へつつある。我等は必ずしも嗜好を追ふて奔るを要せず、深き源流を汲んで優に占むべきの天地がある、基督教の根本義につき、聖書につき、基督教の歴史につき、又現代の思想との交渉につき、嚴密なる研究をなすとともに何處何處までも基督教特有の生命と經驗を離れずして進まねばならぬ。これ即ち敬愛する先輩諸君の志を成し其の心盡しに酬ふる所以であると信ずる。

### 基督教文學に關する吾人の問題及び計畫

同志社神學校  
教授神學博士

シドニー、ギユリック

開教五十年記念會の目的は、嘗に我が新教の傳道開始を紀念するに在らず、又嘗に開教以來の經驗を回顧するに在らずして、過去の經驗から將來の傳道に關する智識と元氣とを得るに在ると思ふ。全國各地より集り來つた者が、今此一室に列して此の盛んなる記念會を催ふすのは、相互の心情と頭腦とを結び合はせて、是迄より廣い計畫を立てより有効なる運動を講ずる爲でなければ、其意味は誠に淺薄と謂はねばならぬ。余が此處に貴重なる廿五分の時間を利用して、(一)日本教化の大問題に對する基督教文學の位置と、(二)基督教文學に關する我儕の計畫と、(三)有効なる基督教文學の特質とに就いて、聊か卑見を吐露するは蓋し其意に外ならぬ。

#### 一、基督教文學の位置

日本教化の問題に對する基督教文學の位置を知るには、先づ吾人の眼前に横はつて居る問題は何であるかを知らねばならぬ。四千五百萬人の中で約十萬人の新教信徒があるとし、而して大約五百萬人の未信徒が我教の大體を解して居るとしても、他の三千九百九十萬人は未だ我教の何たるを解せないのだから、日本教化の前途は中々遼遠である。而かも斯様な數字的觀察のみでは未だ眼前緊要の問題を



充分に知る事は出来ないのであつて、此外に思想的觀察が甚だ大切である。蓋し日本國民の大多數は、遙か昔から日本に在て或は深奥幽玄なる哲學的思想を注入した宗教、或は嚴正實着の倫理的思想を鼓吹した德教（儒教又は武士道）に支配されて居る、其の宗教其の德教を我儕宣教師が充分に研究し知得するには數十年を要する位のものである。我儕は此等の教の中に智的真理若くは靈的真理若くは行為上の真理の要素が少なからぬ事と、これあるがために大多數の國民の心情と腦髓とを支配して居る事とを承認せねばならぬ。然り、此等の教の若古にして敬重すべき故と、此等の教が造り出だしたる聖人偉人の多きがために、如何にも深い強い勢力を以て多數國民の心腦を握り締めて居るのである。

果して然らば、日本に於ける我徒の事業は、未開の宗教に支配されて居る未成國民に對する事業のやうなものではない。日本に於て基督教が取組をする對手は、珍らしくも西洋の宗教及び哲學の發達に類似する發達をなして、而かも數千年の長齡を取つて居る宗教又は德教であるからして、日本に於ける基督教の傳道は、太平洋の諸島や亞弗利加などに於てなした傳道又現に歐米に於ける非基督教の人々に對する傳道とは根本的に違ふ。此事を了解するまでは、我儕の日本に於ける傳道事業は半ば空を打つが如きものである。固より舊來の宗教に對して不満足の心を起した人などを我教に引入れることが出来やうか、是は基督教の積極的運動のために舊來の宗教を棄て、斯教に入るのではない。斯様な

種類の人ばかりに傳道が出来るのでは、我儕の事業はたゞ日本國民の一部一端に限られて全般に及ばなうであらう。

惟ふに、我儕が五十年間の傳道經驗は、どうかかうか漸く自分の眼を開く位のものであつて、今後の經驗は中々容易なものではあるまい。基督教と日本の諸宗教殊に佛教との眞劍の取組は今後に在る、此等在來の宗教は基督教の來入のために顛覆されないのみか、薄弱にもなつて居ない、否、寧ろ基督教の來た爲めに珍らしくも其元氣を復興し其勢力を回復して居るやうに見える。即ち此等の宗教の職務に従事する人々は、基督教精神の感化を直接間接に受け、基督教の歴史上の事實をも知り、基督教の事業（又は教育例）の性質組織及び方法をも知つて、爲めに新生命を得たやうに見える。斯くて彼等は一の新しい自覺を起し、自己の價值と使命を感ずるやうになつたと見える。而して國民を感化し其情念に訴ふる事に於て、今日は二三十年前よりも遙かに力強くなつたやうに見えるのである。左れば、我儕は將來に起らむとする大奮闘のために適當の準備をなさねばならぬ。此の奮闘は血肉に依らず機具に依らずして知識に依る、即ち思想上論理上の奮闘であるが、この知的奮闘の決戦點は、窮極者に就いての觀念であるに相違あるまい。即ち宇宙萬有の窮極者は無意識無人格であり最後の目的なき運動をする者であつて、此者は漸々發展して一方には無生物を生じ一方には生物を生じ其生じたる萬物は其々定められた運命に従つて其々の徑路を歩み盡せば、竟には窮極者に吸収され復歸されるといふ東洋



の宇宙觀が果して眞正であらうか、但しは宇宙萬有の窮極者は意識的人格的存在者にして、自己の目的を達する爲に宇宙を創造し維持し支配する大能者であり、其總ての運動は全智全聖全愛であり、宇宙萬物及び人間を通じて自己を顯現し、殊に基督に於て最高の化身をなし、基督の救済的生涯と死とを以て地上に神國を建設し、此國に永遠住ふべき神の子供を養成し給ふといふ基督敎的宇宙觀が果して眞正であらうか、といふのが知的決戦の關ヶ原であらうと思ふ。乍然心の開けた熟成した基督敎者が、佛敎及び儒敎を精細に研究して其中に含んでゐる眞理と誤謬とを公正に辨識し、若し基督敎にない所の眞理を見出す時には喜んで之を我敎に加へるやうになり、又佛敎者及び儒敎者も又武士道者も基督敎に就て斯くするやうになる迄は、兩方の本當の取組はなからうと思ふ。

我儕は基督敎の神觀宇宙觀は最後の勝利であるといふ信念を正常視する者であるが、然かも是は唯一の信念である、此信念を大いに現實化するためには、我儕は憶せず反對者に挑戦し、又反對者の挑戦を善諾して大いに討究せねばならぬ。この討究に當つては、極めて公平な態度を取り、當に我儕が彼に與へる心ばかりでなく彼から受けるといふ心も有たねばならぬ。眞理を喜んで受けるといふ氣がなければ、恐らくは我方の眞理を與へる事は出來まい。

右は智的問題であるが、此外に非常に大切な實際的問題がある。右に述べた智的問題は畢竟この實際的問題を解決するためのものに過ぎない。實際的問題とは永く日本の國民を捉へてをる惡風惡習と

奮闘する事である、其は唯彼の娼妓藝妓の如き公醜業ばかりを意味するのではなく、又商業上、政治上、製作上、經濟上の惡事を意味するのでもなく、寧ろ家庭若くは社會に於ける男女の關係に於ける惡風を改善する事を意味するものである。基督敎の宣傳が果してするほどの値打があるならば、當に一方面のみならず諸々の方面に其効果を現はして、いはゆる神國を全體に打ち立てねばならぬ。

我儕が智的奮闘及び實際的奮闘をなして成功を遂げるためには、我儕は大に一致協同の精神を有たねばならぬ。東洋人は西洋人の細々しい宗派心や喧ましい傳説的教義に對して趣味を感じない、又其必要もない。東洋に取て必要なのは唯基督敎に於ける絶對的一般的要素のみである。凡ての方面諸々の物事に於て萬國主義一般主義が益々勢力を増し加へつゝあるこの第二十世紀に於ては、區々たる宗派的教理や狹隘なる僻見や國自慢などは容れる餘地がない。加ふるに、日進月歩の科學は地方的若くは人種的思想を排して普汎的思想を取らんとする。無線電信とか空中飛行機とかいふやうな新發明は直ちに全世界の所有物となる。如何に新奇な學問も技術も、之を一個人又は一ヶ國の間に隠して置くことなく、成るべくだけ早く世界一般に知らせる。斯る學問上又は技術上の一般的特徴は、世界の宗教である基督敎の特徴となるべき等であらう。基督敎は各派の共有物であつて、獨り羅馬敎會又は希臘敎會又は新敎會又は新敎會中の某派の専有物ではない。我儕の間に在る宗派的教説若くは制度組織は、基督的生活に於て比較的重要なものではない、左れば我が基督敎に於て最も重要な絶



對○的○一○般○的○の○眞○理○を○著○し○く○目○立○た○せ○人○々○を○し○て○善○く○之○を○領○得○せ○し○む○る○た○め○に○、○比○較○的○重○要○で○な○い○も○の○を○小○さ○く○す○る○必○要○は○な○い○歟○。○偉○大○な○る○文○明○國○に○於○け○る○傳○道○上○甚○だ○必○要○な○る○も○の○は○、○眞○に○宏○量○大○度○を○以○て○裏○ま○れ○た○基○督○敎○的○眞○理○と○實○生○活○と○て○あ○ら○う○と○思○ふ○。○我○儕○宣○敎○師○の○間○に○は○、○其○の○執○る○所○の○敎○理○に○於○て○又○敎○會○制○度○に○於○て○多○く○の○區○別○が○あ○る○に○拘○ら○ず○、○一○致○協○同○の○大○義○を○善○く○考へ○善○く○學○ぶ○必○要○が○あ○り○は○せ○ぬ○歟○。○た○と○ひ○敎○理○制○度○に○於○て○一○致○は○出○來○な○い○と○雖○も○、○神○國○を○日○本○に○擴○張○す○る○事○に○於○て○一○致○す○る○必○要○が○大○い○に○あ○り○は○せ○ぬ○歟○、○又○眞○に○其○志○あ○ら○ば○一○致○し○得○ら○れ○る○て○は○な○い○歟○。

以上吾輩の眼から見て、我儕の眼前に横はつて居ると思ふ三大問題に就いて、大體の意見を述べたのであるが、偕て數千年の昔から日本國民の精神を支配しつゝある宗教及び徳教と、なほ又古くから日本國民の内に堅固なる堡壘を構へて容易に抜くべからざる惡風惡習とに對して、我が基督敎が奮闘するに第一肝要なものは、活ける基督者の個人的感化力と高尚なる實生活とである。蓋し抽象的な思想のみを以て成立つ所の教は、如何に眞理多大なりとするも實際上の價値は殆んどない、其眞理が活ける人格に化身して活物となり、其活眞理が吾人の思想と言語と行爲とを支配するに至つて始めて價値ある眞理となるからである。然り、然かも我儕が奮闘の利器として印刷物の大いに必要なることを認めざるを得ない、何となれば、我儕が智的取組をなすは主にも此の印刷物といふ土俵内に於てするからである。固より説教又は演説といふ利器も有効ではあるが、これでは精細に満足に我れの眞理を説

明し又彼れの誤謬を辯明するだけの時間の餘裕がない、のみならず音聲の力は一場内に在る數百幾千の人に限られて居る、殊に敎會や説敎所に集つて來ない人々には何等の影響を與へる事は出來ない。故に廣く我敎の感化を及ぼし全國民を敎化せむとするには、大いに印刷物を利用せねばならぬ事は余の多言を費やす迄もない。然り而して、其の印刷物應用の範圍換言せば我が基督敎文學の位置は、以上大體述べた所の三大問題によつて略ぼ明かであらうと思ふ。

## 二、基督敎文學に關する我儕の計畫

日本に於ける基督敎各派ミッションの常議員會は、前上に述べた事柄に感ずる所あつて、以前から基督敎文學委員會を設けて居つたが、此の委員等は本年一月東京に開かれた年會に於て一の計畫案Ⅱ是迄よりも一層盛大に印刷物を利用する計畫案Ⅱを立てた。此案は年會に於て充分協議した上、委員から各派のミッションに之を通知した。其の通知書の中には基督敎文學のために我徒の大いに奮發すべき必要を論じ、此の事業の實行方法を説明し、なほ委員の組織及び維持法をも提案して置いたのであるが、遺憾にも今日までの結果は我儕を失望させるやうなものである。即ち二十二の協同ミッションの内十二のミッションは未だ何等の返詞を寄せず、返詞を寄せた者の中六ミッションは賛成の意を表し他は反對し或は反對とも賛成ともつかぬのである。それで今年の夏に於ては、一個のミッション團體が獨立で、右協同ミッション文學委員會が立てた計畫案と同様な計畫を立てた、尤も其團體の議長のいふ所



によれば、協同委員の計畫を妨げる積りはないとの事である。が、斯く大多數のミッションが共同文學の事業に對して熱心がなく而して一ミッションが獨立運動を取るといふ事であるから、我儕の共同的共同事業は先づ行はれないと明らめるの外はあるまい、何と遺憾な事ではないか。

あゝ我儕宣教師等は、宗派のため傳説的敎理のために妨げられて、區々たる小競合ひを以て満足せねばならぬ乎。我儕の戦は堂々たる勝利の戦であらねばならず又一致さへすればさうなし得られるのではない乎。我儕は主イエスの敎の勝利のために相互のさほど重大でない差別を忘れて、諸共に一の旗幟の下に一の作戦計畫の下に一軍團となつて奮戦する事は出来ない乎。見事勝利を奏する爲には、我儕の計畫及び活動の調和一致が大關係を有する事を思はない乎。我儕は今日の實業家が共同して非常な利益を收得しつゝある事實に鑑み、各宗派のやつて居る微々たる仕事と共に用ゆる資力を一つに集めて多大の効果を收得するが得策であると考へない乎。兄弟よ、我儕の勢力と勝利は一致共同によつて得られるものであつて、殊に日本の如き國に於ける基督敎事業は、極めて統一せる計畫と潤大なる共同と有力なる經濟の基礎を要する事は、誰しも異論はあるまい。嗚呼兄弟よ、我儕は日本敎化の大目的のために區々たる差別を忘るゝの大度を起す事が出来ないであらう乎。

### 三、有効なる基督敎文學の特質

(一) 基督敎文學を有効ならしむる第一の要件は、之をして基督的ならしむる事である。基督敎文學は必

ず基督を心立とし土臺とせねばならぬ、徹頭徹尾基督の精神に満ちて居らねばならぬ、同胞に對する奉仕犠牲の精神と、天父に對する孝順敬愛の念とが盛んであらねばならぬ。(二) 第二の要件は之をして福音的生々のならしむる事である。生々のといふのは實力の旺んる事を意味する、故に個人の宗教的經驗に重きを置くは勿論の事である。蓋し、我敎の眞髓である救は、儀禮によつて與へらるゝ所の無意識的感化によるものでなくして、聖靈の活動によつて起る所の感情及び意志の上の意識的變化であり、従つて道徳上品格上及び生活上の大變化である。それで、人心の新たに生れ更はる事、罪の赦されて平和と徳力とを得る事、心靈の潔めらるゝ事、神の聖意を行はむとする永久の精進力を得る事、又身を終るまで世に神意の行はれむために努力する事などは、福音的生々の基督敎文學に於て缺くべからざる特質である。(三) 第三の要件は之をして社會的ならしむる事である。昔は我新敎は割合個人的に偏したが、近代の進歩した新敎は社會の方面に個人と同等の重味を置く。一個人として新敎罪潔化若くは平和安心希望を得たばかりでは足りない、又一個人の信徒として己が得た神の恩恵を人に傳へ彼等を己れと同様な幸福に導くばかりでも足りない。個人の内に神國を來らすと共に、家庭に於ても市場に於ても會社に於ける政事上にも教育上にも、全社會に神國を來らす事を努めねばならぬ。基督は常に個人のみならず社會を救はむために世に來り給うたのであるから、基督敎文學は此の二重の見地に立て其職分を盡さねばならぬ。



(四) 第四の要件は聖書的であるといふ事である。聖書は人類の最も高い宗教的經驗の記録である、殊に其中にイエスの教訓と實行との記録があるが故に、之を書籍中の最上書籍ともいふべく、又神の最高啓示ともいふべきである。此のイエスは自から證して『我は道なり眞なり生命なり』といはれた通り、我等は彼を通じて神に近接し面謁し、彼によつて神の天父たる事と我等の神子たる事とを識り得る。我等は彼によつて最も高貴な眞理を得、不朽の生命を得、生々の靈力を得るのである。此等無上の賜物に比すれば他の物は糞土の如きものであるが、然かし此等はみな聖書の媒介によつて受けるのであるから、聖書の價値は眞に無限である。されば若し基督教文學が聖書を輕視するが如き事があれば、其は子其親を輕んじ支流が其本源を知らぬやうなものである。

(五) 第五の要件は現代的でなければならぬ事である。過去三百年間に於いて段々成長して來た科學は、教育ある人々の宇宙觀を一變して仕舞つた。殊に過ぐる五十年の間に於て、古來の科學的思想及び哲學的思想は殆んど破壊し盡した。新物理學、新天文學、新心理學及び新哲學によつて我々は新しい天地を觀て居るのである。所で、非基督教教育のみならず基督教者の中にさへ、基督教と舊來の科學及び哲學とを同一視するため、近代の新科學新哲學が舊科學舊哲學を破壊した事を以て基督教を破壊したものとやうに誤解してをる人が多くある。基督教徒殊に羅馬教徒の中には、非基督教者の考と同様に、基督教と中世紀思想とは同一のものやうに考へた爲に、基督教を棄てんよりは中世紀思想を壞

はす近代の學問を棄るに若かずと考へ、躍起になつて學問に反對する人がある。斯様に近代の學問に反對する態度は、基督教國殊に社會の進歩と懸け離れた仲間の中に在て保持する事は出來るかも知れぬが、東洋に於て殊に日本に於て、既に廢れた科學と宗教とを同一視するやうな古風の基督教が盛大にならうとは思へない。東洋に於ては西洋の科學を研究する者は最も進歩した近世の科學を熱心に歡迎するからして、東洋に於ける基督教文學を有効ならしむるためには必ず現代的でなければならぬ。現代の概念と言語とを以て我教の中にある人を活かす所の眞理を善く仕立て、之を世人に與へねばならぬ、かくして基督教文學は廣く世人に了解せられ、深く人心に影響を及ぼし得るのである。然らずして、今日に形骸を遺してをる中世紀の學問や希臘的の形而上學などに重きを置くやうな事であつたならば、イエスが其弟子に委ね給うた人を活かす福音は大半無効に歸するであらう、何となれば、其思想言語は現代の人に了解せられないからである。

(六) 第六の要件は他宗教に對して平和的であるといふ事である。基督教者の思想が幼稚な時代に於ては、他宗教は悉く誤謬であるやうに思ふたが、斯る時代は最早過ぎ去つたので、今日は總ての偉大なる宗教が天父の賜物である貴重な眞理を有して居ると見得るのみならず見なければならぬやうになつて居る。天父は唯ユダヤ人にのみ其賜物を與へ給うたとは思はず、又他の國民を見棄て、彼等の心の腐敗し墮落するまゝに放任し給うたとは考へられない。之は比較宗教學が許さぬばかりでなく、『善き者



にも悪き者にも雨を降らせ月を照らし給ふ』至公至愛の天父は彼れの賜物を總ての人に與へ給ふといふイエスの教は斯る非基督教的僻見を許さないのである。それで今日は他宗教に在る所の眞善美の如何なる者も我が基督教文學は之を承認し歓迎する時になつて居る、而して萬人共有の眞善美を愛重する事に於て我が基督教は他教と同精神であると見る時になつて居る。果して我儕の信ずる如く、イエス、キリストに於て我儕は神の最高顯現を見るならば、未だ彼を知らぬ國民に彼れと彼れが世界に齎らし來つた福音を宣傳するのは、彼等國民が既に得て居る天與の眞理を打ち壊はす考を抱くことなく、却て其眞理を完全に成就する考へを有つべきである。斯く我儕が他宗教に對して平和尊重の態度を取るならば、我儕の基督教文學は、他の方法の企て及ばざる世人の注意を喚び起し且つ歓迎を受け、大いに成功するであらうと思ふ。

(七) 第七の要件は非宗派的でなければならぬ事である。勿論余は、基督教文學の總てが個人的若くは宗派的の色を全く脱却すべきものであるとは言はない、之は到底行はれうべき理想でない、余は寧ろ我儕委員の企圖する共同出版物は、種々様々の色を帯びて差支ないと思ふのである。如何に博學達識の人でも又如何に結構立派な宗派でも學派でも、總ての眞理を所有するものでなく、又之を人に與へ得るものでもない、故に我が基督教文學に筆を執る者は、自己の有つてを眞理を發表するに自由を要求する如く、他の人にも同じ自由を許さねばならぬ。我儕は今各異る教會に屬するけれども、永い間

の苦がい誤解や衝突經驗を嘗めた後で互に相一致する點を見出した、即ち神は我儕の天父なりといふ信仰に於て、イエスは我儕が救主なりといふ經驗に於て、又我儕のクリスチャン品格に於て、豫想外に相似てをる事を見出したのである。禮拜の様式や教會の組織や信仰の條目などから觀れば大層相異つてをるけれども、信仰上の最も肝要な點に於ては珍らしく一致して居る。宗派心の強い人々が考へて居るのとは相違して、神は其賜物其聖靈を廣く一般の基督者に與へてござる、果して然らば我儕は相互に異なる神學思想と教會組織とを寛大に許容すべきではない歟。平和的態度を取りつゝ、浸禮派も、長老派も、監督派も、組合派も、又進化論者も、内展論者も、創造論者も、聖書解釋諸學派も、歴史的批評學派も、自由に公平に其所信を陳述し表白する所の基督教文學會を起す事に一致し得らるべきではない歟。

余の愚見によれば、宗派的性質若くは人種的性質から離脱した純粹の基督教思想と生活法を東洋に植付けやうと欲は、斯様な無宗派的方法によるの外なきことは明々白々であらうと思ふ。斯る公平寛大な精神を以てこそ始めて日本の如き智力の鋭敏なる國民に對して我が基督教思想を吹き込むことが出来るのだと思ふ。若し然らずして、多くの個々別々な小さな基督教文學書出版會社を立て、各自の主義思想に執着して他の主義思想を無暗に拒絶するやうであつたら、恐らくは其仕事は失敗に終るであらう。自分の主義思想に異なる者には一切發言を許さずして口網をかけるやうな事をする基督教



文學社が果して思想の自由を奪ふ日本國民の信用を得るであらう乎。否。一宗派の思想を以て固め込んだ書物を繕いて見たいといふ日本人は極めて少ないであらうと想ふ、我儕が思想の自由を深く重んじ彼我の長短を公平に認識し許容するやうにならなければ、少し見識ある日本人は決して我儕の所説に耳を傾け眼を注がないであらう。基督教會が過去に於て大いに過つた事は、客觀的に器械的の權威を以て人の信念又は思想を支配し得るといふ假定である、この假定を有意無意にして居つた爲めに、或は面倒な異端裁判を起したり、無法な異端拷問所を立てたり、或は血を流がす迫害をなしたり、或は禁讀書の目錄を造つたりするやうな淺ましい事になつたのである。新教に於てもこれに類した事柄がないではない、即ち各宗派は所屬の信徒を危険な思想から遠からしめ或は其思想を排斥するため、羅馬教會が用いた様な威力的若くは物質力的の方法を用いた事もある。然かも斯る方法は到底人をして眞理を承認せしめ眞理に心服せしむるに足らない、迷妄誤謬は威力や物質力によつて征服されるものではなくして唯眞理によつて征服されるものである。たとひ正善の眞理であつても、これが教會の機關や政治的勢力などに保護されて居る時は、人をして誤謬のやうに思はしめる。眞理は其自身不變のものであるが人間に取つては其れが斷えず成長しつゝあるものだから、舊思想に育てられた者は新思想を誤謬のやうに又危険なやうに思ひ易い、それで基督教の歴史の中には、熱心なる教權派の人が新思想に反對して不都合を來たした殷鑑は數々ある。されば苟くも大切な眞理を有つてをと思はれ

る總ての人々には、其眞理を自由に發表し得る餘地を與へねばならぬのであつて、之を機械的人爲的の權威で以て妨害するのは、眞理の授與者なる神に對しても甚だ不都合である。日本に於て神國を來らする靈的方法であつて而かも成效の方法は、各宗派の教役者が自分が有つてをと思ふ眞理を自由に提出して自由に之を講究し取捨する事であらうと思ふ、若し其が果して天意人心に適ふ眞理であるならば、必らず終に相應な位地と勢力とを得るに相違ないと信ずる、若し其の提出したものが誤謬であるか、又は誤謬でなくとも一時的のもので比較的に價値の少ないものであるならば、其が消滅し或は衰微することは我が喜びであらねばならぬ。兎に角我々は、神國建設の大目的のために、各其有てゐる所のものを惜みなく共有金庫の中に投入するの心がなければならぬ。故に我々は自己の小領分に障壁を築いて、この分内に入つた小團體をして、我々の周圍に廣く擴がりつゝある基督教大團體から隔離せしめてはならぬと思ふ。

右大跡述べたやうな精神に基いて、吾輩は組織上に統一があり思想上經濟上に勢力があつて、總ての教派の代表者たるに適はしき一つの基督教文學書出版會社を設立せむことを切に希望するのである。この協同會社に於て出版する書物の特質としては、前上に述べた如く、基督を本とし、福音的生々的を旨とし、個人の救済と同時に社會の救済に重きを置き、聖書を以て神の最高啓示書とし、其中に在る眞理に現代の思想と言語とを着せて現代の人に了解せらるゝ様に現はし、又他宗教に對しては和平



の態度を取り、他宗派に對しては非宗派的大度量を持する事を尊ぶのである。斯る公明正大な出版會社の上には必ず神の恩恵豊かに下り、神御自身の御國を日本に建設するために其出版物を祝し給うて有効なる結果を現はさせ給ふに相違ないと信ずる。切に冀くは、各派の人士が此の緊要なる問題に就いて賢考し、速かに神の聖旨を知り且つ行はむ事を、アーメン。

### 基督教文學

護教主筆 神學博士 鵜崎庚午郎

私は明治の初年に生まれまして明治の教育を受けて基督教の教を受けた者でございますからして、少しも舊來の思想とか或は又偏見と云ふものに支配されずして、今日に至つたのであります、其一人の青年としてどう云ふ文學に關れて基督教者になつたかと云ふことを過去の記憶から喚起して申上げたいと思ふのであります。

明治八年に私が始めて小學校に入りました時に連語圖で習つた所の教は「神は天地の主宰にして人は萬物の靈なり」と云ふことでありますからして、當時餘程深く私の頭腦に印象したものと思ひます、此神は天地の主宰にして人は萬物の靈なりと云ふこと、酒と煙草は養生に害ありと云ふこと、は確にクリスチアンの思想であります、それから修身書を教はる時分に中村敬宇先生などの書かれた修身書がありました、其中にソロモンの箴言と云ふのがありました、當時舊約全書の翻譯はまだ出来て居らなかつたのであります、私共が小學校に居る時分に既にソロモンの箴言として習つたのであります、それから私共が其書の初歩を學ぶ時分にウヰルソンのライダーが習つたことがありますが、此本は翻譯にもなつて居ました、それを私共は英語で讀んで居ります、其中に神様の事が書いてある、天地創造の事が書いてある、朝のお祈り晩のお祈りの事が書いてある、吾々は不信者の家に生れた子供でありましたけれども、ウヰルソンのライダーに依つて神の事、又神に對する朝夕の祈禱を習つたのであります、それから又ライダーの萬國史を讀みましたが風船に乗つて世界を飛んで廻ると云ふ物語の中に舊約全書の創世紀の話がありました、之は私が未だ教會にも行かず宣教師に逢はない時の事であるかと云へば、表題は「見えざる神を見る法」と書いてありまして其小冊子を書いた方は確かドクトル、アツキンソンであつたと思ひます、それで始めて妙な神様があると云ふことを覺えたのであります(笑)それから或處でテヨット説教を立聞きに行つたことがあります、ところが其處に「耳ありて聽ゆる者は聽くべし」と云ふ看板があつた、ハテ妙なことが書いてある、耳のある者で聞えない者は無い筈だと思つたことがありますが、是が後に聖書の基督教の言葉だと云ふことが分つたのであります、それから始めて私が手に入れた聖書は支那譯の聖書であります、其頃基督教が大分流行つて來たので自分も聖書と云ふものを讀みたいと思ふて買ひに行つたので、所が日本語が無い、上海で印刷した唐本の聖書が手に入つた、其序文を見ると一通り讀めたけれど馬太傳であるとかマテテ、アラハムと云ふやうな字が漢字でノベツに書いたのだから何がナンだかチツとも分らぬ(大笑)そこで到頭漢譯の方は其儘にして描いて後十錢の日本譯聖書を買つて讀んだのが明治二十年頃であつたと思ひます。

それから私の精神的滋養となつた基督教の思想、即ち文學に依つて養はれた所の思想はどんなものであつたかと云ふと、是は其處に深山の恩人がおろしやるから御恩返しに五十年の御祝の席で御禮を申し上げなければなりません(笑)私が個人的に觸れた基督教の文學で思想上に益を受けたものは何人であるかと云へば、一は小崎先生の御書きになつた「信仰の理由」と云ふ本であります、之に依つて私は學問的に信仰の理由と云ふことを覺えたのです、今は薄い本でありますけれども其時分はナカク立派な著述であつた(笑)それから又同じ小崎先生の「基督教要論」と「基督教新論」——新論の方は新しい論であつたが、要論は西洋の翻譯でありましたから私共は餘り感服しなかつた(笑)それから其時分に非常に趣味を持つて讀んだ所の書物は植村正久氏の書かれた「真理一斑」であります、是は實に有神哲學を日本文で以て鮮かに、而して詩的に私共に教へたものでありまして、實に私共は當時之を愛讀したのであります、



それから井深先生の譯されました「歴史上の基督」——最初は翻譯であるかどうかと疑つた、けれども確に翻譯と書いてあるから間違がない、併ながら是は餘り自由の翻譯であるまいかと思ひまして原書と較べて見ました所が矢張原書に合つて居りました、(大笑)此等の辯證的文學に依つて餘程基督教と云ふ觀念が日本の青年の頭に入つたのであります、それから横井時雄氏の「神の顯現」と云ふ本、是は今露店に二三錢であります、(大笑) 出版當時には吾々青年は争うて讀むた所の書物であります、其他に高橋五郎氏の書かれた本であるとか或は内村鑑三氏の書かれた書物であるとか、或は小崎先生の管理して居られた時代の六合雜誌、基督教新聞と云ふやうなのが非常に吾々に基督教の思想を興へたものであります、之と共に私共が茲に申上げなければならぬことは、唯直接の基督教文學だけでない、他の事をも書いて間接に基督教主義を鼓吹した新聞雜誌がありました、それは即ち「國民の友」と「女學雜誌」です、此二つの新聞雜誌に依つて私共がどれ程基督教思想を吹込まれたか知れぬのであります、其他申上げますれば種々ありますが、「天路歷程」の如きも吾々が一種の興味を以て讀んだ者であります、此「天路歷程」に付いては色々の譯が出ましたが私はまだ新しいのを見ませぬ、ホワイト氏の譯書は不完全ながら我々に基督教者の生涯を教へたと存じます、

私は以上申したやうな譯で明治八年頃から明治廿一二年頃に亘つて基督教文學に由つて基督教の思想に觸れたのであります、日本の基督教文學は最初は宣教師の翻譯時代、其次は日本人の應用時代、是から來るべき時代が創作時代で今後の五十年か百年に日本人の思想を書いた基督教文學が出なければならぬと云ふことを私は信ずるものであります。(拍手)

### 聖書改譯意見

ジヨオージ、プレスウエート

基督教文學の範圍内にて今日の最大急務は、現行和譯聖書特に新約全書に十全なる改訂を施すの一事ならんと信ず、現時信徒間に一般

に川のらるゝ新約全書は、今より殆んど三十年以前に其翻譯を完了したるものにして、其後些の訂正を施したることあれども少くとも過去十八年間何等の變更をも加へたるをなし、併も其間國語に幾多の變化を來し今や名詞は勿論假名及び漢字の使用法も漸く一定せんとす、今日は十分の時間なきを以て、余は斯る改訂こそ必要ならんと感ずる點を極簡短に述ぶるに止むべし。

(一)都市、村落、山川等は普通例に倣ひ之を指示する名詞を附加すること、又現行の傍柱(人名に單柱地名に双柱)は普通の文學に用ゐざるを以て之を除くこと譬へばエルサレムをエルサレム市、バテレヘムをバテレヘム村、ヨルダンをヨルダン川とするの類。

(二)あかし(證)ひとや(獄)等の如き古語は日常用ふる處の現代語に改むること。

(三)我等の主イエス、キリストは男なりしや將た女なりしやとは余が一度ならず尋ねられたる奇問なり、和譯新約全書にては之を識別すべき便殆んど有るなし。又ラザロに就て男女の區別に迷ひ、多分マルタ、マリヤの妹ならんと考へたる信者あり、又或人は主がマアサマのヨハネに答へ給へる「暫く許せ」(馬太三〇五)なる語を採つて、聖書にはキリストの罪を犯し給へる事を暗々裏に示せる個處ありと余に語られたることあり、然り文字を見れば「許せ」なるか「赦せ」なるかは容易に解し難し、凡て斯る點は一目瞭然たらしむること。

(四)譯語の誤まれるもの所々に散見すること、譬へば英語のコマンドメントを誡と譯せり、されどいましめとは禁止の意味にて命令の意味にあらざり、さればこそ或人は余に「律法の中第一の大なる禁制は何なりや」(馬太廿二〇廿六)との教法師の質問に對し、主は何故に之を避け却て廿七節にある如く「心を盡し精神を盡し」云々せよと命令し給ひしかと問ひしことあり。

(五)また譯語の意味の弱きもの少からざること、譬へば「子を信する者は窮なき生命を得」(約翰三〇廿六)の如きは「子を信する者は窮なき生命を受取る」の意味となり、また主が受難の少し前に弟子等に告げ給へる「懼るゝ勿れ我すでに世に勝てり」(約翰十六〇卅三)の懼るゝ勿れば、原文にては歡び勇めの意味なり。

(六)聖書中の書名にも改訂を要すべきものあり。嘗て日露戦役の當時一頁傷兵は、東京の某戦時病院に入隊中、一冊の新約全書を贈られ熱心に之を熟讀せしが、或日來訪の宣教師に向つて「余は使徒行とは如何なる人物なるかを知らんと欲し新約全書を通讀したり、馬太傳は馬太の傳記、其他馬可路加約翰の諸傳は各其人の傳記なることは余善く之を解したり、されど使徒行傳の主人公使徒行に至



(七)同一希臘語を譯するに其譯語と漢字の使用法との風々別々なるは痛心すべき一大欠點なること、絶對的統一は勿論不可能なれども出來得る限り同一の希臘語は同一の日本語に譯し同一の漢字を使用すべき也。先年余は和譯新約全書中の平和なる語を調へたるに、殆んど十五通り程の別ありしと記憶す。譬へば平和、平安、安心、安、和平、安然、平康、等の如く種々の熟字を使用す、斯の如く譯語の統一を欠くは悲しむべきことにして、完全なるコンコルダンスの實際に編纂し難き所以也。

(八)漢字の用法は凡て今日の普通文章に於るか如くし、且つ其傍訓と相合ふべきものとし加ふるに語根のみを傍訓となし正當に送り假名を附くること、若し此等の變更を加へなば無傍訓の聖書を出版し得べく、學生及び多數の讀者は斯る聖書の出版を望むや切也、されど現今の翻譯の儘無傍訓にて出版せんか、恐らくは何人にも難解の書たるを免れざるべし、現に往年或る信徒が無傍訓にて出版したれども更に需要者の無かりしは此理に外ならず。

以上略述したる處を以て見るも全然綿密なる改訂を要するや明なり、今より殆んど十五年前余は既に約翰福音書を改訂せんと欲し、横濱の某牧師と數ヶ月間毎夕二時間を費したることありしが、病氣其他の事故の爲め不幸にして完成を告ぐるに至らざりき、されど當時の經驗によりて吾人は實際毎節若くは或る場合に於ては殆んど毎語改訂を要することを十分に曉り得たり。

如上の欠點に就て諸君の注意を喚び起し十全なる改訂の必要を促すと俱に、余は其翻譯に従事せし内外國人が當時遭遇せられし幾多の困難を寸時も忘るゝ者にあらず、又其當時神が彼等をして斯業を成就せしめ給ひし大事を輕視する者にあらず、實に彼等の克己的勞力に對して余は滿腔の尊敬を拂ふ者なり、想ふに彼等は自己の爲したる翻譯が此島帝國の廣袤を通じて幾千幾萬の飢渴せる靈魂に多大の祝福を與へたるを見て、必ずや塵々言ふべからざる喜悅の情に溢れたるならん、されど若し余が今舉示したる如き點に就て今日に於て更に改訂を加へなば大に改良の實を擧げ猶一層解し易きものとなるべし、而して余は日本國民の爲に出來得る限り正確にして理解し易き翻譯を完うせんが爲め全力を盡すは吾人の果すべき義務なりと信ず、故に今此演壇に立ちて一日も早く斯る改訂に着手せられんことを乞ふもの也。

基督教文學

基督教世界主筆 加藤直士

過去五十年間に於ける基督教の傳播及其思想の普及は宣教師諸君、牧師、傳道師の直接傳道に依るよりは、寧ろ外國文學の間接の感化に依る方が多いかと思はれるのであります、少くとも此間に於て此二つのものが協力して居つたやうに思はれる、中學程度以上の諸學校に於て英文學なり、獨逸文學なりを研究するに當て知らず識らずの間に學生青年が基督教の精神に感化せらるゝと云ふことは決して少くない、ロンアフェロー、テニソン、シルレル、ゲーテはだけ算へただけでもモウ基督教の精神が染込んで居るやうに思はれます、又英文學、獨逸文學を解せない人はカーライル、トルストイ、エマーソン、イブセン其他の偉人傳此等のものに依りましてバイブル以外、既設以外及演説以外に非常な感化を與へたと云ふことは言ふまでもないこととあります、のみならず一時は日本の文壇の指導者とも云はれる所のもが、殆どクリスチャンであつたと云ふ時代があるのであります、イロ／＼是に付いては御話がありましてから單に私は名前を呼ぶだけに止めますが、又雜誌に於きましては六合雜誌、國民の友、女學雜誌、眞理と云ふやうなものが大に歓迎されて洛陽の紙價を高めたのであります、それから又網島梁川、内村健三、今日の姉崎、浮田、新渡戸博士の如き、斯う云ふ人々の文學が國民に感化を與へたと云ふことは争ふべからざる事實であります、けれども此黄金時代はどうも水く横かなかつたやうであります、斯う云ふ有機が急轉直下して此文壇に占めて居つた所のクリスチャンの勢力が何時しか墜ちてしまつて、非常な落葉な有様を今日は呈して居るのではないか、今日の文壇に立つて居る人々がドチチか云へば、先程教育問題に於て論ぜられました所のアンチクリスチャン、基督教の精神に少しく離れて居る所の人々が今日の文壇を支配して居ると云ふ傾向があるのであります、是は抑々どう云ふ譯であるか、基督教の衰頹に基くのであるかと云へば左様ではない、矢張り嗚呼として進歩して居ります、然らばどう云ふ譯であるかと云へば、文壇の方が非常に進んだに拘はらずクリスチャンの方が其割合に進み得なかつた、退歩しない矢張り進んで居



るけれども其處に及ばなかつたのである。数年前に新たに自然主義の文學が大體文學の影響として日本に導入つて來ました。自然主義と云ふと不道德と云ふことと同じ言葉の様に思はれる點がありますけれども、併ながら少くとも此文學的運動の指導者となつて居る所の人、どれ程人生及自然に對して眞面目の態度があるかと云ふことは驚くべきものがあります。彼等は自らを欺かない、眞骨に赤裸々に自分の思ふ事を寫し出したと云ふことは確かに明治以來の一大事實であります。併ながら此自然が肉慾を描寫する所の文學となつて、不道德と云ふことと揮むことのないやうになつたのは甚だ惜むべきこととありますが、併し此暗黒の時代は永く續かない、今日如何に人心が此淺薄なる自然主義に傾らなくなつて來たか、さうして作者自身も是てはいかぬ別のものを作らなければならぬ、モット深刻なるモット意味のあるものを書かなければならぬと斯う考へて居る、自分の人生觀が如何に空虚であつたかと云ふことに氣が附いて肉慾——自然の低き背後にスピリットの深きものが潜んで居ると云ふことが分つた、世人は吾等に眞の人生を興へよ、言ひ換へて見れば宗教を興へよと叫んで居るのであります。今日程文學と宗教と二つのものが相接觸すべき好機會はないのである、此の二つのものを調和しなければならぬと云ふことは、少くとも宗教界及文學界に於ける所の喉の開いた人々に取つてインスピレーションであります、肉躍り血湧くの感が宗教界になくして寧ろ文學界に多くあつたのであります。宗教上の救ひを世人が要求して歡迎の手を伸ばして居るのに、基督教は餘り實際に超越して時代後れになつて、人心の要求は唯永遠の事に限られて居れば宜いと云ふので夢幻の世界に彷徨ひつゝある、是は時代の要求と伴はないもので之を以て日本を教化して行くと云ふことは、恰も權無くして流に遡るが如く、帆無くして帆前船を行るが如きもので甚だむづかしいものであります。

斯く考へて見ますれば此プロテスタント新教が、五十年の間にモット進み得べくして進み得なかつた原因は、此文學思想と結びついて行かなければならぬ所の藝術思想に乏しいからである、若し今日の此好機會を逸して長へに此二つのものが離れ離れに行くなれば、覆れむべし自然主義の文學、恐るべき厭世思想が多數の國民の腦髓に進入つて日本の精神界を支配するに違いない、基督教の一大使命は基督教的生命と光とを我國の文壇に注ぐと云ふことにあると思ひます、若し今後五十年間の基督教の思想が文藝と結び付くことが多かつたならば、それだけ日本が基督教化されるのであります、基督教が文學的思想に鈍く是と懸け隔れて居るやうてありましたならば、日本の教化が成ば果さないかと思ふのであります、そこで私共諸君と共に一日も早く此福音の種子が文學の翼に乗つて、廣く深く此國の四方に蒔かれ、生長し、實り、大に蒞入る時機の來ることを祈るのであります。(拍手)

所 感

青山學院教授 別所梅之助

昨日も此處で高貴な御方々の祝辭が讀まれてございまするが、キリスト教界がそれ程國民性を尊重せられるならば、モウ少し國民の思想を首顧はして居る、其生命を入れて居る言葉を讀むべきものではないでせうか、日本キリスト教の文學世界は優勝劣敗の世界では無くて適者生存の世界である、或原稿が或様に活版所へ入り或出版所から出て行はれて居る、出づ可きものが出るのでなく、何うかしたのが出るのである、例へば、叱られたら謝りますが、この執行順序にしても、感謝會の處に「ヘボン博士とウヰリヤムス監督の書面朗讀」とある、私の如き日本人には斯かる文章は理解しかれる、「ヘボン博士とウヰリヤムス監督との書面朗讀」では無からうか、斯かる事は昨日か讀まれた文部省も禁じて居ることである、それが公々然と行はれてゐる。

又ウヰリヤムスといふ字にウと云ふ字を書いて又ウの字を用ゐて居る、之を羅馬字に譯すとUといふ字を書いてそれからWといふ字を書いてそれからIといふ字を書いてアトはUだかIだか分らぬが、こんな綴りの名があるてあらうか、Uといふ字を書いたならばIと書けば宜いに斯ういふ事をする、此の如き文學が日本國民の識見ある部分の尊敬を擯することが出来るかどうか甚だ疑はしい、併ながら聖書は流石に松山高吉先生以下の御靈力に依りましてアレ程見事に出來て居ります、陳列場に陳れてあります、前の時代の物と見ますれば、よくあの如き處から斯かる物が出來たと感慨に堪へない心地がいたします、併ながら今日でも折々苗との靈木から靈芽が出て來るかと思はれるやうな事がある、聖書を此頃印刷なさる、其の印刷を見ますと前の版に間違へて無かつた言葉が往々にして間違へられて居る、モウ一つ言へばこの執行順序などに宣教師學校といふやうな事がある、どうして用ゐるのか知らぬが宣教師學校といふも



のば何處に在るか私にさるもの、存在を認めないのであります(拍手) 此様に國語を無視して居つては逆も行くものでは無い、眞面目な官語といふものを重んじ官語學の示す處に依り人民の約束に従つて日本の現代の言葉を現代の文字で現はす様にすればそれが國民に属れるであらう、更に精神の方から申しますと日本の今日の基督教の文學といふものは餘り平板に失して居る、神學上の事を申す譯てばございませぬが、文學として人を動かさんとする時には恐らく其時の作者の心地は矢張り基督が神の子だといふ様な姿になつて映つて來なければならぬのであらう、基督の神性を私は論ずる積りぢや無いけれど共己が崇拜する者、歸依する者に對して(歸依せずと云へばそれ迄ですけれど)基督の意識は我等の最尊重するものであると言ふ以上は之に對する作者の態度、著者の態度が如何にもシニヤリと現はれて來なければならぬ、然るに歴史的に物を書く時はそれで宜しいとしても信仰の事を書く時に基督に對する考が淺薄として居つては精神が現はれずして詰らない形のみが現はれて來るであらうと思はれる基督教世界の如き、新人の如き有力な雜誌は野戰を試みて居られる福音新報は堅き磐石に籠籠つて居られる様であります、さうして無くては知りませぬ、さう云ふ様に感ぜられるが、モツとシヤカリした處から出來得るならばやつて見たい、日本には何うして此様に基督教の新聞雜誌が澤山あるのか、私には一向理由が分らない基督教の社會には週刊雜誌が一つあつたならば澤山である、外には一つ月刊雜誌若くは四季評論の如きものを起したい、それで世界と戦へば宜い、それで力を集中する事をせずして種々の方面に手を出して居るがそれでは取りとまりがつかぬ、我々として一生懸命にやれば何か出來ないことは無い、心定しく奮發して著者達が、充分に事にあつて然るべきであらうと存じます。(拍手)

基督教文學の必要及其供給の方法

フランク、ミュラー

初代の教會は全く著述など云ふ事のない教會で有つた。インスピレーションに依つて書かれた新約聖書は別として、少くともヘンテコス

テより六十年間は此初期の教會に於て一の文學を出さなかつた。勿論事情は是とは異つて居るけれども、最初の教會が日本に出來てから今年僅かに卅七歳になる此の青年の教會を考ふる時に予は敢て其文學の少なかつた事を怪まぬ。寧ろ予は多少刻下の必要に應じたる文學の若干存在して居る事を感謝するものである。

然し乍ら尙爲されはならぬ事は澤山ある。そして吾らが來るべき五十年間の事を考ふる時は、殊に此感を深くするものである。此五十年間は假に教會の年齢を數ふるに人間の年齢の倍を以てする時は云はば教會の花盛りの時代日本人の所謂青年時に通み入る時期であるからである。

此問題は予が友人にして最も世人が信頼して居る日本人の首を借りて云へば一番よい事と思ふ。曰く「日本人は鋭く批評的である。現今は日本人は基督教の道徳主義をば之を受入るゝ方に傾きつゝある。けれども宗教としての基督教は尙日本人の心には全く分らない。日本人の大多數は泰西の古典に關する智識が皆無であると同じく其基督教文學についても全く無智識である。然のみならず一般の人は基督教文學に表はるゝ地名人名をすら聞く事を嫌つて居る。是は私が考ふるには主に基督教に對する傳説的反感から起るのである。且聖書の和譯の口調が如何にも變なつて一般の人心を基督教文學から遠ざけて居るのであらう。此等の理由があるからして現今に於ては人々の間に基督教文學を廣むる事は困難な事であると思ふ」と。

問題は勿論困難である。然し乍ら其解決は不可能では無い。何故なれば日本は昔より文學が廣き感化を興へた國で。而して現今も宗教的倫理的性質を有する文學に對して不思議な位需要の多い國であるからである。

生命を興ふる文學を出さんが爲には其著者が先づ第一に人生の根本の要求を充分に知り盡し其上此の要求が満さるゝ方法についての深き精神経験を有する事が必要である。次に是に對して必要な智的能力と心的訓練とを要し之に伴ふて此等の精神的の思想又は感情を官語文學に表はす事の出來る卓越したる才能を有する事が必要である。最後に或程度迄他の緊急なる義務から離るゝ事が出來る事を必要とする。若しペタロにして其獄に繋かれたる間に彼に與へられたる強制的の閑暇がなかつたならば吾々は彼の書翰の凡てを得る事が出來たて有らう。

日本に於ける基督教徒中に此等の必要なる性質を有する人は少くない。然し乍ら此等の人々の中幾何か文學を作成するに適當なる情況



に有るて有らうか。或人は他の種類の事業や職務の爲に時間の凡を費まなければならぬ人もある此の場合には恐らく何も出来ないであらう。或人は其人々の現状より云へば寧ろ止むを得ざる處の生活の爲の仕事の幾分を棄つるに充分なる報酬さへ得らるゝならば著作する事も出来るであらう。此種の人々中少部分は定期に刊行する文學雜誌等の發行の如き規則正しき仕事に従事する事が出来るであらう。然し乍ら此等の人の大部分は若し其著作が自分等に取りて其以上の責任なく只單に傳道の事業に役に立つが爲としてのみ出版されるならば著述をしようと思ふて有る。此部類の人々の中には、時代の要求を知つて居る人が命令的に「是を書いて下さい」とか「是を譯して下さい」とか云つてくれるのを待つて居る人は少くない。此の命令にして無かつたならば全國を通じて多くのミルトンが無言無名譽のミルトンとして存在する事であらう。

若し吾々が前に論じたる如き文學の作成に適合せる情況を作り、而して潜勢的能力を自由に充分に用ゐんが爲に協力するとすれば其事業の性質は如何様なるものであるであらうか、或は相一致せざる性質の文學が發生して協力者の一部の者が其反對者の教訓と互に一致しない様な事が有る事を恐るゝ人もある。然し乍ら是を避くる事は確に容易な事であらう。何故なれば共同委員と共に働き而して根本的教訓に關する焦眉の必要を眼前に控へて居り乍ら異りたる思想を有する他の人の説を排しても尙自己流の特別なる見解や自派の思想を押し通さんとする如き人は恐らくない事だらうと思ふからである。

吾々は基督教を目するに好意を以てしない讀書社會、少くとも基督教の教訓が實際如何なるものであるかと云ふ智識をも殆んど有せざる讀書社會の中に立つて居るもので有る。且基督教の精神を有する文學の讀者たり得べき此の多少の偏見を有する一團の外に大なる群見なき青年の多数が充分彼等の心を引くに足る様なものならば何ても讀んで見んとして渴望して居る。

是等の要求を眼前に控へて居る以上は基督教徒の團體の中に存する意見の相異の如きは如何して此の要求に應ずべきかを決定する事に於て此の相異を取除く事が出来るので有る。

人間の自然的本能に訴へて自ら價値ありと思はざるを得ざる處の基督教の主義と其完成せんとする目的とによりて支配せられたる人生の有様を描き出せる小説や傳記は偏見ある者も偏見なき者にも之を讀ましむる事が出来る。

宗教的見解に於て根本的に一致せざる人々が道徳的方面に於て其結果を生ぜしめんが爲に結合する事は實に驚くべき立派な事であらう。

して同様に人間の内心が其要素に於て同一である事が大なる傳記又は小説の傑作に表はるゝ事は實に愕くべき事である。

前に掲げた日本の友人が尙云つたには「予が思ふには日本人をして基督教の教義に熟識せしむる最良の方法は日本人の自作なり又は翻譯なり何れにしても物語の様なものが一番良からう」との事であつた。

内外出版協會と云ふ普通の出版社が傳記の必要を感じて二三の傳記を發行し無意識的に基督教の教義を混入して讀者の心より其偏見を取り除かんとして又同協會は主眼に於て基教的なる小説を二三發行したと云ふ事である。

又哲學的性質を有する著述の叢書編輯して居る中島教授も一の教訓を興へた。其叢書の序言に於て氏が次の様に云つて居る。「近頃倫理學に關する澤山の翻譯が現はれた事は慶すべき事であるが然し吾々は單に翻譯を以て満足する事が出来ない。吾々は尙進んで泰西の學者の著述を採用して之を同化せしめなければならぬ。而して是は現今に於ける倫理社會の最大の必要である。然し乍ら泰西の大著を讀みて之を理解するの能力と時間とを有する人が多くない事は非常に残念な事である。だからして吾々は近世の著者の倫理學上の見解を簡明にして平易なる文章を以て記載し之に適當なる説明を附して世に出さん事を望むのである。

予は既に「ジャハン、エバリスト」に於て此等の語に對するの注意を要求したけれども予は今更に之を聲言せんと欲するので有る、何となれば若し此の「倫理」と云ふ語を「宗教」と云ふ語に換ふるならば中島教授が倫理學界の必要に關して云つた事は尙一層強く宗教界に適應するからである。

終りに私は改めて一九〇〇年の宣教師大會に對して基督教學者なるアレキサンダー博士、博士の今世に居られぬのは博士を思ふ毎に悲しく思ふ事である。一によりて呈出せられた同様の請願に付て諸君の記憶を新にせん事を望みます。

普通の出版社及哲學の教師によりて吾々に與へられたる例を思ひつゝ私共は次の疑問を呈出したのである。  
此世の子輩は此世に於ては光の子輩よりも尤も巧なるべきであらうか。







終りに私は唯々一言したいことは此の如く美はしい精神を以て起つた處の教會が何うして此の如きつまらない宗派になり教派になつたかといふ點であります私は思うに愈々茲に教會が樹立致します場合に何う云ふ弊害が起つて来るかならば、是れを一の信仰箇條で統一し教會政治で統一しやうとすることであり、是は非常なる誤りであり、原始基督教時代の教會は決してさう云ふものば無い、基督を中心としたる多くの弟子たちの教會は決してそんなものではない、彼等の信仰はどうであつたかといふと一定して居ない、基督の弟子達が有つて居た神の國の觀念は基督の持つてお出でなされた神の國の觀念では無い、又弟子たちの教の觀念も決して基督の持つてお出でなされた教の觀念では無い、此の如く考へて来ると基督と弟子達の信仰は共に一の信仰であつたと云ふことは出来ない、又更に進んで考へるにパウロの信仰はペテロの信仰ではなくペテロの信仰はキヨブの信仰では無い、此の如く考へると信仰といふものは基督の時代に於てすら既に區々まち／＼であつて基督は決して彼等を一つの信仰に統一しやうの一つの教會政治の下に治めやうといふ事をなさなかつたのであります、却て彼等の信仰は何んなに幼稚であり又何んなにバラ／＼であつても彼等は皆基督の弟子であることをゆるされのたてであります、キリストは彼等に向つて汝等此の信仰を有し此政治に入らずんば我が弟子にあらずとは云ひ玉はないて却て爾等相愛せよ左れば我弟子なり、と云ひ玉ふたのであります、クリスチアン fellowship 是が我々をキリストイエスに結び付ける唯一の link であり、我々のクリスチアンになる所以は決して信仰箇條にあるにあらず教會政治にあるにあらず神の子の愛を以て互に相愛すると云ふ點にあります。

### 基督教文學に付て

東京數寄屋橋教會教師 田村直臣

私は頗る御覽なさると年が若いやうですが實は年を取つて居ります(笑)今私の話す所の文學は多分諸君の生れない前の話であらうと

想ひますので、古い時の苦心談を話したならば今の青年諸君は大に悟る所があるだらうと思ふ(拍手)今の若い御方が深山月給を買つて飯を食つて居るが、昔々基督教の爲に本を書いた時分には一錢も買ひはしない、却て此方からお禮をして書いた位です(笑)私共が文學をやつた時は非常な苦心であつた、其苦心談を御話する、アナタ方が餘り樂をするといけません、昔の文學の古いのは何んてすか知つておゐてなさるか、若も知つて居る人があるならば手を舉げて御覽なさい(大笑)日本人が四五人寄つて始めて文學世界に飛出したのが此處におゐてなさる小崎さん、そこらにおゐてなさる植村さん、それから井深君、昔今は禿頭及白髪になつて居ります(大笑)拍手)元はサツてない、井深君でもチャント鬚髯を立て、おゐてなさるが三十年三十五年経つとモウ白髪になる、けれども頗る極く若い(笑)今言ひかけたのは六合雜誌です、六合雜誌が今ユニテリアンの機關雜誌になつて居りますが、アレンを此五十年の祝會を記念として取返したらどうかと思ふ、私は決して大言壯語は言はない、私共に諸君は頭を下げてお禮を言ふに違ひない、金が無いタダです、私が宣教師の所へ頭を下げて金を募りに行つた、私は一體金を募るのに上手だ(大笑)六合雜誌の爲に金を募る積古をした、其爲に上手になつて(拍手)けれども其當時誰も出して呉れない、一番愉快であつたのが五圓出して賣つた時です、今は金持だが其時分の五圓は百萬圓位の金であつた(笑)それを出して呉れたのか神田乃武君であつた、今は男爵だけれども其時には小僧であつた、矢張りハイカリであつた(大笑)それが一番大金です、それから方々一圓、五十錢と皆集めて来て六合雜誌の第一號を發行した、一番初の本は俗にいふ四六版それで第一號を出した、私は其時には文學を書く所の暇がない目次も書けない、それだから六合雜誌の小使だ、雜誌が出来たから賣りに歩く、擔いで月毎に配達する、私が新聞屋の一番始めて(拍手喝采)基督教の文學雜誌の配達の元祖は僕だ(大笑)それから六合雜誌を書くことに付いても小崎さんは随分年を取つて居つてナカ／＼らしい、基督教の漢學者は小崎さんだ、先刻から昔はさうだ今はさうでないといふけれども昔から今に至るまでさうだ、何か先生に物を聞いて御覽なさいナカ／＼威張るです(大笑)宗教と云ふ字は僕が作つたと威張つて居る(拍手)皆さん小崎さんに禮を云つてお上げなさい、六合雜誌を書く時分からさう云ふ文字を使つた、自分の物のやうに言ふけれども先輩が骨を折つたのです、先輩の有難味は其處にある(拍手)今の人達は人の苦心を能く知らないで何んとかかんとか言ふけれども初めはさうだ、私も小崎さんのやうに書きたいと思つて漢學の先生の所へ文章を直して貰ひに行つた、覗いて見たら朱ばかりになつて居つた(大笑)私が耻を曝すばかりでない平岩先生なども文章は駄目だ、六合雜誌へ載る



やうな文章でない、先生が矢張り直して貰つたと云ふ話だ。(笑) 其時分植村君が文章を善く書いたさうだけれども、結婚して後ち人の評判に依れば植村君の細君の方が上手だと云ふ評判だ、文章は細君が直して呉れたと云ふ評判であつた。(大笑) 其時に私は漢學の出来る細君を持ちたいと思つた。(大笑) さう云ふ感じを持った、六合雜誌は中々の苦心の後に出来たのです。それから困つたことは出版の時が来てても原稿をナカ／＼書かぬ、それには實に困つた、別けていけないのは植村君だ、其時の植村君は實に剛情な意地の悪いものであつた。(笑) 今三十分も経つたら書いてやううと云ふやうな譯で其時に非常に困つた、僕は泣いた。(笑) イヤ船を持つて来いのナンノツて、夜の十二時に原稿が無いと云ふのに船を食はなければ書かぬと云ふ。(大笑) 實に剛情で任性が無い、雜誌はどうしても出さなければならぬのだから植村君願ふと言ふと、船を買へ／＼と言ふ、それから考へて御覽なさい夜の十二時頃に十五圓の錢を持つて京橋へ出掛けて行くとモウ無いといふ、それから日本橋の先へ行つてよう／＼船を買つて来ると云ふ有様、植村君船が出来ました、よしと言つて書く、それから原稿を拵へて出版する、所がまだいけない、ナカ／＼喧嘩が出来ると、小崎さんおとなしい、小崎さんのやうな人が非難を起して喧嘩をやるのです。(笑) 其時の喧嘩は口の先までない本統にやる、植村さんと小崎さんと喧嘩をやつた顔などを今思ふと實に面白いものです。(大笑拍手) そんな工合にして喧嘩をしながら一號二號を出したので、喧嘩が始まつた時などは私が其時小石川に居られた平岩君の所へ行つて、平岩さんを伴つて来て仲競談判をした、仲競談判も早く行つて又和睦して書と云ふ有様であつた、さう云ふ工合にして六合雜誌が出来た、さうして段々基督教文學をば擧げるやうにしたのです。(拍手) 配達もするし、文章も書くし、喧嘩もするし、船も食ふしイロ／＼なことをやつて苦心懣懣の結果、基督教文學が発達するやうになつたのです。(拍手) 今の若い御方は大言を吐くが斯う云ふ五十年祭に吾々のやうな苦んだ者には少々御馳走にしても宜い。(大笑) さうして昔の事を思つて下されば宜い、もうナン／＼が鳴つた、それでモウ止めますが餘り餘白からチヂを忘れてしまつた。(大笑) もう一つて止めます、是は自分の事に差障るから餘り言ひたくはないが、一體私共は自分で文章を書くことが出来ない、けれども基督教の言文一致を書始めたのは諸君誰だと思ふ、それは吾輩だ。(大笑拍手) 是だけは私共が吐くことが出来る、其時に人が馬鹿にした者だ、私は漢學の素養があつたり文學の素養があつたりして文章を書けるのに書かぬのではない、全く書けないから書かないのです、今日は一般に新聞記者などは言文一致で書くが、其頃私と一緒に書いたのは山田美妙齋だ、あの人は漢學が出来るからナカ／＼巧い、非常

な評判を博した、其處が同じ言文一致でも私とは違ふ。(大笑) けれども基督教文學を誰にても分るやうに言文一致に書いたと云ふものは私の力であると思ふ、多くの人がそれを認めない、唯今日は文學と云ふエライ哲學者のやうな天狗様が出て来るが、基督教の文學中て子供の文學は誰が始めた、矢張りどうも特色がある、それですから私が思ふには私共は老人で明日にも棺桶へ遣入るかも知れませぬが小崎さんなどと同時に――(大笑) それでどうか若い御方々は昔の者が苦心懣懣して基督教の擴張に従事したと云ふことを十分御賢察下されたい、此處にはモライ方が澤山御出てになる、若し私の言ふことが或は「マニマニ」が合はぬかも知れない、別所さんに怒られるかも知れないが、(大笑) 僕などは假名遣ひなどは厭する方が宜いと思ふ、何んでも言ふ通り書くが宜いと云ふ主義です、それから別所さんは大變おかしく思ふかも知れませぬ、七分と云ふ約束であつたが十五分に飛んだ、此上諸君が一層協力一致して立派な本が出来ると云ふに御盡力を願ひます。(拍手)



### 第三講演會

(明治四十二年十月六日午後七時)

#### 日本の倫理宗教思想及國民生活に及ぼせる基督教の感化

日本組合本郷教會牧師 海老名彈正

過去五十年間筆を以て口を以て基督教は傳へられました、けれども基督教の内容の凡てはまだ傳へられて居らない、或は其最も秀てたる所のものが未だ傳へられて居らない、併ながら既に傳へられたる基督教が日本の倫理及宗教思想に感化を及ぼしたる所のものは決して少くないと思ひます、五十年前にプロテスタント教國の人が日本に来て一見直ちに是は偶像國であると思ふたのは無理ならぬことあります、何故なれば其當時地藏金佛觀音等の像が殆ど到る處に安置せられました、獨り町の角々ばかりでなく道路に於ても四辻や其他の所に於て澤山飾つてあつたものであります、然るに五十年過去つた今日歐米より日本に来る所の人は、決して日本を以て偶像國と言はないだらうと思ふ、非常な變化であります、此變化は五十年間の基督教傳道の結果であるかと云ふとサウ一概に基督教の爲にばかり其効能を論ずる譯にいかない、併ながら斯の如く爲さしめたる所の一大要素であつたと云ふことは疑ふべからざることあります、是は此處に来て居られる外國宣教師方も能く御承知のことであらうと

思ふ、日本の王政維新は一面此偶像を打壊はしてしまふと云ふ一種の宗教的改革でありました、それまでは此佛教に依つて日本に紹介せられ輸入せられたる偶像なるものが日本の宮々に納められて居つたのであります、殆ど凡ての宮——伊勢の大廟を除くの外は偶像を其宮の奥深い所の聖の聖なる所に納めてあつたのであります、所が彼の王政維新は兩部神道なるものを打壊はして全く純然なる神道にしてしまふと云ふことで、一面に於ては佛教を打壊はしたのと同様日本の宮々の偶像を取除いたのであります、其宮々に祀られてあつた所の誰も殆ど知ることの出来なかつた所の偶像は、其時神體改めと云ふことで調べられて其時取除かれましたのであります、イロ／＼な形を以て其處に納められたあつた、私の聞いた中に一番珍らしかつたのは或る佛様が烏帽子直垂で這入つて居たと云ふことであります、是はナカ／＼面白いことで兎に角日本の内に佛教が這入らうとするにはドウも烏帽子直垂を着けなければ這入れなかつたと云ふの證であります、斯の如き譯で内にズット祀られてあつたのを引出して之を壊はしてしまつた、私の記憶に残つて居るのも肥後の熊本藤崎八幡の神體が佛であつた、それを政府の役人が取調べて見出して、さうして斯う云ふ不埒なものを此處に入れて置いたかと云つて怒つて宮の欄干から其偶像を投落したと云ふことがある、それが爲に其役人は遂に命を失ふに至つた、暗殺されたのであります、斯様にして日本の宗教思想は此偶像を一面打壊はしてしまふと云ふことがあつたので、基督教の偶像排斥の運動若くは此説教と傳道が並び行はれたのであります、又此佛



一四四

教の僧侶達は本來斯の如き所の偶像を拜むと云ふのが佛教の趣意ではないのでありますから、それを偶像として拜むべきものでないと云ふことを主張するに至つたのであります。て英米其他の歐羅巴の諸國に於ても何れに於ても一種の像と云ふものを置いてある、或は宗教畫がある、是は澤山あります、クリスチアンが用ゐて居るのである、若夫れ日本が偶像國であるならば何故西洋は偶像國でないのか、若夫れ西洋が偶像國でないならば日本も偶像國でない、アレは吾々が拜むべきものでない、アレは幾分か信仰の助になるものである、即ち君等が繪を見ると同じことだと云つて間もなく日本の偶像は貴重なる美術品となつてしまつたのであります、今日上野の博物館へ行けば能く分る、昔拜まれたものが博物館に列べられてしまつた、それで此日本が偶像を取去られてしまつたのは専ら基督教の傳道の結果と断定するのは餘り我田に水を引いたやうなものである、是は其當時日本の文明の氣運が斯く然らしめたもので、一は神道の方から一は佛教の方から又一は基督教の方から——尤も基督教が大に其動機となつて刺戟を與へたと云ふことは疑ふべからざるものであります。(拍手)

又此基督教は確に日本の此神の觀念に於て貢獻した所のものが多いと思ふのであります、其當時日本に來た所の人が日本は多神教國であらうと判断したであらう、是も無理ならぬとてあります、まだ日本人の中に此多神教の思想を脱して居つた所のものが割合に澤山はなかつたかも知れない、所が基督教が這入つて來る時に神は即ち一なり、宇宙萬有の神は一なりと云ふ唯一と云ふことを主張した、其

時分重に獨一と申したのであります、其思想は誠に日本の神の觀念に付いて非常な影響を與へたものであると云ふことは疑ふべからざるものであります、けれどもモウ一つ茲に考へて置かねばならぬことがある、それは基督教がまだ日本に傳道せられる前、即ち五十年前に於て既に此神は一なりと云ふ所の思想は日本の國學者、神道家の間に鼓吹せられたのであります、彼等は基督信者が論ずる程嚴格に之を論じたのではなかつたけれども、併ながら彼等の中に此神は即ち天地萬有の主宰であると云ふ所の議論を大に主張した所のものであります、さうして彼等が爲に種々の本を書いた、其人々を擧げて見ますならば彼の太宰春臺、平田篤胤の如きは最も著しい所の者であります、平田篤胤がどうして斯の如き思想を得たかと云ふと、平田は確に基督教の感化を得た、是は傳道せられて悟つたのでなく彼は外國の書を讀んで大に自らを啓く所のものがあつたのであります、而して又儒教の方に於ても段々と儒教の研究が積んで來て、さうして此天を唯理なりとして居なかつた、天は活物なりと云ふ論を立てたる者が決して少くない、而して天道の儼然たるを論じて居る、クリスチアンの所謂プロビデンスを主張したのであります、而して彼等は天に向つて崇拜して居るのである、天に信賴して居つたのであります、さう云ふ人が決して少くないのであります、其儒教の感化は儒教に熱心したる人には非常なものであります、我は只天を拜すればそれで宜い、罪を天に獲れば禱る所なしと云ふ確信を得て居つたのでありますから、彼等は矢張一神教の信仰に來て居つたのであります、さ



ラ云ふ志想の傾向が既に日本に始つて居る時に基督教が獨一の神を傳道したのであつて、其思想を傳へたのでありますから割合に能く受入れられたのであります、一面から云へば基督教が三百年間邪宗門として耶蘇の名は外道佛として日本人の心を戰慄せしめて居つたにも拘はらず、基督教が日本に傳つたと云ふものは既に日本人の中に基督教神觀の萌が出来て居つたからであります、それで基督教は其目的を達することが出来るやうになつて居つたのであります、それでも基督教傳道の妨礙となつて居るものがあります、此多神教と云ふ方は大分取去られるやうになつたのですけれども、此多神教は一轉して茲に汎神教と云ふものになつて現はれて居ります、佛教も神道も汎神教の立場に立つて居るのであつて、基督教は此汎神教に反對せねばなりません、殊に初めに傳へられたる神觀は英語の所謂デイズムであつて汎神教の方と正反對であります、所が基督教は勿論それだけではない、基督教超絶的神觀の感化汎神教に及ぼしたるもの、小々ならざるは疑ふべからざることであるが、其偏在的神觀は今日まだ日本の宗教思想に影響を及ぼす程に傳へられて居りませぬ、専ら神が天地宇宙を超絶して居ると云ふ所の眞理を汎神教に對して傳へられたのであります、所が汎神教も基督教に刺戟されて、一種の思想を生じつゝある、恐らくは佛教も汎神教としては長く維持せられぬかも知れませぬ、一體基督教は神の人格を主張する、人格と云ふ言葉には語弊もありますけれども、人間の言葉で言ふにはサウ言ふより外に仕方がない、神の人格を主張するに對し、佛教界に於ても汎神教の中に人格を認め

なければならぬやうな勢が現はれつゝあるのであります、若し此人格を汎神教の中に認めると云ふことになれば吾々の所謂パンテイイズムが變じてクリスチアンテイイズムとならなければならぬのであります、今其方に進みつゝあると云ふことは疑ふべからざる事實であります、斯様にして基督教の神觀は初めに於て超絶の方面が傳へられて今や其内在の方面が明かにせられて居るので、之を二つ合して茲に良く調和が取れて行く時には基督教の日本の宗教思想に及ぼす影響は更に大なるものであらうと思ふ。

又此佛教は昔から厭世教の如く言傳へられて居ります、佛教の本體が厭世教であるか樂天教であるかは今茲に論じませぬ、兎に角日本人の頭に一種の厭世教として傳へられて居つた、所が基督教が樂天主義を主張することに依つて、佛教は我等は厭世教にあらず樂天教なりと云つて是に反抗するに至つたのであります、是は基督教が日本の佛教の思想を大に一變するの刺戟を與へたと云ふことは疑ふべからざることであります、此點に於ては基督教の佛教に與へたる感化と云ふものは少なからざるものと私は思ふのであります。

其事に付いてまだイロ／＼言ひたいこともありますがけれども、之れより倫理の方に立入つて見やう、基督教の日本の倫理思想に與へたるものは決して少くないと思ふ、是も基督教からばかり來て居るのでない、實際に然らしめたものがあります、それは何んであるかと云へば基督教の世界主義、世



一四八

界人類同胞主義であります、此人類同胞主義と云ふものは日本人の中の或者に分つて居らないではない、けれども殆ど三百年の間鎖國をして居つて攘夷主義を採つて居つたから、人類平等主義と云ふものが一般に認められなかつたのであります、人類平等主義と云ふものは日本の國家倫理主義に反對して居ると多くの人が考へた、それ故に初代のクリスチアンは一面に於ては國賊と罵倒せられたのであります、何處までも國賊である、何となれば世界平等主義を唱へるから、是は日本の愛國心を壞すものであると思はれた、兎に角世界主義と云ふ事と所謂其當時の狭い意味の國家主義と云ふ事とは衝突するものであると考へた、是は決して遠い以前のことではない、今より十二年前即ち明治三十年に於て、此東京に日本主義と云ふものが出来、日本主義の雑誌が出て來たのであります、其仲間がどう云ふ人であつたかなければ堂々たる帝國大學の教授、博士が其仲間に入つて居られるのである、其人達が實に大立物であります、さうして帝國大學の卒業生が筆を執つて大に鼓吹したのであつて、既に其發會式の演説を聞いたが、世界主義は實にボンヤリした不思議なものであると云つて堂々たる人が之を駁撃したのであります、如何に此思想が日本の倫理思想に容れられずして居つたかと云ふことは之を以て知ることが出来る、所が御承知の通り此日本主義と云ふものが非常な勢を以て出て來ましたのが併し直ぐに笑ひ崩されてしまつた、基督教の方からも笑ひ崩されたが佛教の方からも笑ひ崩されたのである、世界主義に於て佛教と基督教と手を携へたのであつた、故に此世界主義と云ふものは勿論

一四九

日本が此開國進取主義を採つた以上は容れられなければならぬのであります、基督教はそれを宗教の方面より倫理の方面より我日本人に注込んで、さうして我日本人に世界人類平等主義を貢獻したとが決して少くないと思ふ、所がモウ一つ基督教が憎まれ忌まれたる倫理主義は何んであるかと云へば個人主義——個人主義と云つては穩當でないかも知れませぬけれども併し一面に個人主義である、即ち一個人の値打と云ふものが非常に貴いものであると云ふことを主張した、此一個人の價値と云ふものは父母も之を奪ふことが出来ない、君主も之を奪ふことが出来ない、一個人の價値と云ふものは殆ど其神を除いて天上天下唯我獨尊と云ふ位値のあるものであると云ふことを自覺せしめたものが基督教である、若し其價値を失はば世界中を得ると雖も何の益かあらんと云ふ主張である、實に非常なるものである、故に個人の値打を主張するのは父母を無するものである、更に進んで君主を無するものであると云ふので、是も亦國賊として非常に排斥せられたのであります、曷ぞ知らん何時の間にか此個人主義——個人の値打と云ふものは價の高いものである、是は父母も奪ふことが出来ない君主も奪ふことが出来ない所の貴いものであると云ふことを、今日多くの人々が承知するやうになつて來たのであります、基督教が即ち國賊の名を帯びつゝ之を主張したのであります、今日は即ち其點に於て勝利状態に居ると云ふことは敢て過言ではないと思ふのであります。(拍手)

所が茲に此個人主義と國家と、それから此世界主義と云ふものと果して能く調和して行くかどうかと



云ふことに付いては、クリスチアン以外の人にはまだ十分分り兼ねる所があると見えて近頃吾々驚くのでありますが、近頃此明治四十何年と云ふ四十年を越した今日に於て、堂々たる日本の博士である加藤さんの如き人がやかましく言ふのであります、是は今更私が駁する譯でも何んでもないが、是は矢張昔の弊であります、モウ聞き納めとして置かなければならぬ、五十年の記念祝會には葬り去らなければならぬ（拍手）所が中に於ては此國を愛する家庭を重んずる即ち父母を重んずる世界人類を平等視する同胞視すると云ふことは決して矛盾するものでない、此三つを貫いて個人の倫理も高くなる、家庭の倫理も高くなる、國家の倫理も高尚になると云ふことは疑ふべからざる事實であります。

もう一つ言ひたいことは基督教は確に厳格なる一夫一婦主義を主張したと思ふ、日本は決して一夫多妻の國でない、何時多妻の時代があつたか分らない、兎に角日本に歴史あつて以來日本は一夫一婦主義の國である、併ながら其一夫一婦主義が此クリスチアンの言ふ意味に於て厳格に行はれて居らぬ、吾々基督教信者が一夫一婦主義を非常に厳格に主張したのであります、昔から日本の女子として、人の妻としての日本の女子の貞節の如きに至つては私は世界に於て決して遜色は無い、プロテスタント國に於て決して遜色は無いと信じて居ります、けれども此男子の品行に於ては誠にどうも赧顏の至りてあります（拍手）是に於てクリスチアンが非常に日本の女子の味方をして居るのであります、此

處に婦人方も澤山おらつしやるが、おらつしやる等てあります、實は半分以上此處におゐてにならないければならぬ（笑）基督教婦人の味方をした宗教は日本にありませぬ、聞く所に依れば太閤秀吉が耶穌教も宜いが、唯一ついかぬ、即ち婦人の事を餘りやかましく言ふ、あれだけ取除けば立派な宗教だと言つたと云ふことです（大笑）是は秀吉にして始めて言ふことを得た、外の者は腹の中に思つて居るけれども口に言はない（大笑）そこで家庭倫理の根底と云ふものは一夫一婦で行かなければならぬと云ふことを吾々が厳格に主張するに至つて、又初めの時代に於ては國賊の名を受けました、どうもクリスチアンと云ふものは兎角國賊の名を受け易いものである、吾々が實に愛國者と思つて居つたけれども國賊の名を受けた、それにも拘はらず主張して居りました所が、先づ時運の然らしむる所て日本の此倫理思想の發展は遂に之を是認するに至つた、是は餘り遠いことではなくして明治三十年と私は記憶して居ります、明治三十年の一月から福澤先生が時事新報に於て一夫一婦主義を主張し始めた、此日本の新聞の社説に於て一夫一婦主義を斷然主張し得たるものは此時事新報を以て嚆矢とする、私は此外にあつたことを聞かぬ、是は實に喜ぶべく又貴むべきことであります、さうして其一夫一婦の主張に反對した社説を掲げた新聞はどれ程あつたかと云へば、一もなかつたと思ひます、詰り福澤先生が獨舞臺で勝つたのであります、是は獨舞臺で勝つたのでない先生は政治家であります、政治家は全く獨りて起たない時機を見て居る、もう言つても大丈夫と見た時に筆を執る（拍手）吾々は



實に三十年の間國賊と言はれたのであります。コッチは新聞の購讀が減る譯でもないから構はぬやつて行ける、それからモウ一つ此處に面白い事があるので、福澤先生の言ふまではまだ國賊と言ふものがありました。妙な事には三十四年と記憶します。北米合衆國の方々が甚だ氣持を悪くして居られるか知りませぬが、北米合衆國からモルモン主義の宣教師が這入つて來た、當時新聞といふ新聞は何れの新聞でも非常に冷かし始めた、それで、一夫一婦主義の價値が極つた、モルモン宗が來なければアレだけ極まらなかつたのでせうが、日本に一夫多妻主義の傳道は容さないと云ふことになつた、そこでチャント吾々は勝利の印を捺されたのであります、先づ家庭の倫理主義は一夫一婦に極つたと云ふとは日本の五千萬同胞は兜を脱いで居るのであります、非基督教は此點に於て勝利を得たのであります、しかし油断はなりません、理想に於ては既にモウ定つて居るのだけれども實行上に至つてはナカ／＼前途尙遠いのであります、大に骨を折らなければならぬ、吾々は奮闘を要するのであります、吾々が斯の如く國賊などと一方に言はれるにも拘はらず、それを主張して我同胞兄弟に認められて、今や國賊と言ふ人も無くなつて來た、自畫自讃のやうですけれども日本のクリスチアンが——初めから確に愛國心に於て決して他の人に譲らなかつたことが分ります、國を愛すると云ふ精神が凝つて而して基督教を信するに至つた者も決して少くないのであります（拍手）所謂日本のクリスチアンには愛國心と云ふものが初めから充ち満ちて居つたのです、曾て吳如綸と云ふ人が日本に來ました時分に、

日本に來て居る宣教師は支那に來て居る宣教師と主義とするのが違つて居るのかどうかと云ふ疑を起したことがある、どうも向ふては何時でも基督教が國際問題の本になつて來て困る、日本にはサク云ふことが更に無いやうだと言つたと云ふこととありますが、それはチャント譯がある、日本の初代のクリスチアンは愛國の士である、眞に愛國の士であります。茲に其一二の例を擧げて見ますに、私の友人の押川方義君が來て居られるのであります、同君が新潟縣に於て傳道をして居る時に非常な迫害を受けて、遂に其迫害が押川を打殺せと云ふことになつた、所が先生は幸に其難を免れた、どう云ふ譯で免れたかと云ふと押川君に酷く肯た收税吏が運動して居つた、ソレ押川が來たと云ふので暴民が寄つてかゝつて其收税吏を打殺した、詰り押川君の犠牲になつて其收税吏が死んだのです、押川君が今日残つて居るのは其人の爲であります、其事が或所にどうかして傳へられた、そこで英國の公使館であつたか何處であつたか知りませぬが、何處かの公使館から新潟縣の事情を視察せよと言つて來た、所が押川君などがそれに答へて曰く、日本の事は日本人がやります、アナタ方の御厄介になりませぬと斷然跳付たのであります、實に支那のクリスチアンとは大に違ふのであります、非常な相違であります、當時日本人のクリスチアンがよしや殺されても暗殺されても、是が爲に宣教師に訴へ之を外國の領事館に訴へて保護を頼まふなどと云ふことは毛頭無かつたのであります（拍手）此精神——此精神を以て日本の義士が死んだのであります、日本の



本統の義士愛國者が死んだのであります、吾々の先輩が斯の如くした、吾々は幸にして無事に生きていますが我同胞兄弟がその精神を啓きその心を啓いて我の主義を覺るまでは粉骨碎身、生命を取られてもやると云ふ決心でありましたから其事が達せられたのであります、別に痛切なこともありませんねけれども粟津高明と云ふ吾々の先輩がありました、此人は海軍學校の教授でありましたが、其時分獨立教會を興した、その會堂は麻布の邸内にありましたが小崎君が後に一緒になりました、何んの爲に一人で教會を作つたかと聞いて見ると、賢所參拜の議論があつたさうです、我は日本人だ賢所參拜がどうの斯うのと言はれることはないと言つて獨立したのださうして尙面白いことは我は日本人だから死んだ時に神葬祭をやつて呉れと遺言した、神道をやつたからと云つて耶蘇教に背く譯でない、葬式は何んでも構はない『死にし者に死にし者を葬らせよ』(大笑)て斯の如き大志を持つて初代のクリスチアンが働いたのであります、其時の愛國心と云ふものは看過することが出来ないのであります、て我國の當時の有様を見ると日本の要路に在る所の人々は物の分つた人々であります、吾々共何も音信を通じた譯ではないけれども國を愛する點に於ては一致して居つたのです、上に立つて居る人々が黙許して吾々のやるのを自然に見て居つた、それが爲に吾々は自由に傳道することを得たのであります、斯様にして上に在る者も下に居る者も此愛國至誠に於ては一致して、而して吾々が日本に基督教を傳へることを得たのであります、今日は五千萬の同胞兄弟に吾々の主義が認められて、而して吾々

の主張したる理想を矢張探つてそれをやると云ふ決心になつて來たことは、吾々が何よりも祝賀する所以であります、さうして此點に於て私は外國宣教師の勞に大に謝する所がありますけれども、同時に此外國宣教師が日本に是だけの事をして其目的を大に達することが出來たる所以は、一は日本人の此畑が良かった爲であります(拍手)アナタ方が如何に上手に良い種子を蒔かれても水畑か石地であつたならば出來損なつたかも知れませぬ、是は少し日本人を褒め過ぎるやうであります、昨日來頻に外國宣教師を稱讚した方があつたさうです、又後にもあるかも知れませぬから私は日本人を少しく善く言つて置きます。(拍手)

### 日本の倫理宗教思想及國民生活に及ぼせる基督教の感化

第一高等學校々長農學博士 法學博士 新渡戸 稻造

司會者が私を紹介して下さるに題を出して下さらぬので甚だ御親切が無い様に思ふ。多分此處に書いてあるから略されたのであらう、して見ると此問題は私の話す可き問題であるから私も今夕の演説に付ては實は考へて見た、外國の來賓も澤山あることだからイツモの様な出鱈目の話も出來まい、所が考へて見れば考へて見る程此問題は面倒である此『日本の倫理、宗教思想及國民生活に及ぼせる基督



一五六

教の感化』と云ふ問題は獨り、我々の問題となすべき問題では無いのだ、是は國民の宿題とすべきもので容易ならぬ問題であると思ふ、日本國民が基督教徒であれ佛教徒であれ何の宗教を奉じても日本人として生れた者、及恐らく外國人であつても人道に心を寄せる者、東洋の進歩に心を寄せる者は宿題として考ふべき問題であると思ふ、故に私は昨夕から段々考へて此處で御話しやうといふ點を掲げて見たけれ共、考へれば考へる程、是は面白い趣味の有る問題であつて、一方には外國の宣教師諸君を——甚だ失敬だけれ共——警戒すると同時に日本國民も之を宿題として研究して貰いたいと思ふ、そして外國宣教師に警戒的に申述べるといふのは兎に角小人も君子も馬鹿も懶巧も自分のやつた事は眞價以上に評價したがるものである、是は決して悪い意味から言ふのぢや無い、決して自分を廣告的に用ゐ様とか若くは人の仕事を悪く言つて自分ばかり偉い者にならうとかさう云ふ卑怯な動機から自分の仕事を大きくして見やうと云ふばかりぢや無い、正直に熱心に何か確信する所があると其確信が即ち理想とあつて此理想程世の中に偉いものは無いと思ふから正直一遍の餘り自分の信ずる事、或は自分の爲したことを偉いものとして遂に眞價以上に評價する様になる、それだからして昔も既にラクタンシヤスは三世紀の頃、歐羅巴で迫害が盛んに行はれて居る際に基督教の辨護をして居る其時辯護の爲に書いたものの中に『若し羅馬帝國にして我が基督教を奉ずるならば國家も社會も俱に忽ちに改善して此地上に天國を見ることが出来るであらう』と言つて居る、其後僅か百年も経たぬ中にコンス

一五七

タンチンが基督教を以て國教とした、けれ共羅馬に於てもアレキサンドルに於てもラクタンシヤスが夢みたやうな理想國は出来なかつた、即ちラクタンシヤスが基督教の事業を餘りにエキザデュレートした、理想が高かつた爲め、屹度神の力で行くだらうと思ふた、詰り神を信する餘りに過失に陥つたのである、宣教師が日本の既往五十年經つて斯くくの事をしたと吹聴するのは或は眞價以上に値踏して居るのではないかと思ふけれ共それが爲に宣教師諸君を責めるのでは無い、自身の熱心の餘り理想の高き餘りに事實に少し外づれた事を言はれるのぢや無いかと心配するのであります、此邊は宣教師諸君、又我々信者、俱に警戒して神の道を傳へたいのである何も旗を樹て、太鼓を叩いて廣告するにも及ばぬ自家の務は天に在る。何も我々は向ふの人を悪く云ふ必要は無い、要は實際どれ程の事をしたか、基督教にどれ程力があるかモツと大事なことはどれ程餘力があるか、今後どれ位事をせねばならぬかといふ今後の義務を考へるのは恐らく信徒として爲すべき處の所業であらうと思ひます（拍手）兎角今言つたやうな過ちを仕易いのである、事實に外づれた事を往々新聞やら書物に見る事がある、基督教の宣教師の事業を述べた書物は澤山ある、私は二巻の大きい書物を見たことがあります、『基督教の社會的感化』と云ふ標題で英吉利と亞米利加とで同時に出版された者であります、それを見ると色々小別けがある、衛生上の事に付て宣教師が某の町で斯う云ふ事をした、教育に付ては斯う云ふ事をした、宗教に付ては斯う云ふ事をしたといふ事が一々述べてあります、それを見ると各國の處



一五八

が出て居る、例へば今でも記憶して居ることは清潔法の事を論じた一章があります、其清潔法の中を見ると宣教師が亞非利加に行つて湯に這入る事を教へた、着物を洗濯する事を教へたと云ふ様な事を澤山述べて、其中に日本人は割合に清潔な民族であるけれ共中には汚いものが澤山有ると書いてある、宛も基督教國には汚い者は一人も居らぬかの如く見へる、所がニューヨークやロンドンに行く日本人に劣る汚い者が何萬人居るか分らぬ、甚だしきは又斯んのがある、ツイ此頃であるが日本に癩病者が多い、癩病者の爲に宣教師は大に力を盡さねばならぬ、又盡して居る者もある、然るに日本政府は癩病者に充分に力を盡して居らぬから之を基督教徒がやらねばならぬ、殊に宣教師が奮發してやらねばならぬ、故に金を募りに方々歩いたと云ふ人があります、其時に實に日本と云ふ處は癩病者が多い、此統計に據ると日本國民は十二人に一人は悉く癩病者だと書いてある(笑) 貴族だとか富豪の阿嬢さんなどで殊更に容貌の奇麗な人が大に怪しい(笑) 無論此處に御出席の宣教師諸君は今日實際居らつしやるのだからそんな事は言はない方に違ひないが、中にはさう云ふ事を言つて方々に日本人に癩病の多い事を吹聴して歩く人もある(拍手) 斯う云ふ事があるから日本人で基督教の分らぬ人——と言つては失敬だけれ共——が宣教師を放逐して仕舞へ、有る事無い事、好い加減な事を拵へて日本の耻を曝す者は彼等であると言つて攻撃するけれ共、それはチョツと無理ならぬ様に聞へる、併しさう云ふ宣教師は多くは無い、甚だ僅少であるといふ事は是は信者外の人に我々が力めて言はねば

ならぬ事である、それで兎角自分の事業を吹聴する爲には他の方を一層暗くせねばならぬが爲に日本の社會教育といふものは甚だ程度が低い、日本人のする事爲す事、社會の制度並に政府のする事、などを非難する者が随分有り得ることである、併し又一方願ると斯う云ふ様に思つて居るから熱心が出る、日本人は十二人の中一人は癩病者である、其癩病者の爲に仕事をしやうといふ念が有ればこそ、癩病者で無い人にまで親切を盡すのである、それで此熱心を正しい方に導いて利用して行つたら宜からうと思ふ、私が宣教師に言ひたい、アナタ方は *misdirected charity* とか *mistaken enthusiasm* は止めなさい、アナタは熱心がある、アナタは *charity* を持つて居る、見當違ひな事をしない様に正しい方にも向けなさい、只癩病者を可愛がつて親切にする丈けならば、我々癩病者で無い者は別に迷惑は被らない、一步進んで癩病者の藥を我々まで頂くことになつては迷惑だ(笑) 其よりは明かに日本國民が基督教から如何なるものを要求して居るか何う云ふ事をしたならば基督教の光が日本國民の心に輝くであらうか、何うしたならば日本の悪い處が無くなつて好い處が一層發達し得るであらうかといふ事を公平に一つ判断して貰ひたい、是は我々信徒が宿題として大に研究すべき問題である、故に唯、一人や二人の論ずべきもので無い、宣教師丈けの議論で無い、基督教徒に限つた議論でも無い、全國民に涉つた宿題であると思ふ。

さて之を研究するに付けては何う云ふ様にしたら宜からうと言ふと、机の上では如何であらうと論



一六〇  
 理學など引張つて來て考へても分るもの無し、abstract method には分る譯は無し、具體的の問題である、事實に訴へて即ち歴史的方法を用ゐて今まで何う云ふ事をやつたかといふ事を一つ研究すれば、此方に、一向手が廻つて居らぬ、此方は大分手が廻つて居る、此方は廻り過ぎて居つて却つて弊害を醸して居るといふ様な事も段々分つて來るであらう、其研究の範圍に付て私は長い物を書いて見たが今日は御話する時間が無いやうだ、實は十二の箇條を掲げて來たがマア殆ど題を讀むやうにして御免を被らうと思ふ。

基督教が國家及社會の各方面に如何なる功績を擧げたかといふ事を考へる前に方つて、基督教といふものは何だといふ事をチョツと見て置かないといかぬ、基督教の感化は何う云ふものかと言ふと、彼のギゾーが歐羅巴の文明史を書く時に基督教の感化を論じて教會と基督教といふものとは違ふと云ふ事を論じて居る處がある、即ち Church と christian religion とは別だと言つて居る、ギゾーから今日までは多分五十年餘も經つて居る、今日の處ではモツと區別をせねばなるまいと思ふ、殊に東洋で論ずる時にはモツと區別を明かにして置かねばなるまい、何故と言ふに西洋といふことゝ基督教といふ事と一緒にして居る人が澤山ある、又基督教を廣告する人も疾くに此過ちは知つて居るだらうけれ共ポンヤリやつて都合の好い時には基督教國だなどと言つて基督教國に關係の無い事を言つて居る事がある、今も御話があつたが私は海老名さんの御話に反對するては無いが、一夫一婦の議論の如きは無

論基督教國でも教へて居る、けれ共基督教史に最關係の近い猶太教などは一夫一婦といふ事を餘り喧ましく言つては居らない、却つて基督教に關係の薄い處のチエトニック人種の昔の書物を讀むと一夫多妻の弊を言つて居る、歐羅巴でアリヤン人種の勢力が餘計此處に現はれて居るのぢや無いかと思ふ、マア今日は海老名さんの御話の通りである、基督教に依つて日本に一夫一婦が大に傳へられて來たといふことの御議論は御尤もである、果して基督教が始めた事かといふと實は基督教の前に歐羅巴の人種では一夫一婦を明かに區別して居るといふ様な譯で、是が果して基督教の感化であるか、基督教以外歐羅巴國民の人種的作用であるかと云ふ事は判然せぬ事が澤山あらうと思ふ、けれ共動もすると基督教の事を言ふ人は善い事があれば之を基督教の感化だと言ふ、甚しきは決闘も基督教の感化、X光線も基督教の感化だといふ様な事になつて來る、自殺なども耶蘇教の方では卑怯の奴だといふ事を言つて居る、成程基督教信者も自殺は否定するが、基督教以外にブラトローが常に自殺に反對した、さう云ふ筆法で基督教に附會して居る、さうすれば泥坊が歐羅巴に居るから泥坊も基督教だと言ふか、是はいかぬ、すると基督教といふ者は何を言ふのだから東洋に於てはどうもハッキリと分らぬ Christendom と云ふけれど基督教を土臺として國の政を執つて居る國は何處に在るか見たいものだが全然基督教の主義で立つて居る國は何處かといふ事になつたら幾らも無い、恐らくさう多くあるまいと思ふ、それ Christendom と云ふ名を附けて居る。



西洋と云ふ言葉もゴンヤリした言葉である、此西洋といふ言葉は基督教が日本に來てから何れの邊から果して基督教の感化であるか、何れ以上は基督教で無い歐羅巴の時勢、風土、民俗に關係した感化であるかと云ふ事は區別が六つかしいと思ひます、其事を一つ考へて置いて貰ひたい、基督教の感化とは西洋の感化ぢや無い、基督教の純粹の感化を言ふのである。

第二には基督教といふと能く基督教の所謂教會の制度と混じて居る、英語で言ふと Christian institution と云ふのと Christian religion とは別だ、何故といふと此 institution と云ふのは、近頃は澤山本も出來たらうが僕のは古い本しか無い、スタンレーの書物に據ると猶太教から來て居るのが澤山ある、基督教の關係が全然無いことは無からうが、基督教よりズツと前から來て唯々基督教が同意して之を承けたといふものが澤山ある、それは無論之を Christianity と名づけて不都合は無いかも知れませぬが、桂内閣が西園寺内閣のやつた計畫を實行すれば矢張り桂内閣は其名譽を得るのである、段々探つて行くと其仕事の中には前の内閣から引受けたものが澤山あらうけれ共責任を持つてやつたのは現内閣の當路者である、からして其筆法で考へると猶太教から持つて來ても基督教が之を賛成し之を主張してやつたならば是は即ち基督教の一部と言つて差支ない様なものだけ共、其出處を尋ねると殆ど基督教に關係の遠いものもある、さう云ふものは基督教の眞髓を得たものとは言はれない、所謂 Christian institution は基督教の粹とは少し違つて居るやうに思ふ。

第三には Christian ethics と云ふものがあります、基督教の正當なる道德觀念、此觀念も基督教とは又違つたものだ、基督教の生み出したものも澤山あらう、その代り基督教が脇から養子に貰つたものも澤山ある、純粹の基督教といふものでは無からうと思ふ即ち基督が賛成したものであるけれ共その源は基督教に限らない、他の宗教でも教へて居ることが澤山にある、是も宗教とは矢張り別なものと思ふ。

第四には基督教の神學とか信仰箇條とか教理とかいふものは一口に言ふと Christianity の一 system である、即ち此 system of thought の中には doctrine もある、その代り dogma も這入つて居り又 Theology も這入つて居る、之は基督教的の哲學の一の系統で宗教とは違ふのであります、基督の言はれた言とは大分違ふ、パウロの言つたことには叶つて居るか知らぬが基督御自身の言はれたこととは大分違つたもの、様に見へる、斯う云ふ様に考へて來ると基督教といふ處の範圍は何處に在るか、即ち基督教の感化といふことは何處へ持つて行つて附けたら宜からう、斯う考へると實に其議論が頗る六つかしい議論になつて、我々は何とも口の出し様が無い併しそれだから御免を被ると言つては宜く無い、先づ我等が狭い意味に於て基督みづから、人生觀に付て教へられた事、或は人生觀と言つて此世ばかりでは無い未來の事柄、過去の事柄に付て教へられた事を土臺としてそれに直接關係の有る教だけを基督教と名づけて、假に其標準を以て日本に當嵌めて見ると、どれ程の事をしたか、澤山した



と言ひたい、非常な事をやつたと言ひたいけれ共、さう大きな聲では何うも言はれない様に思ふ、言はれないといふのは基督教の耻ぢや無い、まだくやる餘地がある、而して我々の勇氣を鼓舞するに足る、斯んなに澤山やつたからモウ安心だモウ基督教は今日の世界に勝つたなど、口外は出来ぬ、口惜しい事だが實際日本に信者は何人居るか、信者の頭数は數へる程しか無い、統計で見ると何もかも入れて十五萬と云ふ其中のどれ程が本當の信者であるか、本當の信者といふ範圍もチト六づかしいけれ共恐らくパウロ見たやうな偉人は一人も居りはしまいと思ふ、その代り十五萬人の中にはどうもチト怪氣な人もあらう、洗禮を受けたからといふ丈けの人で赤ン坊も中には居るだらう、又此數の外に澤山私かに道を求めて居る人、及此道を信じて居る人、又道に向つて近づく人々は萬を以て數ふる丈けあると思ひます、斯う云ふ者は外に現はれた數では逆も及ぶもので無い、十七世紀の初に英吉利に居つた天主教徒の數は漸く國民の三十分の一であつた是で大に勢力があつたと書いてある、又コンスタンチンが基督教を國教にして羅馬帝國の人民の五分が基督教になつて居つたといふ事は疑問だと書いてある、日本はまだ五分にもなつて居ない、恐らく十分の一の割合にもなつて居ない、であるから數から言ふと非常に微々たるものである、チヨツと心細く思うであらうけれ共今言つた通り宗教は敢て數では無い、パウロが一人あつたならば十萬の數にも優るであらう、是といふパウロが現はれぬ以上、先づ假に數を以て計つて見れば如何にも未だ微々たる者だ、初代の基督教と比べて何んな狀況で居ら

うか、基督教が始まつて五十年経つた時分は日本の今日位であつたらうかと想像して見ると、教會史に餘り通曉して居らない我輩にしても想像に苦まぬ、其時分よりは餘程宜かつたらうと思はれる、基督が亡くなられてから五十年後即ち基督が亡くなつてから傳道が始まつたものと假定して五十年後は先づチロイからドミシヤンの間の迫害になつて居る基督信徒は非常な苦しい時代に際會して居る、けれ共チロイありドミシヤンが基督教を迫害したといふものは一體數でも多くて目立つて居つた爲だらうと思ふ、チロイが宗教を研究して己の主義と反對するものだから皆首でも斬つて仕舞へといふ考を起したかも知れませぬ、一體チロイが何故基督教を迫害したかといふ理由が分らぬ、歴史家も困つて居るらしいが何か政治上から言つても有つたか知らぬ、併しそれが五十年経つて餘程目立つたものと見へる、迫害されて尙一層目立つた様に思ふ、幸ひに日本には迫害は無い、迫害が有ると弘まるに違ひないが、亦迫害が無いから日本に弘まり易かつたらうと思ひます、ネローとドミシヤンの間の基督教の信徒は逆も今日の日本ほどは無かつたらうと思ふ是は日本に取つて誠に祝すべきことで、極く平和な時に基督教が來た、日本では無論波天連宗を禁じてあつた、明治六年二月になつて初て日本橋の脇に立つて居つた彼の高札を去除したのである、僕等が明治五年東京に初て田舎から來た時に未だ日本橋の左側だと思つたが大きな板がブラ下つて居つた、波天連邪宗は堅く禁ずるといふことがあつた、其禁札が唯々三十六年前除かれたと言つて居るけれ共其實三十六年前に基督教の傳道者が先刻押



川さんの例もあつた通り地方ではチヨイ／＼迫害に遇つたが、政府の迫害ぢや無い、逆もネローやドミシヤンのやうな場合は日本には無い、耶蘇教の弘まるのは當前だ、もつと弘まらなんだのが餘程怪しいと思ふ位だ、其他、基督教が日本に弘まるべき理由、基督教の傳播を助ける條件は許多あつたと思ふ、丁度日本の歴史を見て歐羅巴で基督教が此の如く弘まつたかといふ理由を述べたのを日本に當嵌めて見ると日本にも同じ理由が存して居つた、けれ共今日のやうに盛んとは言ひ乍ら望んだ程弘まらなかつたのはまだ／＼御互、信徒の務が少いのである、然らば何れ程弘まつて居るかといふと是は面白く無いから、先刻申上げた通り項目丈けを擧げて見ると。

第一是は非常に delicate な話で此處で述べるのも恐入るが皇室に對して基督教は何うであつたかと考へる、日本國民として考へると一番先きに頭に浮ぶ事は、皇室の御安泰である、兩陛下を初として如何であらうといふことは日本人の心には一番先きに浮ぶ考である、先刻も海老名先生から日本國民の愛國心は決して他に譲らぬといふ事があつたが、それと同時に勤王といふ事が同じとだ、何事をするにも皇室はどうであらう、此觀念は恐らく外國の人には分るまい殊に亞米利加人などには分るまい、分らぬから悪いと言ふのぢや無い亞米利加には亞米利加の國體が有るから勝手だ、是は外國の人には殆ど分るまいと思ふが、我々には一番先きに浮ぶ問題である、基督教の事に付て話しても此教が帝室に對して不敬な事でもあつた日には大變な事だ、昔斯う云ふ話がある、獨逸民族の宗教だと思つたが、

宣教師の話を書いて信者になつた、其宣教師が教へるのに、お前は信者になつたから死ねば天國へ行くぞと言つた誠に難有い事であると言つて信じた、愈々洗禮を受ける時になつて先生チヨツと伺ふが此洗禮を受けなければ天國に行けぬのですか、左様だ私の親と先祖は未だ一人も洗禮を受けた者は無い、が先祖はどうなりませうか、先祖は何れも地獄へ陥つた、それぢや私は先祖に濟まぬから私も地獄の方へ参りませうと言つた話がある、(大笑)それで我々は基督信徒なる者が日本の皇室に對して不敬な事でもある様なれば私は妹が天國へ行つても御免を被ると言ひたい、然るに幸ひにも基督教は決して皇室に對して不敬な事をするものではない、基督教は決して共和政治を主張するものぢや無い、共和政治を主張する基督教徒は居らぬ、それは亞米利加には居るが日本には恐らく無い、一時基督教徒は兎角不敬をするといふ事を世の中から疑はれたものである、其疑はれた源となつたのは私の親友である、其親友の心情を察すればそんな心は毛頭無いのだ、寧ろ彼を責めた人よりも皇室に對して忠義の觀念の強い男である(拍手)此點に於てもモウ少し言ひたいが時が無いから措く。

第二に日本の宗教に對しては何うであるか此事は海老名さんが我々の知らぬ事を色々述べられて御説明があつたから私は省かうと思ふ。

第三に日本の國防上に何んな影響を及ぼすだらうか、陸海軍々備の事に付て基督教の力が有る筈が無い、軍備上直接貢獻は無からうと思ふけれ共、斯う云ふ事がある、基督教は先刻御話のあつた通り世



一六八

界主義でユスモボリタンである、國防など云ふ考は無からうと思ふが、昔斯う云ふ事があった、羅馬の將軍マーセルス大に感ずる所あつて基督信徒となつた、翌日練兵場へ行つて彼の預つた兵士數千人を集めて自分の佩びて居つた劍を投棄して、我は最早劍を以て戦はぬ、己は基督の信徒であると云つて公言したといふ話があります、そんな話を世間で知つて居るか知らぬが、兎に角基督信徒が云つたと言ふので戦さをやつても弱からう、一番先きに逃げるだらう、寧ろ敵の方に喰つ付きはしないか、戦争になつたら露探にでもなりはしないかといふ心配が大分あつた、戦争の例は日本の歴史に少く無い、近頃になつて外國と干戈を交へたと二度ある之に北清事件を入れたならば三度の言つても宜い、其間に基督信徒で裏切をした例があるか、基督信徒にオメ／＼敵に降参したといふ例があるか、さう云ふ例は恐らく聞いたことは無い、有つたならば國賊と云ふ聲は尙更強からう、さうしないでも國賊と言はれて居る、若し一つでも有つたならばそれこそどうも宣教師が話を大きくするところでは無い、それより酷い大きい疋を掛けて到る處に吹聴するのだけ共、捏造してもさう云ふ例は無い、其點に於て心配は無い、日本人は如何なる宗教家でも、如何に所謂外教を奉ずる者でも國に不忠をする心配は無い。

第四に移つて國防の關係に近は國際關係に付てはどう云ふ事を貢獻したかといふと、成程是も同じく國賊ぢや無いかといふ疑を受けて居るが、何か外交の事でも起るとアッチに喰付いて日本の不利益な

事をやりはしまいかと心配する人が居るが一向さう云ふ心配は要らぬ、さう云ふ事を心配する人こそチト怪しいと僕は思ふ、そんな考は何うして浮ぶだらうと思ふ、さう云ふ事を考へる位なら、奴やつそんな氣が少しは有るのだなと思ふ位だ、(笑)先刻から此點も御話があつたから喋々する必要は無いが、此事に付ても世の中に Christian diplomacy と云ふ事が有るが、大統領フィルモアが日本の陛下へ亞米利加と交りを開きたいといふ事を勧めた文に「My august friend and brother」とあつたと思ひます、斯う云ふ主權者と主權者の間に取交はす手紙に相互に兄弟だと言つて居る、或意味で言ふ、兄弟喧嘩をしても兄弟に違ひない、併し吾敵よと言ふよりも、嘘でも兄弟よと言ふ方が宜い、であるから此基督教を相互に奉じて居る處の國柄の交際といふ者は喧嘩はしても何處か又仲の美はしい處がある、それで國際法も善惡の標準を同じふする處で無ければ話が行詰つては仕方が無い、是は正しい是は悪いと言つて銘々勝手な事を言つて居つては話の纏りは附かぬ、兎に角表向き基督教を土臺とするといふ看板の國丈けの交はる國際法といふものである、だから佛教國などは國際法の仲間に入ること出来ない譯だ、近頃はさうぢや無い、佛教を標榜する日本の國でも基督教を大に標榜する英吉利と同盟し亞米利加と協商することになつて居るから國際法の關係が大變違つて來たといふことは是、暗々裡に基督教の御蔭と言はなくてはならぬ、併し強ち宣教師の御蔭といふ譯ぢや無い、そんなら宣教師は實際上に付て何もしないかといふとさうぢや無い、此點に於て宣教師には大に謝さねばならぬと思ふ、